



創立140周年に寄せて

佐渡市立八幡小学校創立140周年記念事業実行委員長
PTA会長 本間 俊

佐渡市八幡小学校は、創立以来140周年を迎えました。この間、平成16年に佐渡は合併し、佐渡市となりました。合併直後、市では学校環境整備検討委員会を立ち上げ、学校の統廃合について検討しました。統廃合計画の最終年度に八幡小学校も統合の話がありましたが存続することとなりました。

八幡地区の特色は自治会、分館連絡協議会、銀杏の会、青年会、育成会等の組織が機能していることです。その活動は地区や学校の活性化に大きく貢献してきました。春のチューリップ大作戦、登校指導、登山ボランティア、学区の見守り、運動会、芋掘り、学習発表会、もちつき大会等すべての行事に学区民や保護者からご協力いただいております。

また、先日はこれまでに経験したことのない大雪に見舞われましたが、登校路確保のため地区の方が自発的に、除雪してくださいました。児童にとって恵まれた教育環境の中で学校生活を送れることは大変幸せだと思います。保護者にとっては、誇りでもあります。

さて、創立140周年事業にあたり、実行委員会が取り組んだものは、記念式典、記念祝賀会、地域学習資料集の発刊であります。どの事業も多くの皆様からご協力いただき、初期の目的を達成することができました。特に「わたしたちの八幡」刊行に当たっては、多くの方々からご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

最後に、八幡小学校のますますの発展を願い、皆様の変わらぬお力添えをお願い申し上げ、創立140周年記念事業の御礼とさせていただきます。



地域学習資料集「わたしたちの八幡」刊行に寄せて

佐渡市立八幡小学校
校長 山崎 勝之

創立140周年の記念事業の一つとして、資料集「わたしたちの八幡」の改訂を企画しました。この度、多くの皆様のご協力を得て、刊行に至ったことを本当にうれしく思います。

初版「私たちの八幡」は、充実した郷土学習を進めるために、昭和45年3月に刊行されました。八幡の地理、歴史、産業、文化の学習に活用されました。平成7年、県事業「いきいきスクールプロジェクト」の予算で、「わたしたちの八幡」を改訂しました。平成15年にも、「わたしたちの八幡」の改訂を目指しましたが、実現しませんでした。今回の改訂に向けて、創立140周年記念事業実行委員会にご相談したところ、広く寄付を募り、併せて、地域の名士の皆様のお宅を訪問して寄付金を集め、刊行・配布の資金にすることになりました。寄付金を集める際には、私も同行させていただきましたが、地域の皆様の八幡地区に対する愛情、子どもたちにかける願いを強く感じました。心より御礼申し上げます。

今回の改訂では、資料集ではなく、教材集にすることを目指しました。教員のための資料としてだけでなく、子どもたち自身が読み、学ぶことができる教材集にしようとしたのです。学校と地区の歴史、産業、文化に加えて、地域を支える諸団体についての学習に使用することを想定しています。子どもたちが、地域の諸団体の活動について理解を深めることは、佐渡・八幡を愛し、貢献しようとする心の育成につながると考えたからです。

改訂版「わたしたちの八幡」の巻頭言に「近い将来、さらに新たな改訂版が作成されることを願っています」と書かれています。創立150周年事業として「新たな改訂版」が作成されることを願っております。

八幡小学校の140年のあゆみ

明治11年3月16日 八幡尋常小学校創立。初代校長、本間三千矛。

- 24年 2代校長、阿部美代松着任。
- 34年 3代校長、仲村億着任。
- 37年 4代校長、高野運平着任。
- 40年 5代校長、中川三吉着任。
- 43年 高等科(現在の中学2年まで)を併置し、八幡尋常高等小学校(小1～中2)となる。



中川校長
明治40年～



金玉校長
大正8年～



田中校長
大正8年～



小田校長
大正14年～

- 44年 校舎改築に着工する。
- 大正元年 中央校舎が落成する。
- 6年 第1回陸上運動会開催。
- 8年 6代校長、金玉英吉着任。
- 12年 7代校長、田中佳策着任。
- 13年 八幡農業補習学校創立。青年会との連合運動会開催。
- 14年 8代校長、小田広吉着任。
- 昭和元年 9代校長、土屋栄一着任。
- 2年 校旗樹立式を挙げる。
- 4年 10代校長、藤井広吉着任。
- 7年 11代校長、長林蔵着任。グラウンド開きを行う。校歌制定の許可を申請する。

大正12年の主な学校行事

4月4日・入学式 4月5日・始業式 4月6日・新任式
 4月25日・第2期種痘 5月1日・春季修学旅行
 5月21日・産業期休業(9月末にも1週間の休み)
 6月6日・第7回陸上運動会 7月17日・海水浴
 8月1～31日・暑中休暇 10月25日・秋季修学旅行
 12月3日・新入兵、除隊兵送迎式
 12月6日・音楽演奏会 1月25日・雪中運動会
 2月11日・第13回同窓会総会
 2月17日・学芸、展覧会 3月26日・卒業式



土屋校長
大正15年～



藤井校長
昭和4年～



長校長
昭和7年～



小林校長
昭和9年～

- 9年 12代校長、小林逸郎着任。
- 10年 学校給食が実施される。
- 12年 13代校長、牧野玄着任。
- 15年 14代校長、鶴間二一着任。八幡村立青年学校に改称。

- 17年 15代校長、菊池子三郎着任。本間市太郎氏がピアノ1台を寄贈。
- 20年 16代校長、宮田市郎着任。
- 22年 17代校長、菊地稔着任。八幡小学校に改称。八幡中学校開校。
- 23年 徽章選定委員会が帽章・バッヂを制定し、配付。
- 24年 18代校長、石塚省吾着任。子供郵便局開設。小中合同運動会。
- 26年 村岡美術賞を創設。



菊池校長
昭和17年～



宮田校長
昭和20年～



菊地校長
昭和22年～



鶴間校長
昭和15年～

- 27年 八幡中学校が独立校舎へ移転。
- 29年 町村合併より佐和田町立八幡小学校となる。
- 30年 校庭舗装道路完成。
- 31年 19代校長、小野稔着任。
- 32年 完全給食開始。
- 33年 国旗掲揚塔完成。
- 34年 笠井書道賞を創設。校内相撲大会開始。
- 35年 給食室落成。
- 36年 時報チャイム取り付け。
- 37年 鼓笛隊の誕生。
- 38年 温室完成。善行石設置。科学(石井)賞を創設。交通安全宣言校となる。



石塚校長
昭和24年～



小野校長
昭和31年～

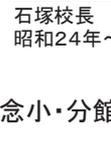


真藤校長
昭和40年～

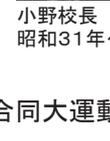


斉藤校長
昭和43年～

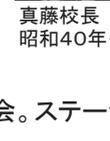
- 39年 新潟地震でグラウンドに避難。職員付き添い下校。本校舎が3度傾き、補強工事。
- 40年 20代校長、真藤利伸着任。グラウンド完成記念小・分館合同大運動会。ステージ落成式。
- 41年 佐和田派出所による自転車安全教室実施。
- 42年 席書会で書道賞を決定。90周年記念式典実施。校門、ステージ幕等寄付。
- 43年 21代校長、斉藤与一朗着任。海岸清掃。百字会(漢字テスト)実施。校内写生大会。
- 44年 大運動会(5/25)実施。公民館分館運動会(6/1)に児童参加。全校算数計算テスト開始。
- 45年 22代校長、高野吉左衛門着任。学区合同大運動会開始。自転車運転免許テスト実施。
- 46年 全校映写会。校内感想作文コンクール。一斉習字。
- 47年 郷音楽発表会、都市音楽発表会、校内小音楽会。
- 48年 23代校長、田辺茂着任。八幡地区大運動会実施。
- 49年 八幡地域子ども会育成会発足。信号機設置。
- 50年 24代校長、大和哲夫着任。6年男子つじヶ原キャンプ、スポーツ大会、キャンプファイヤー、夜相撲大会開始。



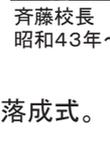
高野校長
昭和45年～



田辺校長
昭和48年～

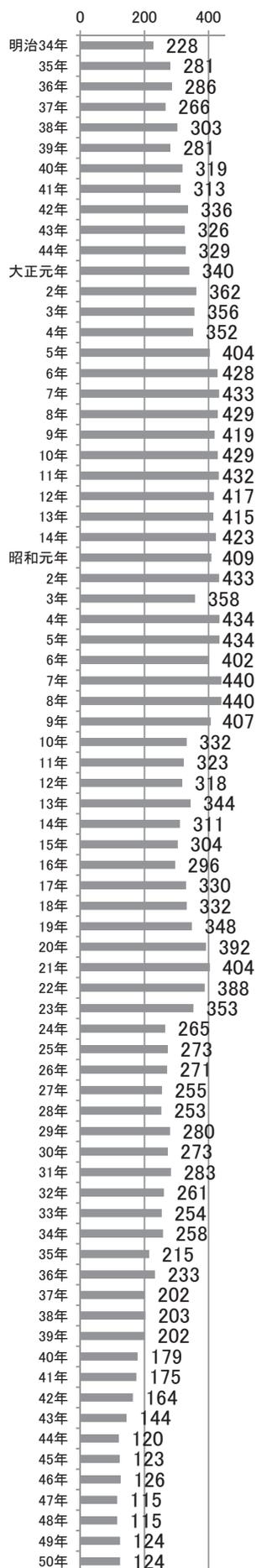


大和校長
昭和50年～



大和校長
昭和50年～

児童数の推移



51年 6年生素浜キャンプ開始。佐和田町少年野球大会で八幡ポッカーズ2年連続優勝。

52年 100周年記念式典。鼓笛隊パレード。カプセル格納。鼓笛引継式。

53年 25代校長、原昌着任。PTA主催第1回餅つき大会

54年 群馬交響楽団演奏会。あいさつ運動宣言記念大運動会実施。

55年 PTA親子魚釣り大会。

56年 校舎お別れ会(12/13)。八幡地区民新校舎参観日(1/31)。

57年 鉄筋3階建ての校舎新築。新体育館完成落成式を挙行。

58年 26代校長、石井武着任。なわとび大会開始。村山賞、準村山賞各1名、準牧田賞2名。ジュニア展特賞1名、優秀賞2名。

59年 プール完成祝賀会。「わたしの住む町」絵画展県知事賞1名。ジュニア展優秀賞1名。準牧田賞1名。

60年 「わたしの住む町」絵画展最優秀賞1名。ジュニア展特賞1名、優秀賞3名、県書初大会準大賞1名。

61年 27代校長、竹本忠郎着任。文弥人形鑑賞会。マラソン大会。ジュニア展優秀賞1名、準村山賞2名、準牧田賞1名。

62年 110周年記念式典実施。手紙作文コンクール信越郵政局長賞1名。

63年 5年6年遠足「緑の学校」。幼小保合同研修会。

平成元年 28代校長、小野栄着任。県リコーダーコンテスト銀賞。朗読発表会。

2年 県「豊かな心を育てる事業」で栽培、焼き芋大会。「八幡の白ガラス」上演。

3年 29代校長、小泉豊信着任。給食文部大臣表彰。佐渡地区学習指導研究会。

4年 30代校長、飯塚邦明着任。佐和田まつりに子供神輿が参加。

5年 県「いきいきスクール事業」でもち米栽培。バザーでサツマイモ販売。

6年 チューリップ染め(~23年)。八幡人形体験。リコーダー県器楽合奏大会BSN賞。

7年 31代校長、銅郁夫着任。「わたしたちの八幡」作成。器楽合奏県教育委員会賞。

8年 リコーダー県器楽合奏大会新潟日報賞。獅子ヶ城祭鼓笛隊参加。

9年 5年爪の沢自然教室開始。1~5年も素浜に参加。バザーで喫茶。

10年 32代校長、池田雄彦着任。テレビ会議授業。ステージ幕新設。5年潮津の里キャンプ。4年マイ・タウン・マップ・コンクール農林水産大臣賞。

11年 グラウンド竣工記念大運動会で全校組体操。新大生と文弥人形の製作、即興上演。6年修学旅行で浦佐スキー場雪国体験学習開始。

12年 体験学習田での田植え・稲刈り(最終)。佐和田町芸能祭参加。

13年 33代校長、伊藤喜一着任。学習指導(視聴覚)研究会開催。校舎側溝整備要望。「栄子文庫」齋川裕氏、「書道賞」笠井長晴氏に感謝状。

14年 6年会津若松市修学旅行。チューリップ花絵作り(~21年)。アルミ缶回収。海岸清掃。

15年 4年5年自然体験教室(隔年実施)。チューリップ大作戦、芋煮会開始。PTA合唱プロジェクト。佐渡市立八幡小学校になる。

16年 34代校長、本間秀雄着任。縦割遊び。サマースクール。全校登山(大平・金北)。

17年 東小千谷小6年との交流会。クロマツ500本植樹、チューリッププランター2000鉢植付後に八幡イモの芋煮会。全校登山(ドンデン山)

18年 八幡いも(山梨産、佐渡産)比較栽培。早稲田大学留学生交流会。

19年 創立130周年タイムカプセル開扉。タイム木箱を設置。佐渡の盆パレードに鼓笛隊参加(最終)。

20年 35代校長、北見仁着任。ソプラノコンサート。3~6年やはたの里訪問(最終)

21年 コカリナコンサート。かわせみ座公演。QUテスト年2回開始。5年単独潮津の里自然教室。国体野球観戦。みどりの森づくり事業。4年八幡いも掘り。登山中止。

22年 36代校長、新発田靖着任。学校保健委員会(学校医、歯科医、薬剤師、保健師)創設。学区を走るマラソン大会。「八幡・栄子文庫」創設。全校登山(ドンデン)。

23年 第3回佐渡環境賞受賞。佐渡の自然を奏でるコンサート。3年5年八幡いも植付、八幡いもアイス作り。

24年 37代校長、渡部栄二着任。読み読み(読書旬間)祭り。2・3年複式学級。

25年 人権キャラバン隊が来校。外物置を新築。佐州國の舞に参加。ジュニア展特賞1名。5年潮津の里自然教室(最終)。3・4年複式学級。

26年 特色ある教育実践校論文優秀賞。5年海外府民泊。市大縄大会参加。3・4年5・6年複式。

27年 市小学校複式学習指導研究会開催。学警連表彰「海岸清掃」。「金の道」調査パネルを佐渡博物館に展示。全校登山(金北山は最終)。3・4年5・6年複式。

28年 38代校長、山崎勝之着任。チューリップ大作戦を授業日とし、保護者も参加。八幡キャリア教育フォーラム開催。「みんなの学校」上映会。佐渡に学ぶ芸能・学習発表会に参加。幹線6号等排水路改修・R350信号機設置要望書。5年6年複式。

29年 春の草花を觀賞する全校登山。学校田で朱鷺と暮らす郷づくり認証米学習。創立140周年記念式典、タイムカプセル、祝賀会。改訂版「わたしたちの八幡」作成。



原校長
昭和53年~



石井校長
昭和58年~



竹本校長
昭和61年~



小野校長
平成元年~



小泉校長
平成3年~



飯塚校長
平成4年~



銅校長
平成7年~



池田校長
平成10年~



伊藤校長
平成13年~



本間校長
平成16年~



北見校長
平成20年~



新発田校長
平成22年~

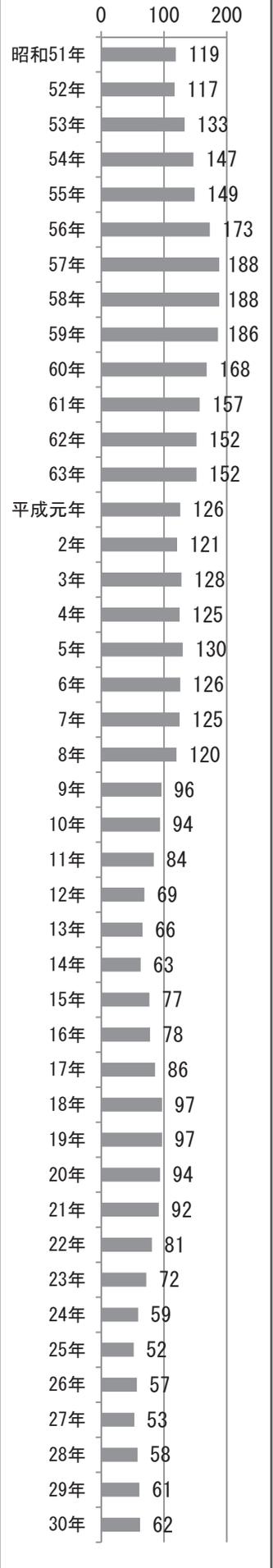


渡部校長
平成24年~



山崎校長
平成28年~

児童数の推移



八幡小学校ができたころ

八幡小学校は、明治11年3月16日に創立しました。八幡村の宝鏡寺の部屋を借りて勉強していたそうです。しかし、宝鏡寺が火事になり、明治11年9月からは本間三千茅校長と本間浜世先生の2つの家で勉強したそうです。明治12年3月には、小鷹忠八さんの家へ移り、明治14年3月には後藤小左衛門さんの家に移りました。明治15年8月、八幡宮境内にようやく校舎を新築することができました。明治25年には、八幡宮の東側(集落センターと職業訓練校の位置)に移りました。明治40年には、高等科(中1~2年)ができると教室が足りなくなりました。そこで、明治45年(大正元年)7月に、旧校舎の位置に中央校舎を新築しました。



建設中の中央校舎(明治45年)



西校舎ができる前の中央校舎



旧校舎の前庭

校歌の歴史と作詞・作曲者

校歌

二

心 雪 色 つ 学 寄 越 の
に も の 高 と も つ び の せ くの ぼ
い ち そ 深 き そ 進 道 お る 千 原 照 朝
そ て の 深 み わ の 進 道 お る 千 原 照 朝
し ま 清 さ り の な み に や 波 の 代 日
ま 清 さ り の な み に や 波 の 代 日
む

作詞 林 本
作曲 松 間
木 茂
世

昭和7年に校歌の作詞、作曲をいたしました。校歌として正式に認めてもらうために、昭和8年3月22日に新潟県に申請をしました。昭和8年8月21日、校歌制定の認可が出ました。

作詞者 本間 茂世(ほんま もちよ)

「佐渡名艦」(高屋次郎 昭和13年刊)によると、本間茂世さんは、八幡の生まれで東京國學院大学を卒業し、県外の中学校でも先生をされた方です。昭和6年に佐渡中学校を退職した後は、八幡宮の神職をされました。

作曲者 林 松木(はやし まつき)

林松木さんは群馬県出身で、東京音楽学校本科、甲種師範科を中退し、文検で音楽科教員免許状を取得しました。音楽を専門とする教員がいなかった時代、日本で最も早く音楽科教員になった一人です。昭和初期に新潟師範学校で音楽指導に当たっていました。県内各地の校歌を多数作曲したことで知られている有名な先生です。

校章の歴史と意味



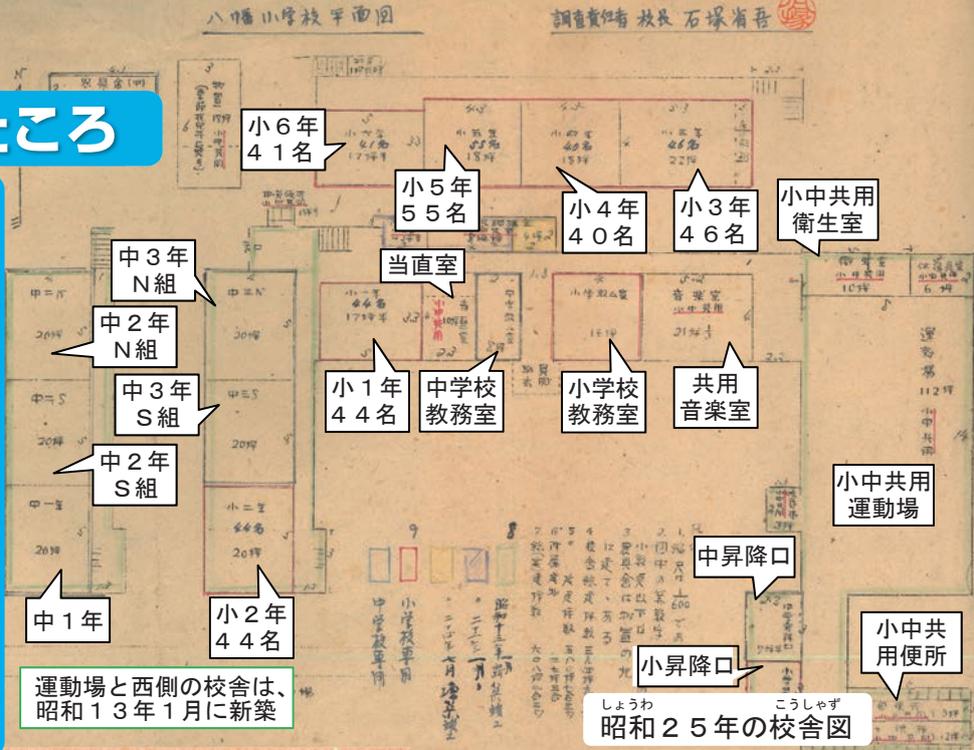
職員玄関に設置された校章

昭和23年7月31日、徽章選定会をつくり、新徽章の図案を公募しました。30点が集まりました。当選したのは、後藤信一さんの図案でした。以下のような意味がこめられています。この図案で帽章とバッジを作り、児童に配りました。

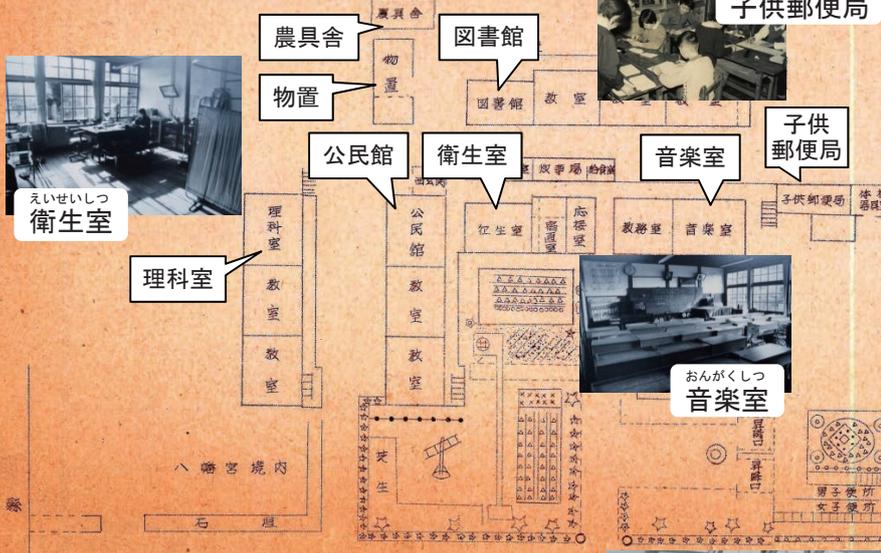
- ① 全体の輪郭は六角形にして、雪(純正潔白)を表している。
- ② 図案は鳩の形にして、平和と愛情を示している。
- ③ 3本のペンは、学問、真理、誠実を表している。
- ④ 直接の形は八幡の頭文字「Y」であり、中央に小学校の「小」をいれている。

八幡中学校ができたころ

昭和22年、新教育制度のもと、八幡中学校が開校されました。昭和27年までは小学生と中学生が同じ校舎の中で学習していました。かなり狭い状態でした。昭和27年、八幡中学校の校舎が現在の校舎の位置にできました。昭和32年4月、統合佐和田中学校ができると、その建物は使われなくなりましたが、昭和33年7月からは佐渡高等職業訓練校がその建物を使うことになりました。



中学校校舎新築後の校地図

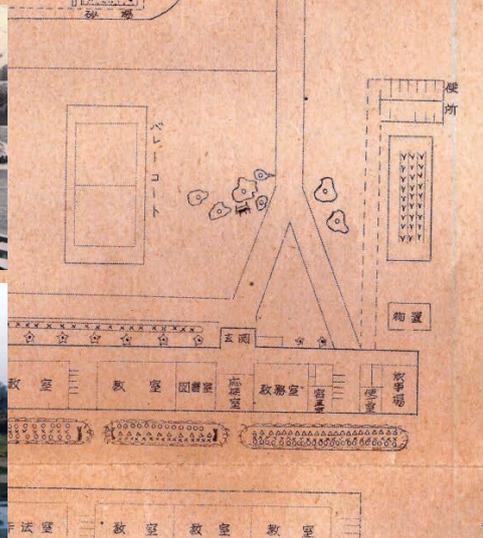
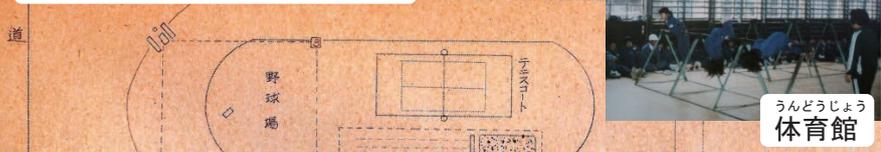


昭和56年12月13日 校舎お別れ会

明治45年以来、八幡の文化の中心、シンボルとして、長い歴史と伝統に支えられた現校舎も、今年を最後にその役割を閉じ、年明けの1月上旬に移転することになりました。式場では、式次第の進行につれて昔を懐かしみ、思い出の言葉、70年前から今に至るまでの当時の八幡小学校を偲び、全校児童による「お別れのことば」に、会場はずしずこころ、心から現校舎とのお別れを惜しんでいました。

※「町だより さわた」より引用
お別れパーティー職員14名、学区民208名参加。実行委員長は村岡鷹次様。

昭和29年の小中校舎校地図



昭和52年11月13日(日)

そう りつ 100 しゅう ねん ぎ ねん じ ぎょう

創立百周年記念事業

課題 しゅうねんぎょうじ 周年行事は、どのように祝われたのでしょうか。



アトラクション



タイムカプセル

① 創立百周年記念式典 11月13日(日)

1 創立記念式典

- ・記念品贈呈
- ・感謝状贈呈

2 ピアノ開き式典

- ・本間市太郎氏挨拶
- ・ピアノ演奏

独奏：中村毅(大学生)
 連弾：4年本間久恵・若林美香子
 独奏：6年若林加代子

3 アトラクション

- ・1,2年百周年音頭
- ・3,4年リズム運動
- ・5,6年合奏、合唱
- ・合唱サークル

4 祝賀会



創立記念式典

創立100周年に向けて、10年以上前から学校の環境を整えていきました。昭和43年2月18日には、創立90周年学芸会において、校門やステージ幕、紅白幕などを寄付してくださった方々に対して、感謝状を贈呈しました。

創立100周年記念事業実行委員長は、本間勝太郎(画家・光陽会会員)さんです。記念事業として、以下のことを行いました。特に、鼓笛隊が学区をパレードすることは、先進的な取組であり、新聞に大々的に取り上げられました。

② 記念鼓笛パレード



3～6年が鼓笛隊



専売公社と八幡館でおけさ

石田川から八幡館までパレードしました。佐渡おけさのアレンジ曲を作り、1、2年生は、はっぴで踊りました。青年会が交通整理をしました。

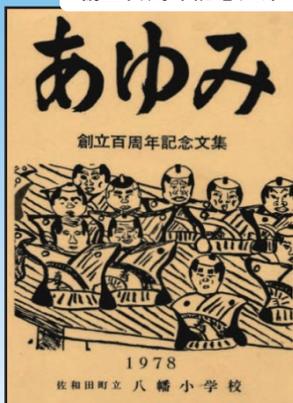
③ 記念運動会



明治、大正、昭和初期、昭和52年頃の服装

記念運動会では百年の学校の歴史をお祝いする種目を増やしました。たくさんの来賓、地域の皆様が見にいらっしゃいました。

創立百周年記念文集



記念行事について書いた子が多くいました。将来の夢も書いていました。

記念事業で作成したもの

- ・記念誌「同窓生名簿・百年史年表」
- ・タイムカプセル石碑「あゆみ」
- ・記念品「茶布巾」
- ・児童制作全戸配布「八幡人形」
- ・児童共同作品銅板打出し「校舎全景」
- ・記念作文集の発行



八幡人形の色塗り



背には八小百年の文字

片面の型で本物と同じ粘土で作りました。児童が手分けし、八幡の全戸に配りました。

平成19年8月12日(日)

そうりつ しゅうねん きねん

創立130周年記念

タイムカプセル開扉式

開扉式次第 進行：市橋範一 若林美恵子

- 1 開式のことば カプセル部長 本間 浩
- 2 挨拶 実行委員長(PTA会長) 計良雅章
百周年当時職員代表 佐藤初蔵
- 3 祝電披露 4 校歌・応援歌斉唱(伴奏：鼓笛隊)
- 5 カプセル取り出し 6 開扉 7 簡易展示
- 8 閉式のことば カプセル部副部長 鈴木伸二

祝賀会次第 会場：八幡館 進行：村岡通功

- 1 開会のことば 事業部長 本間東三夫
- 2 挨拶 八幡小学校長 本間秀雄
卒業生代表 石井京介
- 3 乾杯 実行委員会副委員長 小池雄一郎
- 4 思い出を語る 各学年代表
- 5 閉会のことば カプセル部長 本間 浩



タイムカプセルに入れていたもの

- ・「同窓生名簿・百年史年表」
- ・寄付者名簿
- ・趣意書、式典案内状、式典要項、参加者名簿
- ・式典アルバム
- ・式典スライド(127枚)
- ・式典の式辞、祝辞
- ・児童作品八幡人形3個
- ・銅板打ち原図
- ・文集「あゆみ」2冊
- ・社会科教科書52年度版2年～6年
- ・S53.3.16付け新潟日報、朝日、読売、毎日、スポーツ新聞



大人鼓笛隊の伴奏で校歌を斉唱



八幡人形



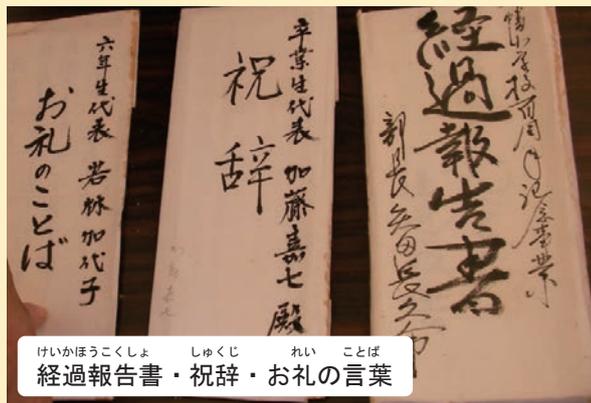
アルバム・スライド



学年ごとに記念撮影



カプセルから出して整理



経過報告書・祝辞・お礼の言葉



参加者(百周年当時の学年)



PTAタイム木箱

6年14名、5年11名、4年18名、3年10名、2年11名、1年13名

創立百周年記念事業実行委員会名簿

- ・実行委員長 本間勝太郎
- ・副委員長 大和哲夫(記念誌部長)、矢田長久命
(カプセル部長)、若林オー(式典部長)
- ・総務 村岡鷹次、本間将
- ・会計 稲辺嘉孝
- ・事務局 石川春夫、鈴木金五

教育三賞

びじゅつしょう しょう どうしょう か がくしょう
美術賞・書道賞・科学賞

か だい 課題 きょういくさんしょう ねが
 教育三賞には、どんな願いが
 こめられているか。



むらおかしょう きねんさつえい
 村岡賞の記念撮影



いけだ いつどうさく ちゅうどう
 池田逸堂作の 銅
 「天馬図案壁掛け」

だい かいむらおかしょうさくひん せいぶつ
 第1回村岡賞作品「静物」

美術賞(村岡賞)の歴史

しょうわ や はたしんまち むらおかしょう かいがきょういくしんこう
 昭和26年、八幡新町の村岡鷹次さんが絵画教育振興
 のため、優秀作品表彰基金として、1万円(現在の価値
 で30万円程)を寄付していただきました。その預金利
 子を賞品に充てるという方法です。賞品は、河原田町の
 鋳金家、池田逸堂氏(昭和25年度の日展で特選入選。
 澤根町の宮田藍堂氏門下。)作の鋳銅「天馬図案壁掛」
 という高価なものだったそうです。

だい かいむらおかしょう しん さいん せきかわとし おし ようが か
 第1回村岡賞の審査員は、関川敏雄氏(洋画家)、
 本間勝太郎氏(美術科教員、洋画家)、渡部茂雄氏(美
 術科教員)でした。その後は、村岡さん、池田逸堂氏も
 審査員になったようです。第1回表彰は、村岡賞1名、
 金賞10名、銀賞30名でした。当時の児童数は250
 名ほどですから、2割ほどの児童が入賞していました。
 昭和30年、村岡さんの申し出により「村岡賞」を「美
 術賞」と改めました。昭和55年、美術賞第30回を記念
 して、村岡さんより美術賞基金10万円が寄付されまし
 た。この年から美術賞作品は、校内展示2年間、特賞の
 校内展覧は1年間となりました。

へいせい びじゅつしょう てい ちゅう こうがくねん めい
 平成6年からは美術賞が低・中・高学年より1名ずつ
 となりました。この選び方が現在まで継続しています。
 現在の審査員は、絵画の指導者である伊藤秀昭氏です。

歴代の受賞者

- 昭和26 稲辺潮子
- 昭和27 本間ケイ子
- 昭和28 安藤嘉代子
- 昭和29 若林厚子
- 昭和30 若林宏亮
- 昭和31 本間修
- 昭和32 梶田俊一
- 昭和33 若林鋼二
- 昭和34 本田洋一
- 昭和35 加藤すみ子
- 昭和36 本間郁夫
- 昭和37 本間泰則
- 昭和38 本間聡美
- 昭和39 若林みゆき
- 昭和40 北見陽子
- 昭和41 本間庸子
- 昭和42 本間章弘
- 昭和43 石井美也子
- 昭和44 伊里郁乃
- 昭和45 清水泉
- 昭和46 本間広巳
- 昭和47 若林啓子
- 昭和48 梶田洋二
- 昭和49 矢田長智
- 昭和50 若林美香子
- 昭和51 本間弘美
- 昭和52 本間健司
- 昭和53 近田真由美
- 昭和54 関川理英
- 昭和55 安達哲雄
- 昭和56 若林孝一
- 昭和57 安達友紀
- 昭和58 馬道 忍
- 昭和59 中川飛香
- 昭和60 本田結香
- 昭和61 後藤京孝
- 昭和62 安達由紀美
- 昭和63 安達さおり
- 平成1 本間桂子
- 平成2 石井裕子
- 平成3 大久保昌至
- 平成4 渡辺麻里子
- 平成5

賞 八幡村役場に勤めている村岡
 次さん(財務係)は子供らの繪
 が好きだった、それで村岡さん
 は、子供らが、良い繪が描けるよう
 と小学校に一万円を寄贈した、小
 学では大いに感激、一萬円を預金し
 て、その利子で年一度コンタールを
 開き、その第一回受賞者として六
 年生の稲邊潮子さんが(静物、水
 彩画)選ばれ、池田逸堂氏の懸
 掛けがおくられた

佐渡新報の記
 事



しょうわ だい かいびじゅつしょう
 昭和35年第10回美術賞
 さくひんめい ちょうり
 作品名「たばこ調理」



きねん とくせん
 第20回記念は特選5名

美術賞が3名になった以降の受賞者

年度	低学年	中学年	高学年
平成6年	石井直樹	金子真輝	安達雅秀
平成7年	川原みゆき	齋川庄太	中村茉莉
平成8年	内田美希	齋川昂太	渡辺 稔
平成9年	本間友弥	遠藤真知子	高野真友
平成10年	風間聡志	後藤佑希	三輪 綾
平成11年	本間巧美	臼木 悟	小川美奈未
平成12年	大坪翔子	永野寿樹	本間奈央
平成13年	大塚菜摘	齊藤麻優香	多田 舞
平成14年	鈴木直哉	多田 凌	長谷真宏
平成15年			
平成16年	村尾航太	大塚菜摘	本間彩花
平成17年			

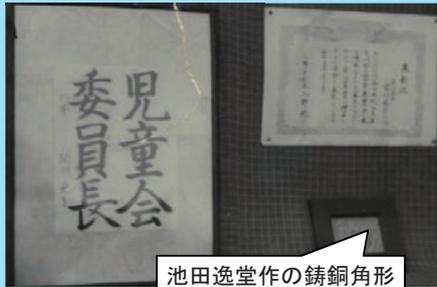
年度	低学年	中学年	高学年
平成18年	増金拓也	加藤瑞妃	大塚菜摘
平成19年	本間くるみ	大地香澄	今信大介
平成20年		若林海斗	大地香澄
平成21年	近藤万桜	田中 翔	柴田風七
平成22年	高橋 樹	山本遊太	
平成23年	近藤慎一郎	山本遊太	岩崎妃香
平成24年	近藤可莉枝	鶴間菜穂	川端麻衣
平成25年	本間瑞希	伊藤海翔	本間祐伊
平成26年	中山愛莉	池田妃那	阿部博斗
平成27年	池田汐那	若林那菜	近藤慎一郎
平成28年	山本莉瑚	内藤 聖	伊藤海翔
平成29年	矢田菜祐	平山那央	本間 結

書道(笠井)賞の歴史

書道(笠井)賞の歴代の受賞者



しょうわ だい しょうどうしょう
昭和34年第1回書道賞



池田逸堂作の鑄銅角形「天馬図案壁掛け」

しょうわ やはた かさい しゅうじきょういっしんこう
昭和34年、八幡の笠井スエさんが習字教育振興のため、優秀作品表彰基金として2万円を寄付してくださいました。その預金利子で賞品を買い、贈呈しました。賞品は、美術賞と同じで池田逸堂氏の楯でした。そのため、同時に美術賞と書道賞をもらうことはできず、またそれぞれ在学中に1度だけしか受賞できません。池田逸堂氏から老齢のため制作困難との申し出がありました。村岡さんの意向を受け、平成2年からは本間琢麿氏の制作した楯「海馬銅額」(15,000円)を贈呈しました。午前には席書会、午後には審査会を行い、文化祭に展示しました。審査員は、佐渡高校の齋藤瑛明氏と佐和田中のかさいながはるし、しょうどうしょうさくひん かん てんじ 笠井長晴氏でした。書道賞作品は2年間、展示しました。

年度	学年	氏名	文字
昭和34年	6年	関川光子	児童会委員長
昭和35年	6年	計良直子	児童会委員長
昭和36年	6年	尾上洋子	歴史の町見学
昭和37年	6年	田中曠子	美術館音楽堂
昭和38年	6年	本間敏也	交通信号注意
昭和39年	6年	後藤輝子	歴史の町見学
昭和40年	6年	石塚誠子	未知の世界
昭和41年	6年	浜田一栄	未知の世界
昭和42年	6年	野上愛子	大地に立つ
昭和43年	6年	本間祐子	大志
昭和44年	6年	本間 享	万国交流
昭和45年	6年	鈴木新一	佐渡の秋
昭和46年	5年	鈴木忠	明るい町
昭和47年	5年	本間克彦	日本列島
昭和48年	6年	若林啓子	白い燈台
昭和49年	6年	矢田浩	自然の美
昭和50年	4年	若林加代子	木の実
昭和51年	4年	若林利雄	水玉
昭和52年	3年	本間全	あゆみ
昭和53年	5年	本間久恵	秋の七草
昭和54年	4年	矢田純恵	白い花
昭和55年	5年	酒匂るみ	花さく里
昭和56年	4年	安藤費代	白い雲
昭和57年	4年	山口弘樹	お祝い
昭和58年	3年	岩崎綱代	ふじ山
昭和59年	3年	本間俊也	
昭和60年	6年	本間久美	
昭和61年	6年	渡辺俊晴	文化の光
昭和62年	6年	河口真由美	創立記念
昭和63年	6年	野上裕子	島の秋草
平成元年	6年	柳本美奈子	
平成2年	6年	大矢真由美	
平成3年	3年	本間正義	
平成4年	6年	坂下守	
平成5年	6年	中川優子	



しょうわ だい しょうどうしょう
昭和40年第7回書道賞



しょうわ だい しょうどうしょう
昭和52年第19回書道賞

年度	低学年	中学年	高学年
平成6年	2年三輪志織	4年若林紘子	6年鈴木みつえ
平成7年	2年鈴木めぐみ	4年本間直彦	6年石井真奈美
平成8年	2年本間由加里	3年中村英莉	6年三輪幸太
平成9年	2年加藤直	4年野明川俊	6年本間直彦
平成10年	2年磯西愛	4年遠藤一樹	6年寺島愛姫
平成11年	2年山岸香菜	4年加藤直	6年田辺友里
平成12年	2年多田凌	4年磯西愛	6年本間由加里
平成13年	2年梶田真里	4年村尾祐樹	6年本間藍夏

科学(石井)賞の歴史

しょうわ かがくしょう はじ きろく のこ
昭和38年、科学賞が始まった記録が残っています。教育三賞と呼ばれ、文化祭で表彰されています。獅子の鑄銅の楯が賞品でした。

年 度	学 年	氏 名	内 容
昭和38年	6年	本間泰則	研究発表「自転車によるほこり」
昭和39年	6年	若林祥子	植物標本
昭和40年	4年	中村 毅	研究発表「池のあくぬき」
昭和41年	4年	斎藤俊明	研究発表「アマガエルの保護色」
昭和42年	6年	遠藤久昭	発明工夫「柄継式すすはらい」
昭和43年	6年	加藤 透	発明工夫「考案 ちり取り」
昭和44年	4年	後藤尚子	研究発表「水温と魚の呼吸や活動」
昭和45年	6年	遠藤秀子・石井京子	研究発表「せんの研究」
昭和46年	2年	青柳庄一	研究発表「ネムの木の研究」
昭和47年	2年	後藤康志	昆虫標本「スズムシの標本」
昭和48年	6年	石井美也子	植物標本「こけの標本」
昭和49年	6年	青柳義子	植物標本「薬用植物標本」
昭和50年	6年	榎多津江	生物標本「貝の標本」



だい かい かがくしょう
S38 第1回科学賞



さいご かがくしょう
S50 最後の科学賞



だい かい かがくしょう しょうじょう たて
S40 第3回科学賞の賞状と盾



だい かい はつめいくふう
S42 第5回は発明工夫



だい かい しょうくぶつひょうほん
S48 第11回は植物標本

八幡地区の佐渡市指定文化財

課題 八幡地区の指定文化財にはどのようなものがあるか。

順徳上皇お腰掛けの松

承久の乱(1221年)で幕府軍に破れた後鳥羽上皇は隠岐の島に配流され、順徳上皇(第84代天皇)は佐渡に配流されました。順徳上皇は、藤原定家の弟子であり、百人一首に「ももしきや ふるきのきばのしのぶにも なほあまりある むかしなりけり」という和歌が選ばれています。

八幡にお住まいになった際には、この松に腰掛けて八幡海岸を眺められたと思われま。雪の高浜という風流な名称も順徳上皇が名付けたと言われています。国府川下流のススキの穂が一面に茂り、まるで白い雪のように見えたことから、八幡海岸を「雪の高浜」と名付けられたそうです。※「八幡村史」より



順徳上皇お腰掛けの松



お腰掛けの松と八幡保育園



百人一首の順徳上皇の和歌

佐渡市指定有形民俗文化財「八幡人形型」

八幡人形は、村岡文慶が染色を学ぶため京都を訪れた際に、伏見人形の魅力にみせられて、江戸時代末期の頃から京都の伏見系の土人形を佐渡で製作販売したことに始まりま。このうち現在残っている104点の土製及び木製の型が佐渡市の文化財に指定されています。人形の製作は、まず前後の型にそれぞれ土を埋めこみ、平らになったところで型から抜き、これを合わせて一個の人形とします。それを素焼きして着色したものが八幡人形です。佐渡における八幡人形は、雛人形として親しまれたほか、福助・恵比寿・大黒などは縁起物として評判がよく、郷土玩具として広く島外へ売り出されました。



「福助」前後の型



校長室の「天神様」・村岡さん寄贈



「稲荷」の前後の型



本間正博さんが人形の型を保管



村岡鷹次さん所蔵の雛人形



「大黒」前の型

佐渡市指定記念物 史跡「八幡砂垣」

八幡地区はかつて荒れ果てた砂原で、風の激しい時は金井地区まで砂が飛び、国仲の農作物に被害を与えていました。八幡砂垣は、砂被害の対策として佐渡奉行所が1643年に築らせたものです。

古い文献によると、設置当時の砂垣は長さが1町(110m)あるいは2町(220m)、幅が7間(12m)、8間(14m)を単位とした柴垣を組み、その中に砂を詰め小松を植えました。

この作業には、地元の八幡のほか、砂の被害が大きかった村からも人夫が出され、1日につき米5合(500円以下)の給与で作業に当たられたと記録されています。砂垣づくりについては歌詞に「八幡砂垣三年廻り 今年はゆい年ゆわれ年」(結う、しばる意味)とうたわれているように、3年ごとに柴垣の結び替えと松の補植が行われました。その監視のために、砂垣守も置かれたそうです。

1km以上の砂垣が3列で、松も成長し、砂の害を防ぎました。

1736年、山田村本間太郎右衛門・後山村与三兵衛ら7人が奉行所の許可を得て、国府川付近の砂丘を開発し、翌2年に新しく辰巳村が誕生しました。この村名は、元文元(辰)年と同2(巳)年の干支にちなんで命名されたものです。※「八幡村史」より



文献をもとにした砂垣づくりの作業の想像図



砂の飛散を食い止めている現在の柴垣



八幡砂垣と美しい松林



八幡砂垣のおよその位置(本間浩様作成)

佐渡市指定無形文化財 工芸技術「八幡箆笥製造技術」

八幡桐箆笥は、佐渡の代表的な和箆笥で、江戸時代に始まったと考えられています。八幡には桐細工を行う家が多くあり、江戸時代、小木に箆笥の製作技法が伝わるとこれを習い、桐箆笥を作り始めました。八幡産の桐材を使い、接着には飯糊、釘は錆びるので木釘を使います。隙間ができないように少し大きめに作り、かんなどで削りながら組み立てます。空の引き出しを押し込むと上下の引き出しが空気圧で飛び出すほど精巧です。湿気(水)や虫、火に強く、衣服をカビや虫食いから守ります。技術者は萩原弘さんお一人ですが、今でも桐箆笥の修理等を行っています。

※「ふるさとの伝統工芸 八幡箆笥」より



かんなどで調整して前板をはめる



金具を付ける萩原弘さん



高さ3尺1寸3分で28万円



さわた文化祭に出品した婚礼箆笥

八幡地区の美しい景観を守る

課題 **八幡地区の景観は**
どのように守られてきたか。

国府川や石田川が運び、積もらせる土砂により、八幡地区の砂浜は少しずつ広がっていきました。順徳上皇が佐渡で暮らされた鎌倉時代、海岸線は八幡宮からそれほど遠くない位置にありました。八幡宮の前の浜を「雪の高浜」と呼んだという文献があります。同じ頃、「越の松原」の名称も使われました。



襖絵に描かれた「越の松原」

「越の松原」が松食い虫によって消えた

昭和61年、佐渡でも松食い虫の被害が発生しました。平成10年頃には、越の松原もほとんど枯れてしまいました。風や砂の被害で野菜やチューリップなどの栽培にも悪い影響が出ていました。



枯れる前の八幡宮海側の松林



ほとんど枯れた八幡宮海側の松林

緑の百年物語と「よみがえれ松」の会

平成11年、にいがた緑の百年物語-木を植える県民運動-が始まりました。それを受け、松林再生のために「よみがえれ松」の会が結成されました。松食い虫抵抗性赤松を毎年植え続けました。松林は見事によみがえりました。



植樹準備をした八幡宮海側の松林



再生した現在の八幡宮海側の松林



銀杏の会も結成時から松を植樹



畑を守る松林も松食い虫で枯れた



植え付け直後の苗木

雪の高浜を守る



銀杏の会主催の海岸清掃



「雪の高浜」も銀杏の会が管理



「雪の高浜」にある夕日の森公園

八幡いもの復活

課題 八幡いもをどのように復活させたのか。

砂浜が広がり、砂垣と松林ができると八幡の人々は野菜を栽培するようになりました。八幡は、野菜栽培の先進地でした。八幡いもは特に有名で、相川奉行所にも納めました。本カタウリ、茄子、小角豆、青物等を販売する人は昭和30年頃から減り、45年頃には15人程度になりました。兼業での稲作やチューリップ・タバコの栽培に替えたためです。



芋煮を配膳する子どもたち

荒れた畑で八幡いもの復活

タバコやチューリップ栽培が減ってくると、何も栽培せず放置される畑が増えました。そこで、芋煮会で好評な、佐渡の伝統野菜「八幡いも」を復活させる案が出されました。銀杏の会は八幡いもの復活に向けて動き出しました。

八幡いもの栽培



①種芋を砂山に保管し、冬越し



②3月頃、種芋の芽出し

「八幡いも」再生プロジェクト

佐渡農業改良普及センターで保管されていた種芋を手に入れ、八幡いもの栽培方法を研究しました。現在は、そうして栽培した八幡いもを使って芋煮会を行い、伝統野菜「八幡いも」のおいしさを多くの人に知ってもらおうとしています。遠藤久昭さんが栽培した八幡いもは、佐和田地区と相川地区の給食に使われ、普及に貢献しています。再び脚光を浴びた八幡いもは、エコープやホームセンター等で販売されるようになりました。生産量が少ないので、佐渡島内での販売が中心です。



③ワラや堆肥を入れ、畝を作る



④マルチで育て、水を絶やさない



⑤収穫し、食用と種芋を選別する



⑥各行事に合わせて芋煮会を開催

銀杏の会の協力で八幡いも栽培

通常の里芋は水田のような粘土質で育てますが、八幡いもは水はけのよい砂地で栽培します。八幡いもは長細い形が多く、粘りが強い特徴があります。



①植え付け



②草取り



③収穫



④皮むき

八幡地区の農業

米作り、葉たばこ、チューリップ栽培

課題 八幡地区の農業はどのように変化してきたのか。

八幡堤と新田開発

八幡地区には、江戸時代に作られた水田が多くあります。稲は、水がなくては育ちません。用水は、上流の水田が使ってしまいますので、下流の八幡は水不足になることが多かったのです。1662年、相川奉行所留守居役の奥野七郎右衛門は、荒地を水田にするため八幡堤を作りました。八幡堤は、縦300m、横110m、深さ2mほどでした。これにより、新しい水田がたくさんできました。

辰巳に水田を作ったのは、中間太郎右衛門です。1736年、奉行所に申し出て開墾し、松を植えて砂を防ぎ、水田と畑を作りました。その畑では、タバコや八幡いもなどが作られ、相川で働く人に売ったそうです。

1692年には、90haだった田畑が、1845年には169haまで増えました。



朱鷺と暮らす郷認証米生産者の加藤慎一さんの水田で稲作体験



現在の八幡堤(ため池)



昭和10年頃の八幡堤の修復作業

先進的な農法と補助金

離島である佐渡の農地を守り、生物を守る農法をしている農家には様々な補助金が出ています。①共同作業で水路や農道を守る ②生物多様性の保全 ③化学肥料、農薬を減らし堆肥を使うなどの農法です。



八幡ため池(受益面積103.3ha)

八幡堤(ため池)の水が届いている農地

朱鷺と暮らす郷づくり 認証制度と世界農業遺産

- 以下のような「生きものを育む農法」により、多くのトキが佐渡の空に復活しました。
- ① 水抜き時期もため水がある江を掘る。
 - ② 生物が田と水源を行き来する魚道作り。
 - ③ 冬も田に水を入れる(ふゆみずたんぼ)。
 - ④ 休耕田に水を入れる(ビオトープ)。
 - ⑤ 無農薬・無化学肥料 ⑥ 無除草剤

これらの農法で、棚田景観の保全や農村文化の継承が進み、日本初の「世界農業遺産」として認定されました。

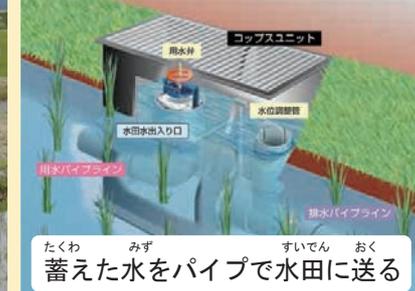
県営圃場整備事業で水田1枚を広げ、パイプで配水する省力化を実現した。



八幡堤の水を池に蓄え、ポンプで水田へ送り、田を潤す



認証制度は年2回生き物調査が必要



蓄えた水をパイプで水田に送る

八幡地区の耕作地

八幡地区の耕地面積は、昭和25年には、
222haまで広がりました。宅地開発や
道路の拡張等で耕作地は減少してきました
が、米や葉タバコ、チューリップ等の安定
して多くの収入が可能で作物を作りました。

葉タバコの栽培

八幡地区で葉タバコの試験栽培が始まっ
たのは昭和29年です。公民館長関川敏雄さ
ん、八幡村長遠藤真一郎さんが尽力し、国の
耕作許可を得ました。昭和31年、八幡新町
に日本専売公社佐渡出張所、葉タバコ取扱所
ができ、八幡の全農家の80%が生産する
ようになりました。葉タバコ栽培は、米より
も高い収入になったのです。昭和45年頃
から耕作者が減り、平成12年には5ha程
になり、今は小木だけで耕作されています。
八幡在住者では、本間正克さんたちが平成
19年まで耕作を続けていました。

作付け面積の移り変わり

作付け面積	米	葉タバコ	チューリップ
昭和43年度	140ha	45.0ha	7.0ha
平成6年度	105ha	9.7ha	16.5ha
平成29年度	104ha	四日町の知本規春さんがH23年まで栽培	1.2ha



関川さんの胸像



80%の農家が葉タバコを栽培



稲辺嘉孝さん等の専売公社職員の指導で女性でも栽培できた

チューリップの栽培

八幡の畑はチューリップ栽培に適し、質のよい
球根を他の産地よりも早く出荷できました。
昭和6年頃には、20ha程の耕作面積がある
など、古くからチューリップ栽培が盛んでした。
戦争の影響により、一時は桑やサツマイモなどを
栽培しましたが、昭和26年から再びチューリッ
プ栽培が始まり、組合を結成して栽培面積を増
やしました。平成6年頃は、葉タバコをやめて
チューリップだけを栽培する農家が増え、耕作面
積は増えました。この頃は、チューリップ栽培を
学習し、チューリップ染めを体験しました。今は、
佐渡球根組合長の石井孝良さんを中心に新品種の
栽培もしています。



米とチューリップ栽培は忙しい時期が重ならない利点がある



球根を育てるため満開1週間摘花



染織作家の西橋春美さんの指導でチューリップ染めを行った



後藤孝治さんの畑でチューリップ鑑賞

子どもの社会性と規範意識を育成する 八幡地区子供育成会

課題 子供育成会は、人とかかわる力を育てるためにどんな活動をしているのでしょうか。



いつから、どんな活動をしていたのだろう

八幡地区子供育成会は、昭和45年に作られました。昭和50年、6年男子が参加するつつじヶ原キャンプ、全校児童が参加するスポーツ大会、キャンプファイヤーを始めました。昭和51年からは6年女子も参加し、素浜海岸でキャンプをするようになりました。平成9年からは、1～5年生も素浜キャンプに参加できるようになりました。昭和50年は、子ども夜相撲大会も始めました。青年会の夜相撲大会の出場者が少なくなっており、開催されない年もあったので子供育成会が引き継ぐことにしたそうです。子供樽神輿は、昭和57年に始まり、授業日でも実施しています。八幡祭りの重要な行事です。



八幡地区子供育成会の主な活動

- 3月 会長、副会長、会計の引き継ぎ会を行う
- 5月 総会を開き、事業計画を検討する
- 5月 八幡地区市民運動会の育成会種目を運営する
- 7月 育成会キャンプを開催する
- 8月 八幡夏祭りのカラオケ大会を手伝う
- 9月 八幡宮奉納子供夜相撲大会を開催する
八幡祭りの子供樽神輿を運営する
- 11月 チューリップ大作戦を手伝う
- 12月 子供会連絡協議会「おこなわとび大会」に出場

伝統の継承と健全育成に貢献した歴代会長

H30 菊池伸明	H18 本田 聡	H6 榎 義弘
H29 池田高明	H17 本間一紀	H5 計良勝博
H28 高木 忍	H16 長島雅人	H4 本間俊一
H27 近藤明寛	H15 加藤克己	H3 坂本壮市
H26 高橋政臣	H14 永野寿永	H2 安達 茂
H25 石井京介	H13 清水義明	H1 安達 勇
H24 本間正義	H12 遠藤久昭	S63 後藤孝治
H23 本間 浩	H11 加藤恒雄	S61~62 本間正博
H22 磯西 勉	H10 加藤慎一	S59~60 矢田昭三
H21 稲辺茂樹	H9 金子輝夫	S57~58 本間道夫
H20 本田和彦	H8 若林博之	S55~56 計良秀昭
H19 大林和昭	H7 本間 攻	S45~54 稲辺嘉孝



育成会種目借り物競走



毎年好成績のおこなわとび大会



チューリップ大作戦の手伝い

40年以上続く育成会キャンプ! たくさんの保護者も参加



たいいくかん せっち
テントを体育館に設置



おこなべ
大鍋でカレーづくり



しゅうらく しよくじ
集落センターで食事

へいせい かん き ぼうしやせんいん そ ばま じょう い てんこう わる しゆくはく
平成26年までの18年間、希望者全員が素浜キャンプ場に行っていましたが、天候が悪くて宿泊できないことも多く、集落センターが完成したこともあって体育館に宿泊することになったそうです。

八幡宮奉納 子供夜相撲大会



いけやすひろ しどう
池泰裕さんの指導



ぎょうじ れんしゅうかい さん か
行司も練習会に参加

でんとう ひつ
伝統を引き継ぐ



ほんかくてき そんきょしせい
本格的な蹲踞姿勢



てづく どひょう
手作りの土俵

夜相撲大会の優勝者(バナーの氏名を転記)

年度	トコフネ	学年	カブ(小学校)所属	学年
29年	山本涼介	5年生	近藤みわ	5年生
28年	平山琉	6年生	堀田夏穂子	6年生
27年	渡邊駿太郎	6年生	高木向日葵	5年生
26年	本間翔	6年生	渡邊梨音	5年生
25年	駒形蓮	6年生	渡邊梨音	5年生
24年	余湖正崇	6年生	本間美有	5年生
23年	小池拓哉	6年生	本間美有	5年生
22年	本間隆太	6年生	本間美有	4年生
21年	祝彌人	6年生	高橋映彩	6年生
20年	仲岡巧	6年生	本田秀美	6年生
19年	余湖央准	6年生	長島七瀬	6年生
18年	計良天太	6年生	本間めい	6年生
17年	計良陸希	5年生	本田愛莉	5年生
16年	本間吉徳	6年生	長島彩香	6年生
15年	本間吉徳	5年生	本間彩花	6年生
14年	永野寿樹	6年生	本間彩花	5年生
13年	加藤直	6年生	本間奈央	6年生
12年			遠藤一樹	6年生
11年			本間早也加	6年生
10年	後藤梨沙	6年生	風間信吾	6年生
9年	遠藤一樹	3年生	遠藤武志	6年生
8年			三浦聡史	6年生
7年	第2回優勝 加藤匡人(H11年度6年生)		本間研	6年生
6年	第1回優勝 佐々木雅俊(H11年度6年生)		本間研	5年生
5年	第2回八幡子供会相撲大会優勝 武井成夫(昭和58年度6年生)		本間孝之	6年生
4年			本間香澄	6年生
3年	第1回八幡子供会相撲大会優勝 萩原隆行(昭和58年度6年生)		本間正義	6年生
1年			本間剛	6年生
昭和63年			萩原健広	6年生



ていちゅうこうがくねんだんじよべつゆうしうしや
H29・低中高学年男女別優勝者

八幡祭りを盛り上げる子供樽神輿



あらじょう や はたまち さとほうもん
荒城・八幡町 やはたの里訪問



ちゅうおう い も の まち かどづけ ごしゅうぎ
中央・田望・野町 門付してご祝儀

ちいき こうけん
地域に貢献する



やはたしんまち ね ある
八幡新町 グラウンドを練り歩く



いわの しんでん たつみ や はたかん
岩野・新田・辰巳 八幡館まで

こどもいくせい かい かいちよう
子供育成会会長
いけだ はなし
池田さんの話

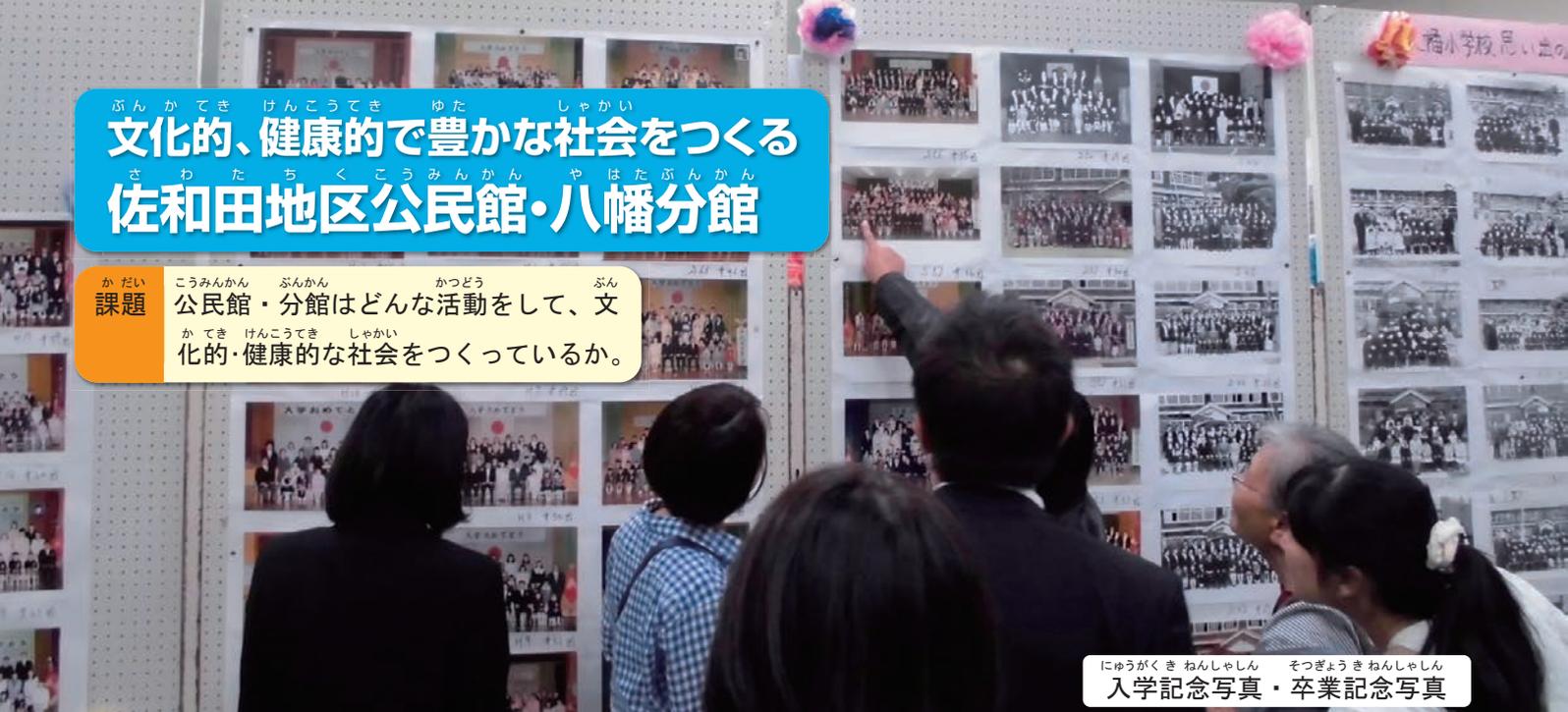
こどもたちが八幡地区の行事に積極的に参加して、地域のよさに気づくことを目指しています。そして、たくさんの大人とかかわり、ルールを守る大切さや協力して生きることの大切さを学んでほしいと思っています。

今年は140周年にふさわしい充実した活動ができ、地域の皆様に感謝しています。



ぶんかてきけんこうてきゆたしゃかい
文化的、健康的で豊かな社会をつくる
 さわたちくこうみんかんにやはたぶんかん
佐和田地区公民館・八幡分館

かだい 課題
 こうみんかん ぶんかん かつどう ぶん
**公民館・分館はどんな活動をして、文
 化的・健康的な社会をつくっているか。**



にゅうがくきねんしゃしん そつぎょうきねんしゃしん
入学記念写真・卒業記念写真



やはたちくしみんうんどうかい
八幡地区市民運動会

八幡地区分館連絡協議会



佐和田地区公民館

支援

地区公民館活性化協議会
 (各分館連絡協議会会長と他1名が所属)



ハッピーデイ さわた

分館連絡協議会の平成29年度の主な活動

分館連絡協議会の組織

- 4月 各種団体の顔合わせ会を企画・運営する
- 4月 運動会に向けての嘱託員・分館長合同会議
- 5月 八幡地区市民運動会を開催する
- 7月 各種団体参加の納涼会を開催する
- 8月 創立140周年記念式典に協力・参加する
- 8月 記念タイムカプセル封入式の準備をする
- 10月 八幡地区文化祭・慰労会を開催する
- 1月 八幡地区賀正会を開催する
- 1月 新春ソフトバレーボール大会を開催する

八幡地区分館連絡協議会

八幡新町第1分館
八幡新町第2分館
八幡町分館
荒城分館
中央分館
田望・野町分館
新田・辰巳分館
岩野分館

やはたちくぶんかんれんらくきょうぎかい
八幡地区分館連絡協議会
 は、8分館で構成されています。分館長は8名となります。
 8名の分館長のうち、1名がぶんかんれんらくきょうぎかいかいちやう
 分館連絡協議会会長となります。各分館には嘱託員がおり、ぶんかんちやう
 分館長とともに地域のために はた やはたちくぜんたい
 働いています。八幡地区全体では、8名の分館長の他に、
 29名の嘱託員がおり、文書
 の回覧 しんしゆん 市民運動会の選手
 のらい おお しごと たんどう
 依頼など、多くの仕事を担当
 しています。



ぶんかんしゅうじどうじやう
分館習字道場



ぶんかん きやうしつ
分館のバールンアート教室



ぶんかん かつどうしやうかい
分館の活動紹介

佐和田地区公民館と公民館事業活性化支援隊が実施する3大事業

ハッピーデイ さわた 2017 ~広げよう仲間・深めよう絆~ サンテラ佐渡スーパーアリーナ



ソフトバレーボール



しょうぎようしつ
将棋教室



トランポピクス



カローリング



サイバーホイール



しなひ しんぶんし
竹刀で新聞紙を切ろう

「ハッピーデイさわた」は、平成27年から始まりました。4地区ソフトバレーボール大会を発展させて、新たに始めたイベントです。佐和田地区青少年健全育成協議会が後援し、佐和田地区分館連絡協議会が協力しています。サンテラは5時まで開放され、写真以外にも、なわとび教室、合気道、太極拳、ダンスなどが行われています。

平成29年度 さわた芸能祭 ~華麗に舞い、心に響く、立春~ アミューズメント佐渡



ゆめさきしんわ
SADOMON 夢咲心和



さちゆう
佐中ブラスバンド&ウインドアンサンブル佐渡



りゅうおんかい がく
龍音会(雅楽)

平成29年度は、24団体が出演しました。演武、舞踊、ダンス、合唱、詩吟、伝統芸能など、質の高い文化活動が披露されました。

平成29年度 さわた文化祭 佐渡中央会館



かいがきょうしつ
絵画教室

かまくらぼりきょうしつ
鎌倉彫教室



しよどうがっきょう
書道学級

焼き物、盆栽、和紙ちぎり絵、俳句画等の芸術性の高い作品が展示されています。公民館の講座(教室や学級)の成果を発表する場にもなっています。

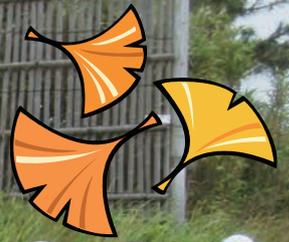
けらゆういちかいちよう はなし 計良勇一会長の話

八幡地区住民が健康で文化的な生活を送ることができるように行事を実施しています。嘱託員や住民、青年会、育成会等の各団体のご協力のおかげで、どの行事も大いに盛り上がっています。今後は、佐和田地区公民館の活動に八幡地区からたくさんの方々が参加し、地区を活性化したいです。



やはたちく あんぜん かんきょう まも
八幡地区の安全と環境を守る

やはた いちよう かい
八幡・銀杏の会



課題 やはた いちよう かい かつどう ちいき こうけん
八幡・銀杏の会はどんな活動をして、地域に貢献しているのだろうか。



かいがんせいそう ご きねんさつえい
海岸清掃後の記念撮影

やはた いちよう かい
八幡・銀杏の会はどのようにつくられたのだろう

八幡・銀杏の会は、西暦 2001 年 5 月 1 日に 6 人で設立されました。「未来の子どもたちのために、今できることをやろう」と考え、銀杏の木の植樹に取り組みました。次に「越の松原」の再生に取り組みました。当時は、松食い虫の被害で松が次々に枯れ、砂の飛散を防いだり塩の害を防いだりすることができなくなっていたのです。「越の松原」の再生は、現在も続けられ、八幡地区の大事な活動の一つとなり、私たちの生活を守り続けています。



か まつばやし さいせい しょくじゆ
枯れた松林の再生をめざした植樹

八幡銀杏の会の平成29年度の主な活動 「雪の高浜」環境事業・「越の松原」緑化事業

- 1月 もちつき大会で芋煮を提供する
 - 2月 チューリッププランターを道路に並べる
 - 3月 大田区大岡山桜まつりでの芋煮炊き出し
 - 4月 芽出しのために八幡いもを植え付ける
 - 4月 佐渡トキマラソンの誘導員をする
 - 5月 チューリッププランターを片付ける
 - 5月 佐渡ロングライド 210 の誘導員をする
 - 5月 八幡地区市民運動会を手伝い、参加する
 - 7月 「雪の高浜」「越の松原」の海岸清掃をする
 - 9月 佐渡国際トライアスロン大会のボランティアをする
 - 9月 小学校マラソン大会の誘導員をする
 - 11月 銀杏の会杯少年野球大会を開催する
 - 11月 チューリップ大作戦、芋煮会を実施する
- * 上記の他にも、4、5、8、9、10月 道路清掃や草刈りなどの環境美化活動をしている



すなはま ころ
砂浜があった頃



ゆき たかはま せいそうかつどう
「雪の高浜」清掃活動



ぶぎょうみずか しょくじゆ
奉行自ら植樹



こし まつばら さいせい
「越の松原」再生

せいれき あいかわぶぎょう すな かぜ まつ しょくじゆ すながき
西暦 1642 年、相川奉行は砂や風を防ぐために松の植樹と砂垣
づくりを命じました。平成の八幡奉行（本間秀雄校長）は、越の
松原の再生と人々の生活を守るために松の植樹を始めました。

主な表彰

- 平成 21 年 県環境賞
- 平成 22 年 県防犯功労賞
- 平成 26 年 緑化事業県知事表彰
- 全国表彰も受けました
- 平成 29 年 全国海岸協会功労者表彰、関東管区防犯功労賞、全国防犯協会社会安全功労賞

チューリップ大作戦・防災訓練芋煮会



ごとうじち かいちょう てほん
後藤自治会長がお手本



きゅうこん う つ
球根の植え付け



う つ ご き ねんさつえい
植え付け後の記念撮影

八幡の特産品であるチューリップで佐渡をきれいに

チューリップ大作戦は、平成15年から始まりました。2000鉢のプランターに、球根2000個を植え付け、国道350号線、県道辰巳中興線、市道八幡幹線3号に並べて、チューリップロードとして飾り付けています。道路以外にも、やはたの里と真野の里2号館、佐渡博物館等にプランターを並べています。今では、佐渡の春の風物詩として有名になり、観光客にとっても佐渡市民にとっても佐和田地区を訪れる楽しみの一つになっています。平成28年からは、ボランティアとしてではなく、学校行事として保護者と一緒に全員で参加しています。



ひ なんじょ はいぜんくんれん
避難所での配膳訓練



わたし そだ や はた
私たちが育てた八幡いものお汁です。どうぞ。



しょうか くんれん
消火訓練



きゅうしゅつくんれん
救出訓練

やはたいちよう かい じしゅほうさい そしき ほうさい
八幡銀杏の会は、自主防災組織として、防災訓練、炊き出し訓練(芋煮会)を行っています。

佐渡の名産 八幡いも再生プログラム



しょうがくせい さいばい さん か
小学生も栽培に参加



とうないがい
島内外のイベントでPR

防犯 登校の見守り



がっこうまえ おうだん ほど う まいにち
学校前の横断歩道で毎日

へいせい ねん さ のうぎょうかいりょうふきゅう や はた たねいも
平成18年、佐渡農業改良普及センターから八幡いもの種芋をもらい、さいばい けんきゅう やまなしさん や はた ひ かくさいばい
栽培の研究をしました。山梨産八幡いもと比較栽培もしました。

八幡地区を美しくする草刈りボランティア



まつばやし したくさ が
松林の下草刈り



ていきてき じょううがい じっし
定期的な除草以外でも実施

本間浩会長の話

やはたち ちく ちいきじゅうみん けんこう あんぜん
八幡地区の地域住民の健康と安全
じつげん こうけん もくてき
の実現に貢献することを目的に
しています。特に、子どもたちが八幡
のよさを感じ、
ほこ おも だいす
誇りに思い、大好き
きになっくれる
ことをめざして活
どう
動しています。



八幡地区を元気にする 八幡青年会

課題 八幡青年会はどんな活動をして、地域に貢献しているのでしょうか。



青年会はいつ頃から活動していたのだろう

江戸時代には若者組という組織があり、明治20年代に青年会に名称が変わりました。明治44年6月の八幡村通し信には、青年夜学会が開催されたことや、青年会と軍人団、消防組が連合大運動会を行ったことが書かれています。

八幡青年会は、100年以上前から八幡地区市民運動会を運営するなど、いろいろな団体と協力しながら、八幡地区のために働いてくださっていたことがわかります。



八幡地区市民運動会で運営を手伝う青年会の会員

八幡青年会の平成29年度の主な活動

- 1月 会長などの役員が決まる
- 3月 諏訪の市で「豆まき」を演じる
- 5月 八幡地区運動会の準備係をする
- 7月 やはたの里の納涼祭で「豆まき」を演じる
- 8月 八幡夏祭りのカラオケ大会を運営する
八幡盆おどり大会を運営する
- 9月 八幡夜相撲にアトラクション出演する
八幡祭りで「豆まき」を演じる
- 11月 チューリップ大作戦に参加する

八幡青年会の歴代会長

H30 石見勝行	H22 本間 俊	H13 後藤 修
H29 佐々木大輔	H21 高橋政臣	H12 本間 浩
H28 中川拓也	H20 本間佐貴人	H11 三浦義英
H27 高野博行	H19 計良勇一	H10 本間東三夫
H26 榎 恭利	H18 計良雅章	H9 安達博行
H25 吉田邦民	H17 渡辺一哉	H8 安達 徹
H24 若林拓郎	H16 本間一夫	H7 加藤克己
H23 本間 剛	H15 江口 仁	H6 本間一紀
	H14 村岡通功	H5 本間和久

八幡青年会の平成29年の構成

会長 佐々木大輔 副会長 石見勝行
 会計 本間見一 平成29年会員25名 (19歳～39歳)



八幡夏祭りを楽しむ地域の皆さん



創立140周年の記念運動会の準備



平成29年の青年会メンバー

大切に守りたい八幡の伝統芸能「豆まき」



おに ま おきな
鬼のまわりを舞う翁



あかおに おきな
赤鬼をのぞきこむ翁

おにだいこ まめ 鬼太鼓「豆まき」のストーリー

ある家の中に、鬼が2匹おりました。人にはその姿が見えません。2匹の鬼は、その家から出ていきたくないと考えています。烏帽子をかぶり、素襖姿の翁は、鬼がいるのではないかと考えて家の中を探ります。翁は、手に持った枡や茄子を動かしながら鬼がいるのを確かめます。鬼がいそうなので、鬼を追い出そうと翁は鬼をからかいます。鬼は、翁には自分が見えていないと思っているので、翁が「鬼かな」と赤鬼を触っても気づかれていないように振る舞います。しつこく触るので「見えないはずなのに不思議だ」と首を回します。翁が「鬼だな。出て行け」と赤鬼の背中を押すので、赤鬼は、翁に存在が知られたと思い、杖で青鬼に知らせます。赤鬼と青鬼は、その家を出ていくので、その家に住む人々が幸せになることが約束されるのです。



あ し し
かみ合う獅子



くろしきじょう めん おきな
黒式尉の面の翁

はくしきじょう めん
白式尉の面

あおおに なぎなた
青鬼は薙刀、
あかおに ぼう も
赤鬼は棒を持つ

おきな ぼうじょう あらわ ます なす も
翁は豊穰を表す枡と茄子を持つ

「豆まき」や獅子舞は神社の例祭で奉納されることが多いのですが、八幡の「豆まき」は八幡宮とのつながりはなく、八幡町の商人が始めたと言われています。太鼓には明治25年寄贈と刻まれています。総代が祭り道具を引き継ぎ、伝承してきましたが、昭和20年頃は若者が少なかったので、中学生が行いました。その後、青年会が受け継ぎました。他地区の「豆まき」は翁の烏帽子に神社名が記されますが、八幡は「交通安全」「家内安全」です。御札の文字も同様です。獅子は「豆まき」の後に厄除けや縁起物として獅子舞を行います。

や はた せい ねん かい かいちよう 八幡青年会会長 さ さ き はなし 佐々木さんの話

かいいん たの かつどう さん か
会員が楽しく活動に参加できる

たいせつ かいちよう つと
ことを大切にして、会長を務めて

きました。楽しくなければ続けられないと思っています。

まめ し し ち いき でんとうげいのう こうはい
「豆まき」、獅子などの地域の伝統芸能を後輩にしっかり
つた おも
伝えていきたいと思ひます。



集落センターを拠点に地区をまとめる 八幡地区自治会

課題 やはたちくじちかい やくわり ちいき こうけん
八幡地区自治会は、どんな役割で地域に貢献しているのだろうか。



たいいくかん ばしょ ころ しゅうらく
体育館の場所にあった頃の集落センター
(昭和51年1月7日落成)



きゅうこうしゃ
旧校舎

きゅうたいいくかん
旧体育館

きゅうしゅうらく
旧集落センター

八幡地区自治会と八幡地区集落センター

昭和57年までは、現在の体育館の場所に八幡地区集落センターがありました。校舎と体育館が移転新築されるのにもない、旧校舎の場所に集落センターの建物を移築(動か)したのです。

その集落センターの建物が老朽化し、地域住民から建て替えの要望が出されていました。当時、公民館八幡分館分館長をしていた後藤孝治さんは、佐渡市の補助金をもらって新しい集落センターを建てようと考えました。それには新たに自治会を設立する必要があります。多くの困難を乗り越えて自治会が設立され、平成25年3月、念願の新集落センターが完成したのです。

現在も集落センターは八幡地区の多くの団体が活動する拠点となり、多くの人が集まる地域活性化を象徴する大切な場所になっています。そして、自治会は、分館長や嘱託員等と連携しながら八幡地区の様々な行事に参画したり共催したりしています。



しゅうらく としよつ
集落センターにあった図書室



げんざい ばしょ きゅうしゅうらく
現在の場所の旧集落センター



かいたいちゅう きゅうしゅうらく
解体中の旧集落センター

八幡地区自治会の平成29年度の主な活動

- 4月 各種団体の顔合わせ会を八幡館で行う
 - 4月 役員会、嘱託員・分館長合同会議をひらく
 - 4月 八幡小学校 夜桜ライトアップを共催する
 - 5月 八幡地区自治会通常総会をひらく
 - 5月 八幡地区市民運動会に参画する
 - 7月 八幡地区海岸清掃を共催する
 - 8月 創立140周年記念式典に参加する
 - 10月 八幡地区文化祭に参画する
 - 11月 チューリップ大作戦、芋煮会を共催する
 - 12月 集落センターの大掃除をする
 - 1月 八幡地区賀正会に参画する
- * 上記の他にも5、8、9月に草刈り作業をする



じちんさい
地鎮祭



じょうとうしき
上棟式



後藤孝治自治会長の話

7地区の全てで自治会設立説明会を開催し、ようやく自治会設立総会を開催することができました。自治会は、地区全世帯の7割以上が加入していないと市に認められないきまりになっていました。400世帯以上から賛同していただくことができ、感謝しています。集落センターを大切に、有効活用してください。



地域活性化の象徴 八幡地区集落センターの施設・設備

平成 25 年に完成した集落センター



ソーラーパネルで発電して売り
30万円程の収入がある。



車椅子も入る多目的トイレ

トイレにも手すり

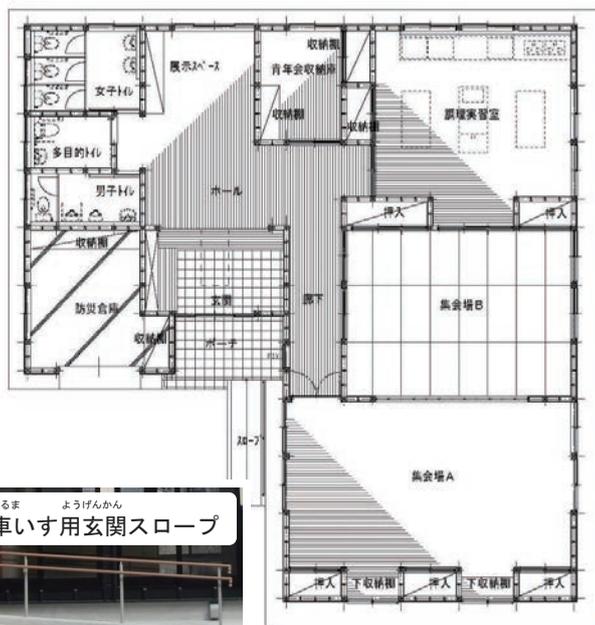
防災倉庫



自治会会員は全館を6時間
以上利用しても500円です。



車いす用玄関スロープ



調理実習室 会員外 3000円



集会場B 会員外 3000円

多くの方が利用している集落センター

島内の集落センターの中で、最も多く使われている施設の一つです。

右表は平成29年7月の
使用表です。表以外にも

- ・八幡地区消防団
- ・八幡溜池組合
- ・アダルトポッカーズ
- ・宝鏡寺・税金説明会
- ・若者サポートセンター
- ・JA佐和田・茶道
- ・JA佐和田女性部等の団体が利用しています

平成29年7月の集落センター使用表

日	曜	午前	午後	夜	日	曜	午前	午後	夜
1	土				17	月		中央田望野町子供会	
2	日		新舞踊(小関)		18	火			
3	月		新舞踊(小関)		19	水		新舞踊(小関)	青年会
4	火			青年会	20	木			中山間地
5	水		新舞踊(小関)	青年会	21	金		育成会	育成会
6	木			青年会	22	土		育成会	育成会
7	金	自治会		佐中PTA	23	日		育成会	
8	土		銀香の会	銀香の会	24	月		新舞踊(小関)	
9	日		新舞踊(小関)	育成会	25	火			
10	月		新舞踊(小関)	八幡保全会	26	水		新舞踊(小関)	青年会
11	火				27	木			分館
12	水		新舞踊(小関)	青年会	28	金			青年会
13	木				29	土		やつたろーず	
14	金			青年会	30	日			中央田望野町子供会
15	土			ぶすいるの会	31	月			新舞踊(小関)
16	日								



集会場A 会員外 3000円
全室利用 6000円



育成会キャンプでも集落センターを利用



佐渡市民俗文化財「八幡人形型」稲荷、福助等



全国水墨画美術展入賞「滝音」関川 登作



大型テレビを使って防災学習会

子どもために学び、励む 八幡小学校PTA

課題 PTAは、子どもの豊かな成長のためにどんな活動をしているのでしょうか。

いつから、どんな活動を

PTAは、昭和22年の文部省の通達をもとに結成されました。結成の頃から、バザーや寄付などを通して、学校環境や施設・設備の充実に貢献してきました。

昭和30年頃からは、研修視察旅行が始まり、平成10年まで続きました。平成11年からは、校内での研修会となり、平成14年からはチューリップ花絵づくり、平成22年からは親子レクリエーションを行いました。現在は、親子でチューリップ大作戦に参加しています。



おやこじびあみ
S52 親子地引き網



おやこたいかい
S54 親子つり大会



PTA活動年表

	PTA会長	主な行事・寄付
s22		3月17日PTA結成される 矢田勝治氏より1万円寄贈
s23	村岡鷹次	7月31日新徽章選定(応募30点 当選者後藤信一氏)
s24		6月17日小中合同大運動会 7月27日PTA主催映画会「鐘の鳴る丘」9月4日PTA主催放送施設資金調達のため「百合ちゃん劇」鑑賞会
s25		小中別PTA 6月16日小中合同大運動会、婦人会バザー(シーソー2台購入)
s26	小林武男	10月26日講和記念植樹校庭土塁内に松10本、桜5本 3月1日学芸会・PTAバザー 村岡鷹次氏より金2万円寄贈、村岡賞開始 父兄会からも寄付
s27	小林武男	3月3日学芸会PTAバザー 3月16日PTA総会・映画鑑賞
s28		6月15日羽茂小木視察 11月18日文化祭(小中学芸会、展覧会、バザー)
s29		11月16日佐和田町公民館八幡分館主催にて文化祭 PTA、松風会、八幡消防団等よりステージ用幕(校章入り)文字幕、中間一文字幕、左右袖幕、)寄贈
s30	萩原	7月10日PTA研修小中合同バス1台で白瀬小、加茂二中、両津高校を見学
s31	遠藤真一郎	6月1日小中PTA合同旅行
s35		6月16日こども郵便局十周年記念角力大会 3月16日 給食室落成式
s36		北海道の本間輝二氏が校旗を寄付(5万円相当)
s37		5月2日鼓笛隊楽器購入
s39		11月20日佐和田町10周年記念式鼓笛隊パレード参加、ベレー帽購入
s40	加藤一以	5月1日学区区民による歓送迎会110名参加 7月10日グラウンド完成記念小学校公民館分館合同運動会 2月20日ステージ工事落成記念学芸会
s41	本間龍太郎	5月10日6年修学旅行月岡温泉 10月10日歩け歩け町民大会
s42	90周年	2月18日 90周年記念事業 90周年事業感謝状贈呈個人寄付校門・斎川市太郎 校庭舗装拡幅・若林孝亮 ステージ幕・安達淳一郎 玄關の校章・41年度分館役員一同 紅白幕・三浦仁吉 国旗掲揚柱・大井戸基一 野球用バックネット、16型テレビ6台、シャワー、テープレコーダー1台・地域寄付金(437,550円) 2月19日90周年祝菓(饅頭)全戸配布
s45		10月11日家庭教育学級・PTA主催大佐渡一周研修旅行
s46		4月22日6年修学旅行会津若松 1月25日家庭教育学級研修会
s47		10月10日PTA研修旅行平根崎方面
s48		7月10日PTA施設部海岸の清掃、小屋がけ、海神に神酒奉納 部落水泳(7月26日~8月10日)を一箇所で実施 PTA寄贈のテレビを理科室に設置
s49	伊里巖	9月2日押しボタン式信号機点灯式
s50	清水晴雄	7月8日・7月24日PTA海岸清掃 8月1日育成会6年男子つつじが原キャンプ 8月17日育成会スポーツ大会・キャンプファイヤー 9月14日育成会すもう大会 10月25日親子地引き網(PTA主催研修旅行に代わりとして)
s51	矢田長久命	7月24日PTA海岸清掃 7月25日育成会素浜キャンプ6年生27名中17名参加 8月22日育成会キャンプファイヤー 10月1日全校すもう大会八幡宮土俵 1月21日第1回百周年実行委員会 カラーテレビ2台寄贈
s52	若林才一 100周年	10月22日PTA親子地引き網 11月12日鼓笛隊町内国道パレード(パトカー先導、PTA役員青年団交通整理 11月13日百周年記念式典 2月18日百周年記念実行委員会集落センターで解任式 3月16日創立100周年記念日カプセル格納式 ヒバ100本植樹 村岡賞20万円 記念行事八幡人形作成、校舎全景の銅板打ち出し、記念作文集、グラントピアノ(本間市太郎) 記念品茶巾布 タイムカプセル「あゆみ」建立 同窓生名簿ならびに百年史年表 大会応援旗寄贈
s53	萩原 弘	10月14日PTA地引網 2月4日第1回PTAもちつき大会午後父親学級
s54	稲辺嘉孝	5月27日あいさつ運動宣言記念運動会 親子つり大会 2月3日もちつき大会
s55	梶田忠志	5月27日新校舎建築促進委員会発足 委員長梶田正一(教育委員長) 副委員長本間佐千雄(町会議員) 萩原保(町会議員) PTA会長梶田忠志 萩原弘(分館長) 10月5日親子つり大会 2月8日もちつき大会
s56	矢田文十	5月31日雨で午後の地区民運動会中止 7月26日素浜キャンプ 12月24日新校舎引渡し 2月7日もちつき大会
s57	本間達也	7月10日PTA役員海水浴場作り 全校水泳6回 7月25日素浜キャンプ 9月10日校舎新築落成式 1月30日もちつき大会 育成会樟神輿スタート



たいかい
S53 もちつき大会

かいちょう
PTA会長
ほんましゅん はなし
本間俊さんの話

やはたちく ぎょうじ せつきよくてき さんか
八幡地区の行事に積極的に参加し
て、地域のよさに気付くことを目指
しています。大人とかかわり、ルー
ルを守る大切さや協力する大切さを
学んでください。



今年は140周年に
ふさわしい充実した活
動ができ、地域の皆
々に感謝しています。

PTAの平成29年度の主な活動

- 4月 PTA総会
 - 4月 危険箇所巡視(会長・校長)
 - 5月 1年生保護者給食試食会
 - 5月 奉仕作業(グラウンド・プール)
 - 6月 各学級のPTA学年行事
 - 7月 講演会「命の授業」本間保健師
 - 8月 140周年記念式典祝賀会
 - 9月 奉仕作業(ガラス拭き)
 - 10月 140周年記念文化祭・バザー
 - 11月 チューリップ大作戦を手伝う
 - 1月 もちつき大会・祖父母参観
 - 3月 総会・ネット講演会・懇親会
- ※PTAだより年2回発行、街頭交通
安全指導を毎月10日と春・秋、本部
役員会年5回・役員全体会年3回実施

s58	本間正克	7月23日素浜キャンプ 8月21日キャンプファイヤー 9月25日つり大会
s59	本間道夫	7月21日素浜キャンプ 8月19日キャンプファイヤー 10月7日親子つり大会 2月3日もちつき大会
s60	安達勇生	7月27日素浜キャンプ 8月18日キャンプファイヤー 2月2日もちつき大会
s61	安達 勇	7月26日素浜キャンプ 8月19日校庭キャンプファイヤー 9月28日親子つり大会 2月8日PTAもちつき大会
s62	本間 満	5月17日PTA春の奉仕作業 7月25日素浜キャンプ 8月19日育成会校庭キャンプファイヤー 11月28日 創立110周年記念式
s63	石井貞夫	7月24日 育成会素浜キャンプ
h1	本間英世	8月19日PTA研修旅行宇奈月温泉 1月28日もちつき大会・冬季運動会 PTA役員による桜の木3本寄贈、鶏小屋完成空き瓶回収9万円を基金にPTA役員により完成 滑り台、雲梯寄贈バザー31.5万円、育成会8万円寄付
h2	計良勝博	6月15日グラウンド側花壇造成 8月5日児童会空缶回収協力 8月18日PTA研修旅行四万温泉 1月27日もちつき大会・冬季運動会(最終)
h3	本間忠昭	8月24日PTA研修旅行富山県小松メルヘンの里 1月26日もちつき大会
h4	丹保 栄	8月22日PTA研修旅行戸倉、上山田 1月24日もちつき大会
h5	本間俊一	8月21日PTA研修旅行月岡温泉 9月12日花壇整備作業 1月23日もちつき大会 丹保前会長県P表彰 齋川栄子さん名義で図書100万円(栄子文庫)とスチール書架4台50万円寄付
h6	本間俊和	5月21日グレーダー、ローラー、ダンブでグラウンド整地 11月22日研修旅行日帰り相川伝承館 1月22日もちつき大会(学校田収穫のもち米)
h7	本間友一	11月25日PTA研修旅行 山形県1泊2日 1月21日もちつき大会
h8	瀬戸博美	11月3日O157の影響でバザーの調理品販売中止。パン、ヤクルト、お楽しみ袋を販売。11月17日PTA研修旅行小木22名参加 1月19日もちつき大会
h9	遠藤久昭	6月15日PTA研修旅行二つ亀 8月23日 草木染講習会9名参加 講師西橋春美 11月2日文化祭バザーに喫茶新設 11月18日もちつき大会
h10	齋川 裕	6月5日グラウンド改修要望書提出 6月14日PTA研修旅行南佐渡20名参加 11月17日もちつき大会 齋川組よりステージ幕寄贈
h11	岡村正裕	5月23日 研修活動「塩と豆腐と懇親の会」 1月16日もちつき大会
h12	本間成夫	6月25日研修活動「親子工作・ニュースポーツ」 校外安全部年2回危険箇所巡視(最終) 10月29日伊豆諸島災害義援金募金 1月13日もちつき大会 青年会より優勝カップ寄贈、育成会よりデジタルホン6台寄贈
h13	齋川 裕	5月10日校外安全部通学路点検を止めて会長・校長点検 7月1日PTA懇親会 7月8日親子八幡海岸クリーン作戦 79名参加 1月19日もちつき大会
h14	鈴木伸二	4月24日 チューリップ花絵作り アルミ缶作業年6回実施 1月19日もちつき大会・落語講演会 卒業生の卒業記念品寄贈を止める
h15	本間一紀	第1・3土曜に体育館開放 4月27日チューリップ花絵 9月2日合唱プロジェクトチーム 11月27日本部役員冬季通学路点検 1月17日もちつき大会
h16	本間東三夫	第1・3土曜に体育館開放 4月24日花絵 1月17日もちつき大会
h17	梶田和明	第1・3土曜に体育館開放 4月29日チューリップ花絵 文化祭合唱 1月21日もちつき大会
h18	小池雄一郎	第1・3土曜に体育館開放 4月30日チューリップ花絵 文化祭合唱 1月20日もちつき大会
h19	計良雅章	第1・3土曜に体育館開放 4月29日チューリップ花絵 文化祭合唱 1月19日もちつき大会・創立130周年タイム木箱設置
h20	祝 孝之	第1・3土曜に体育館開放 4月26日チューリップ花絵 文化祭合唱 1月17日もちつき大会
h21	若林俊孝	第1・3土曜に体育館開放 4月29日チューリップ花絵 文化祭合唱 1月16日もちつき大会
h22	渡邊一哉	第1・3土曜に体育館開放 文化祭合唱 11月20日親子レクリエーション 1月15日もちつき大会
h23	本間雅人	文化祭合唱 11月19日親子レク 1月13日もちつき大会
h24	高橋健一	11月19日親子レク 1月12日もちつき大会
h25	本間正彦	11月16日親子レク 1月11日もちつき大会
h26	鶴間基宏	PTAだより年2回発行に変更 11月15日親子レク申込人数少なく中止 1月10日もちつき大会
h27	石井京介	1月9日もちつき大会 3月1日学校統合説明会(最終)
h28	内藤友和	5月18日排水路改修要望書提出 11月13日PTA行事としてチューリップ大作戦に参加 11月23日「みんなの学校」上映会 1月14日もちつき大会・祖父母参観 3月1日荒城信号機新設要望書提出
h29	本間 俊	8月13日創立140周年記念式典祝賀会 11月12日チューリップ大作戦 1月13日もちつき大会 3月2日PTA総会・懇親会
h30	山本章子	

平成29年度のPTA学年行事



きねんしきてん かんしやじやうぞうてい
記念式典で感謝状贈呈



ふうにゆうしき
タイムカプセル封入式



PTAバザー



まのぎょうこうかんきょうひろば
2年真野漁港環境広場キャンプ



にしみかわ
4年西三川ゴールドパーク



じょうねんじせつぼうたいけん
1年常念寺説法体験



しんじょうたいけん
3年心書体験



しおづ さと お ばなたいけん
5・6年津津の里 押し花体験

平成29年8月12日(土)

創 立 1 4 0 周 年 記 念 式 典



しゅうねん む ふうにゆう
150周年に向けてタイムカプセル封入



かんしゃじょうぞうてい はぎはらひろしきま かね こくにあきさま ほん ままさひろさま ほん ま さま
感謝状贈呈(萩原弘様・金子邦朗様・本間正博様・本間ますみ様)

「佐渡・八幡を愛し、貢献できる八幡っ子」を目指し
140周年を記念して各団体と協力して工夫した行事

5月28日 創立記念大運動会



にいがたくたい せいかにゆうじょう かいちょう
新潟国体のトーチで聖火入場しPTA会長へ



ぶんかん ようい ふうせん ゆめ と
分館が用意した風船に夢をのせて飛ばす



かくだんたいちょう こじんき ふ せいさく しょうり はた
各団体長の個人寄付で制作した勝利の旗

10月15日 創立記念文化祭



おお ちいき かた とうじょう がくしゅうはっぴょうかい
多くの地域の方が登場した学習発表会



がっこうでん そだ やはた こまい はんばい
学校田で育てた1kg1000円の八幡っ子米の販売



せんご にゆうがく そつぎょうきねんしゃしん ぶんかん てんじ
戦後の入学・卒業記念写真を分館が展示

1月13日 創立記念第40回もちつき大会



ねんかん つづ たいかい
40年間も続いているもちつき大会



れきしはっぴょう なかむらたけし えんそう
140年の歴史発表と中村毅さんのピアノ演奏



しんしゅん たいかい さんか
新春ソフトバレーボール大会にも参加

八幡小学校の充実した1年間 質の高い学習と豊かな体験活動



4月6日 11名を迎えた入学式



5月10日 インド舞踊カラリパヤット公演



5月15日 春の草花を觀賞する全校登山



5月16日 朱鷺と暮らす郷認証米の田植え



6月14日 認証米水田の生き物調査



6月27日 大阪交響楽団の演奏会



6月29日 5年自然体験教室外海府方面



6月30日 6年修学旅行新潟大学で受講



9月4日 池泰裕さんによる全校相撲練習会



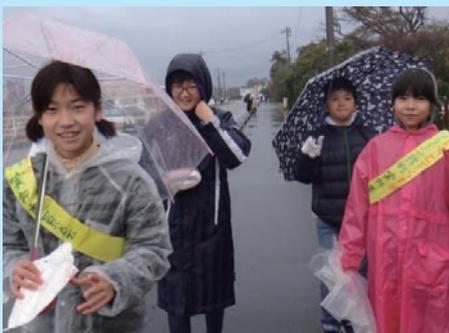
9月30日 保護者伴走のマラソン大会



11月9日 トキ環境整備基金に3万円寄付



11月12日 八幡キャリア教育フォーラム



11月23日 朱鷺と暮らす郷クリーン作戦



2月2日 短縄リレーのなわとび大会



2月15日 平での初めてのスキー教室

平成7年改訂版「わたしたちの八幡」

1 うつりかわる八幡

1 八幡の土地の起こり

現在の国仲平野一帯が湾であった古真野湾時代を過ぎると、各河川の運ぶ砂礫は真野湾の海流や風の向きなどが一緒になって、海岸線に砂州を作り始めた。次第に砂丘化し、古真野湾時代の湾の入り口を閉じてしまい国仲一帯は大きな湖の状態になってしまった。この時期を古国仲湖時代と呼んでいる。

最初の頃は、この砂丘はとても不安定だったが、縄文後期(BC10000~5000)頃に一部の砂丘は、死砂丘となって固定し、やがて丘上に植物が生長して古代人が生活できるようになった。

八幡の遺跡

- 縄文式遺跡 岩野町石井五郎次氏所有の堺田
新田町若林松蔵氏所有の長節田
- 弥生式遺跡、先の2つの地以外に、田望の本間慶次郎氏所有の長節田
- 土師、須恵器のころの遺跡

佐渡博物館の工事の時、多くの土師器を出土した。

安達藤五郎元屋敷を中心に800m位の範囲に大きな集落があったと推定される。また、落合から国府橋の間の辰巳地区の河川沿いに十数個の井戸遺構が出土し、また、須恵器も出土することから、鎌倉時代の初め頃の集落があったものと思われる。

2 八幡村の起こり

近衛天皇の康治元年(1142年)に郷社八幡宮が開基されたが、初めは、佐渡の国「野原の別宮」と呼ばれていた。野原の別宮が八幡宮であることは、現在八幡宮の付近に野原と関係の深い、岩野・新田・野町・野口などの地名が残っていることから分かる。このように八幡村は、石清水八幡宮の神領として育っていった。

その後、80余年順徳上皇が佐渡へご遷幸になり、八幡に居を移された時には、わずか7軒の家しかない実に寂しい海辺の集落であったと考えられる。このような集落が今日のように発達したのは、次の5つの点の影響と考えられる。

- 2 -

3 位置

私たちの住む八幡は佐渡の南西にあり、南東は国府川を堺に真野町に、北西は二宮地区に、北は金井町に、西は石田川を堺に河原田地区に接している。南西は、真野湾に面している。小学校は学区のほぼ中央にある。

- 校地は、東経 138度20分28秒
北緯 37度59分19秒
標高 約6m となっている。

4 面積

- 東西 約2,200m 南北 約2,600m
総面積 4.4Km²

5 地勢

地形はだいたい三角形で平坦である。中央部を南北に国道350号線が走っている。山側は主に田地、海側は畑になっている。

6 交通

大正末期までは、二つの主要道路が八幡地区を通っていた。八幡宮前の交差点の角(学校側)に当時の道しるべの石塔がある。

- ・小木街道 相川-河原田-八幡-新町-小木
小木と相川とを結ぶ大名行列の重要な街道であり、国仲の産物を小木に運ぶ道路として、人の往来も激しかった。当時、八幡からも酒・しょうゆ・酢その他の産物が多く小木に運ばれて売られていた。
- ・松が崎街道 八幡宮前-野町-落合橋-三宮-畑野-松が崎
畑野、松が崎の人たちが相川へ年貢を納めに行ったり、用を足しに出る道路として利用され、交通も頻繁であった。県道(現在の国道)が整備され、バスが通うようになってからは、あまり利用されなくなった。

- 4 -

A 文化方面

1. 八幡宮の開基
2. 順徳上皇の八幡遷幸

B 富の方面

1. 海岸地帯の増加
2. 奥野氏と八幡堤
3. 太郎右衛門の開墾

その後の行政区画の移り変わりも大きかったことと推測される。しかし、伝えるところによると、私たちの住んでいる八幡は上八幡と下八幡の二つの字に分けられていたようである。上八幡は、現在の野町の山側、新田の浜側及び中川小路、岩野町の浜側と落合橋付近などが含まれ、今の八幡の外部に当たる集落をいう。下八幡は、田望の上・下、野町の畑側、坂小路及び新田、岩野の山側など大体集落の中心部、すなわち内部の集落を指していたようである。

今からおよそ280年前、徳川五代将軍綱吉の時代、元禄年間になり判方役という、今でいう裁判官の役目の奥野七郎右衛門賢好の子、賢正という人がいた。この頃から八代将軍吉宗の享保年間になって、義民太郎右衛門が辰巳を開墾した。その頃には、先の上八幡、下八幡、辰巳、八幡新町、八幡町の5つの字に分けられ、その中、上八幡、下八幡、辰巳と一緒にして大字八幡と呼び、明治の始め頃までこのように分けていた。

明治17年頃から、八幡新町、八幡町は河原田に合併し、大字八幡は現在の真野町の新町役場のもとに置かれたこともあった。明治22年頃、大字八幡は金丸及び四日町と一緒に国府とい役場を四日町においたが、その頃の村の名前は、はっきりしていない。

明治22年4月市町村制が実施されたが、私たちが住む八幡は、明治35年維太郎八幡村として、今の八幡町、八幡新町、八幡の行政区画となった。

昭和28年10月10日、町村合併促進法という法律が定められた。八幡村も昭和27年10月、河原田町から八幡村、二宮村に合併を申し込まれてから、合併に口火が付けられた。昭和28年1月には、3か町村がそれぞれ議会を招集し、合併協議会を設置し、合併の方法について研究することになった。その後、沢根村を加えて、四か町村の合併運動に発展した。昭和29年7月20日、4か町村が合併して新しい佐和田町が誕生した。

- 3 -

戦後、国の総合開発が叫ばれ、中でも離島の進行を重視して離島振興法が制定された。佐渡もその適用を受け、港湾と道路に重点が置かれた。島内の主要幹線道路である本線・南線の大部分は舗装された。南線のもっとも交通量の多い河原田-新町間は、用地買収で話し合いがつかず一番最後に取り残された。八幡地区でも昭和38年度から道路拡張計画が進められ、昭和47年度に完了した。

八幡宮前から野町を通り落合橋までの町道は、辰巳の山砂採取や、北陸生コン工場、中野アスファルトプラント工場が辰巳にできてから、交通量が多くなった。そこで、昭和44年に舗装道路として整備された。

7 人口

八幡地区の世帯数と人口を、昭和25年4月・昭和44年9月・平成7年12月で比べてみると、次の表の通りである。

	世帯数			人口		
	25年	44年	7年	25年	44年	7年
八幡町	96	124	146	418	397	374
八幡新町	52	87	65	302	290	175
八幡	271	252	450	1,375	1,008	1,217
合計	419	463	661	2,095	1,695	1,766

佐和田町の人口は次の通りである。(平成7年12月31日現在)
男 4,778人 女 5,250人 計 10,028人

- 5 -

II 産業

1 農業

(1) 土地利用のようす

旧八幡村は東西南北200mくらいの平地にあるため、他の町村と違い土地利用の面から見ると、たいへん進んでいるといえる。

八幡の地図を開いて見ると、学校を中心に北東部の石田川沿岸から南東部国府川沿いに至るまで、豊かな疏水に恵まれて、広々と広がる水田、北西部から南西部一帯の海岸に平行して広がる畑地と、自然の区画整理を受けたように田畑が広がっている。その上、海岸からの飛砂を防ぐために適切な保安林の設備がなされている。

(2) 新しい耕地の開発

このような広々とした耕地も決して最初からあったものではなかったようだ。八幡の地名を見ると八幡新町とか新田町という名前が残っているように、この土地は古い土地ではなく、新しく開かれた土地だといえる。

これを物語るものとして、順徳院の「音に聞く佐渡の中川来てみれば、おのがすみかは海にこそあれ」の歌がある。そうした原野を切り開き、現在のような土地を作りだしていった先人の努力は大変なものであったと思われる。特にここでは辰巳の新田開発、海岸一帯の砂土手、八幡堤



- 6 -

(4) 八幡農業と水利

八幡の農民の歴史は水との戦いであったといっても過言ではない。八幡の地は大佐渡、小佐渡の両山脈の間にあり水には不便はなさそうだが、山に降った雨水の多くは地下水となってしまう、水の少ない時期になると地表を流れる水は、ほんの僅かな量になってしまう。その上、八幡の土地は山から一番低い所にあるために多くの水は上流の部落に取られ、八幡の田畑は水不足になる。逆に出水期になると、上流の堰がみんなはずされ、度々大水に襲われ、田畑を流してしまっ

こうしたなかで、地下水の利用を知らなかった昔の人たちは、晴天の続く日には雨の降るのを神に祈り、国府川の河口にかやを山と積んで祈ったり、火をたいて雨を求めたり、それでも不足の時は戸隠し水こいといって長野県の戸隠の山へ木の樽を持って水の種をもらいに行ったりした。

昔は、水による争いもよくあったが、近年は水利のための組合もでき、争いもなくなった。その水利の苦難の歴史を今に残すものが、八幡の畑のため池だといわれており、よくみるとどの家の畑地にもため池が掘られているのに気が付く。以前水利組合は、八幡ため池組合と石田用水利組合の2組合に分かれていたが、現在では統一され、土地改良区の仕事の一環となっている。

(5) 農業の現状

八幡地区の耕地は昭和25年には、およそ222haに広がり、これが昭和43年には205ha、さらに平成6年には、およそ140haと、どんどん減少してきている。これは近年の住宅建設や農道開発などに関連するものだが、実際の収入の面からみると、単作農業地域と違い、はざかい期を持たない農業経営で多種類の農作物を作り、多くの収入を上げている現状である。

八幡地区の主な農作物の作付面積

	農作物	米たばこ	チューリップ
昭和43年度	140ha	45.0ha	7.0ha
平成6年度	105ha	9.7ha	16.5ha

- 8 -

の掘さくなどは忘れることができない。

こうした耕地開発のようすを江戸時代の検地の様子から探って見ると、どんなにこの時代に耕地の開発が進められたかが分かると思う。

年代	田	畑	宅地
元禄5(1692年)	80ha	10.4ha	7.6ha
弘化2(1845年)	131ha	38.0ha	9.0ha

(八幡村資料 1反歩9.9a概算)

(3) 辰巳部落の開発

享保20年(1735年)山田村太郎右エ門、後山村与三兵衛は、八幡村内の荒地開墾を願い出て、その地域10ha余りの耕地と5haの官林(苗木78,000本余り)をつくって翌元文2年成功し、辰巳村と名付けた。この際の費用として米400俵をお貸し下さるようお願いして許可されたという。(佐渡郷土事典)

こうした大事業を成し遂げた先人の努力が偉大なものであったことはいまでもないが、また、自然的、社会的な要素も十分あったものと思われる。

当時の社会は士農工商の身分制度の厳しい時代で「農民と菜種の油は絞るほどに利益を生む」といった幕府の政策のもとで、農民たちにとってはなかなか苦しい生活を強いられていた時代であった。この時代を生き抜くためには少しでも広い土地に、肥えた土地にと、開発が進められたことであろう。

しかし、八幡にとっては、水田からの収入だけではとても生活できなかったことであろうし、近くに大消費地相川を控えていたこともあって、畑地の開墾も盛んに行われていた。

伝承に残る小鷹やろうそうさんのような先覚者もあったであろうが、相川10万の人を養う野菜づくりの根源は、自然が与えてくれた耕作に便利で水はけのよい平坦な砂地と、畑作に頼らなくてはならなかった当時の社会情勢とが生み出したものといえる。

- 7 -

たばこ栽培について

畑作は何と言っても自然的地理的条件に左右されて価格の変動も激しく、特に佐渡のように大消費地から海を隔てた場所では、一部の長期保存のできる作物でないと耕作するには問題がある。その点たばこは、米につく安定作物であるといわれているところから、日本専売公社、たばこ耕作組合の指導のもと、昭和29年頃から本格的に耕作が始められた。

市町村別耕作状況

昭和44年度

平成6年度

市町村	面積(ha)	人員(人)	市町村	面積(ha)	人員(人)
小木	68.4	140	小木	79.4	72
佐和田	45.6	129	真野	22.2	37
真野	32.3	98	赤泊	11.4	18
羽茂	27.2	56	羽茂	17.9	15
赤泊	25.7	79	佐和田	9.7	15
相川	18.6	62	両津	1.4	4
両津	12.8	45	金井	0.9	2
金井	7.3	26	相川	0	0

佐和田のたばこ耕作者は、ほとんどが八幡地区である。上の表から分かるように、この26年位でかなり減少している。これは、10年位前から、健康を考えて禁煙する人が増え、たばこの需要が減ってきたことと、たばこ栽培は労働が大変だという理由からである。八幡地区の特色ある農作物としては、たばことチューリップがあげられ、その両方を耕作している農家が多かったが、最近では、たばこ作りをやめて、チューリップ栽培一本にしているところが多くなってきている。

チューリップ栽培について

昭和6、7年頃八幡村ではチューリップ栽培が盛んで耕作面積は、20ha位

- 9 -

であった。当時、新潟農園の小山繁園長は佐渡の様子をよく知っており、八幡の砂丘地帯は土質・気候共に輸出球根の栽培には最も適している土地である、と折り紙を付け、肥料、種球、人手の費用その他全ての面で面倒を見るということで栽培を頼まれてやったものであった。

昭和9年、満州事変の最中に佐渡の球根が新潟のものと一緒に、横浜の港からアメリカへ輸出されたが、途中資産凍結に会い、球根を捨ててしまった。

その後満州事変が激しくなり、パラシュートの需要が多くなってくると、八幡村の農業も軍事産業の時代の波に乗って、チューリップが減らされて桑園に変わり、しばらく養蚕の盛んな時代が続いた。

昭和12年支那事変となり、戦時体制がしかれ、食糧増産が強く要請されると、今後は芋などの食料作物の栽培に変わっていった。

時代が変わり終戦後の昭和22年、県でも砂丘地園芸の進むべき道について真剣に研究されるようになっていった。その頃八幡の石井嘉蔵氏が、チューリップのエレクトラという品種を僅かばかり試みに作った。その後本間佐中氏も一緒に作り始めちょうどその頃、本間章正氏も郡支部に勤めていたが、石井技師にお願いして、カンサス、ウィリアムヒットなどを7kg分けてもらい、それぞれ栽培してみた。しかし栽培の歴史が浅く、基礎的な技術がなくどのように作ったらよいかの基準もなかったため成績は上がらなかった。

昭和25年夏、農協の青壮年連盟が中心になり、八幡の産業の将来への見通しについて話し合った結果、「将来は野菜が必ず有り余るようになる時期が来ることが予想されるので、今砂丘地の将来の産業を真剣に考える時だ・・・」ということになり、越後の状況なども参考にし、たばこ栽培が問題としてあげられ、これを受け入れることになった。ところが、このたばこ耕作の許可を待たないうちに、農協と農青連が、村をまとめた八幡球根組合を結成し、初代組合長に本間佐中氏になって球根組合が発足した。

こうして昭和26年秋、1haの種球の栽培を皮切りに、耕作面積も毎年増え、チューリップの栽培と同時にアイリス栽培も始めた。その後町村合併の問題と同時に球根組合も2つに分かれたが、昭和29年全県下のチューリップに腐敗病が大発生し、アイリスの値段が急激に落ちて、八幡の球根栽培も半分に減ってしまった。

翌30年後、腐敗病に対する研究も進み、少しずつ栽培面積が増えていった。

昭和41年、オランダから新品種を輸入し、今までのものと入れ替えた。その

チューリップ栽培カレンダー

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
仕事	土肥 壌料 消毒	球肥 根料 植 付け	肥除 料草 剤	排野除 水ね草 整す剤 備み 防 除			予 防	摘予収球 花防か根根 く乾出 燥荷				

栽培のあらし

- 土壤消毒 連作のため、土作りには神経を使っている。
- 球根植付け 10月下旬～11月上旬に植付ける。
植付け球根は10aに4万球。ただし9cm以下の小球根5～7万球も植え付けている。
- 予防 芽が出た3月～5月にかけて週に1回くらいの割合で合計5、6回薬剤を散布する。雨の日だと薬が流れてしまうため、天気の良い日を見計らって予防する。
- 摘花 花が満開になって一週間後に花を摘む。(球根に養分がいくように)花を摘んだ後、茎の先から病菌が入らないように、もう一度予防する。
- 収穫 早生種 5月20日頃
中晩生種 5月下旬～6月上旬
茎の上から7～10cmが黄色っぽくなった時が、掘り取りの適当な時期である。
- 球根乾燥 風通しのよい日陰で、腐らないように早く乾かす。ハウス内で棚に球根を並べて自然乾燥させる。乾かし方が悪いと商品にならないことがあるので、乾燥むらがないように気を付ける。
- 球根出荷 乾燥を十分にした球根を選別して出荷する。現在佐渡の球根は輸出しないで、国内の促成栽培用に使われている。出荷先組合によって出荷先が違い、それぞれの出荷先からさらに関東方面を中心に、九州、四国地方等に送られている。

後もオランダから種球を入手し、チューリップ栽培が盛んに行われている。

チューリップ栽培面積の移り変り (八幡地区)

昭和7年度	昭和29年度	昭和44年度	平成6年度
20ha	4、3ha	7ha	16、5ha

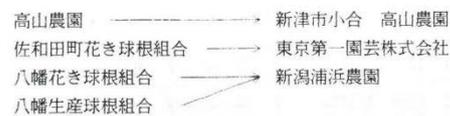
現在、八幡地区では、昭和6、7年頃と同じくらいチューリップ栽培が盛んである。その理由としては、真野湾に面している砂丘地帯がチューリップ栽培に最も適しており、八幡の砂丘地で栽培した球根は開花が1か月ぐらい早く、大変評判がよいことがあげられる。出荷した球根は出荷先でビニールハウス栽培し、クリスマス前に切り花として売りに出される。少しでも開花が早い質のよい球根が求められている。そのほか禁煙、輸入たばこの増加、農業従事者の高齢化などからたばこ栽培を止めて、少しでも作業の楽なチューリップ栽培に切り替えた農家が多いこと、また、稲作とチューリップ栽培は忙しい時期が重ならないという利点がある。

平成7年度のチューリップ栽培農家戸数は59戸で、昭和44年の130戸と比べると約70戸も減少しているが、耕作面積は増加している。チューリップ栽培もほとんど機械化され、全ての作業を機械で行っている農家もある。

3、4年で品種の好みが変わるので、機会がある度によく調べてチューリップを育てていく必要があり、農家の人々はいろいろ研究している。

球根組合 (平成7年度現在)

組合名	代表者
高山組合	本間昭市
佐和田町花き球根組合	加藤 弘
八幡花き球根組合	本間敏康
八幡生産球根組合	本間重宏



平成6年度の販売球数は456万球、販売額は5,540万円である。

(6) 農業の問題点

- ・兼業農家の増加
- ・極端に忙しい農業経営
- ・畑作中心の農業のために肥料、薬剤に費やされる農家負担の増加
- ・後継者問題

2 醸造業

- 酒造業 明治8年に開業し当時の製造量は、200石といわれたが、現在は製造していない。
- 味噌業 慶応年間 製造量1400貫 現在は製造していない。
- 醤油業 慶応年間 石井さんが開業した。明治20年ごろに本間さんが開業、製造高50石。現在は製造していない。
- 製酢業 明治22年、酢屋さんが開業。当時の製造高50石といわれたが、昭和44年度は島内ただ一軒の造り酢屋となり、120石を製造した。しかし、現在は製造していない。

3 商工業

(1) 商業

昔、相川の鉾山が盛んな頃には「相川十萬の野菜の供給源」として栄えた当地区では、野菜売りが最も大きな資金源であった。

この頃には「かねた棒」と呼ばれる棒の両端に野菜をぶらさげてかついで売り

歩いたり、仲買商人を通したりしていたといわれる。

また、小木の町が大消費地となると、地域にできる酒や酢などを売ったといわれる。この頃になると小木通いの定期馬車もあったが、多くは肩に担ぎ、小木や赤泊までも売り歩き、一日で商って帰って来るのが普通だった、といわれている。古くからの市

地藏市

八幡には村内遍路の道しるべとして義民の追善のためにつくられたといわれる辻堂が多くあるが、この縁日の8月23日には大きな市が立って賑わったといわれている。

八幡市

八幡さんの例祭、9月15日は島内四大市のひとつに数えられ全島から商人が集まり境内はいうに及ばず、学校沿いの道、グラウンドにまでも市が立つ。

以前は、この市が当時の農機具の総市の様子をみせ、ここで買い物をして一年の農業の締めくくりにかかるといった様子だったという。

八幡商人

戦争前後までは八幡にも多くの商人がおり、八幡新町、八幡町に居住していた。この人たちは多くが店舗を開かず、佐渡各地の市に出かけて商売をした。特に呉服商が多かったといわれている。これが、戦時の厳しい統制のために商売をやめた人も多いたといわれる。

八幡の商業の現状

戦時統制と大商店街河原田を近くに控えていることも原因となっており、現在では、毎日の生活に必要な品を扱う店が数件あるだけで目立った商店街はない。交通の便もよくなり、多くの人が河原田の商店街や、スーパーマーケットを利用している。

	昭和44年度	平成7年度
雑貨	8軒	3軒
専門	16軒	8軒
	たんす店	たんす店
	建具店	建具店
	酒屋	酒屋
	醤油	材木店
	酢屋	
	材木店	
	自動車	
生協	1軒	1軒
	佐和田農協	佐和田農協
	八幡支所	八幡支所

商取引

八幡から外部へ出されるもの

昭和44年度、八幡から出されるものは農業生産物がほとんどで、米、野菜、タバコ、チューリップが中心であった。これら以外には、たんすづくり、酢、醤油などがあつた。

現在は、農業生産物の外は、たんすづくりだけになってしまった。

八幡地区に入ってくるもの

昭和44年度は、農業生産物以外は、ほとんど外部から移入されたものであつた。この様子を店種別にまとめてみると、下記の表のようになる。

店種	佐和田町内	両津	島外
雑貨店	6.8%	2.3%	9%
専門店	2%	1.0%	8.8%

この他問屋さんに当たるものに、農協前の市橋商店があつた。また、田中商店、

塚崎牛乳店、酢屋さん、本間醤油店などは、地区に数軒残るたんす屋さんなどと共に生産、卸売り、小売りの三つの仕事をしていた。

しかし、現在は、田中商店と2軒のたんす屋さんだけが、生産、卸売り、小売りをやっている数少ない店である。

(2) 工業

八幡だんすはこの八幡を代表する工業製品といえる。

八幡だんすの移り変わり

八幡だんすの技術のもとになったといわれるのが、越後の出雲崎の仏具師である。八幡にこの技術が入つたのは明治の初めの頃のことである。

この頃のたんすづくりの技術の受け継がれ方は徒弟制度のもとで養われたもので、小木方面からまわり歩く職人まがいの人の仕事を見て、八幡からも弟子入りした。八幡で最初にたんすをつくり始めたのが「出店さん」といわれている。

下行きだんすの頃

次々と広がるたんす技術は明治から大正にかけて「下行きだんす」と呼ばれていた。北海道向けのたんすがとてもよく売れ、たんす専門店は30軒余りもあり、この外に販売だけを行う商人も数多く、その忙しさは昼も夜もたんすをつくって休むひまもないほどだったといわれる。

そのころの輸送機関としては、北海道から「にしん」を積んできた帰船船を利用して運ばれていた。

白木だんすの頃

大正の末頃になると、いままで多く売れた「下行きだんす」も売れなくなり、「白木だんす」の時代を迎える。

このたんすは、大正の中頃まで盛んにつくられた。「ぬり師」によって色をぬった「ぬりだんす」は、半分だけ着色され、大正年間に多く作られた「半白木だんす」と比べて、昭和に入ってから喜ばれた木目の美しさを大切にたんすに付けられた名前である。この時代のたんすの特徴は、木の美しさときちんとした感じを加える金具の美しさが大事にされた。金具は地元金具から三条市の金具を使用

するようになり、この傾向は昭和12年頃まで続いた。

その後15年から20年間は、たんすの最もよく売れた時期で、出来具合はどんなであつても多くのたんすが売れた。

昭和44年頃のたんす

昭和44年頃にたんすを作っていた人たちは八幡内に5軒あつたが、たんす職人は次第に少なくなつていった。

下行きだんすの頃は、2,000本、昭和に入つても1,000本余りのたんすを作つた八幡の人々は、年間50本位のたんすしか作り出せなくなった。

現在のたんす

現在たんすを作っている人たちは、八幡内に2軒あるだけになってしまい、年間25本位のたんすを生産している。また、子供の減少により、たんすの注文も減ってきており、後継者がいないという問題点もかかえている。

今後の傾向

現在は新潟方面から入ってくる合成材を使ったたんすが多いが、次第に値段が高く付くようになり、また、30年の歴史の間に次第にその欠点も表われてきて、以前の白木の桐だんすが見直されてきている。現在の販路は、25本の生産量のうち1/3が東京方面に出荷している。

参考

たんす製造工程

- ① 原木とり 秋の彼岸から春の彼岸の間によくしまった桐材を伐採
- ② 材をつくる 梅雨後一土用干しを経て、8月下旬に収納し、9月15日の八幡祭りが済むと作業に入る。
- ③ 細工 木取り一組立て一仕上げ一塗装（グリラン塗装）一金具付け（東京金具を使用）

(3) 八幡村の商工会

沿革

昭和22年 八幡村商工会成立

その後、大きな商店を中心にした商工会議所の設立をみる。

昭和35年 商業会の制度が法制化され、佐和田町商工会が成立、現在は専任職員（国・県費負担）の指導のもとに行われている。

現在は八幡だけの商工会はなく、佐和田町商工会に加盟している。

4 東北電力と佐渡の電力事情

(1) 沿革

明治40年 当時の三菱合資会社が相川鉱山の採鉱用のため500Kwの発電機を用いて点灯を開始した。

大正2年 佐渡水力電気株式会社が、両津町の一般家庭や事務所、工場等へ電灯供給を開始した。当時、ほとんどの家庭では一軒が一灯の電球のみを夕方から翌朝にかけて使用していた。

大正中期～昭和初期 各地域（相川、小木、赤泊、吉井、白瀬、佐渡水力など）へ電灯供給が行われた。いずれも小規模会社の苦しい経営であり、料金も高く不安定な供給であった。

昭和2年 発電所の統合が進み、佐渡電灯株式会社と白瀬が中心になる。

昭和12年 佐渡島内の県道沿いは点灯

昭和13年 電力国家管理法が制定される。

昭和18年 配電統合令により、東北配電株式会社にまとまる。

昭和22年 八幡地区県道沿い以外の野町坂などの分線が完成した。

昭和25年 部落延長工事（黒山などの特殊地域を除いて）が完成

昭和26年5月 電気事業再編成令が公布、東北電力株式会社が創立

昭和27年 佐渡火力発電所（750Kw）ができる。

昭和38年 両津火力発電所（3,000Kw）ができる。

昭和43年 両津火力発電所（3,000Kw）増設

昭和45年6月 両津火力発電所（5,000Kw）増設

平成4年6月 相川火力発電所1号機（10,000Kw）ができる。

平成6年6月 相川火力発電所2号機（10,000Kw）ができる。

III 教育

1 維新前の教育

当村における寺子屋式の学校は、はっきりとは分らない。田望小路の「弥三」さんの家にあつたと伝えられるが、建物の構造から見て、茂左門さんあたりも学校のようなものがあつたのではないかとされる。その後、八幡宮の神官の家でも学問を教えたといわれる。

学習は季節によって多少変化はあつたが、大体午前8時に集まって午後3時に終わり、科目は「読み、書き、そろばん」だけが教えられた。

2 維新後の教育（別紙年表参照）

3 八幡村教育会

昭和4年、八幡村の教育を進展させるためにつくられた、毎年4月に総会を開き、その年の計画を立て、会長、副会長、その他幹事において庶務会計の仕事をした。

4 佐渡共同職業訓練学校

所在地 佐和田町大字新田 小学校前

設置の経過

昭和33年職業訓練法の制定により、事業内職業訓練の制度が確立され、在職従業員の技術向上を図ると共に産業振興に寄与するために、いち早く佐渡職業訓練協議会を結成し、旧中学校校舎で佐渡共同職業訓練校として訓練を開始した。昭和44年、職業訓練法の改正に伴い、高等課程履修校として佐渡高等職業訓練校と改称、今日に至る。

沿革

昭和43年5月 知事認可により、佐渡共同職業訓練所開所 設立団体

(2) 電力状況

発電量

終戦当時	612Kw	水力	112Kw	火力	500Kw
昭和45年	19,262Kw	水力	112Kw	火力	8,150Kw 3,000Kw 3,000Kw 5,000Kw
現在	86,002Kw	水力	1,852Kw (7ヶ所)	火力	84,150Kw 両津(1~9) 56,000Kw 佐渡(1~8) 8,150Kw 相川(1~2) 20,000Kw

電気の使用状況

年間を通じて最も電気が消費されるのは、真夏の猛暑が続く午後3時から午後4時にかけてホテルや民宿等が冷房設備を運転する時間帯で、毎年電力需要のピークとなり、過去の記録として平成6年8月12日の74,000Kwがある。

また一般家庭の消費状況も文化生活を反映し、年々堅調な伸びを示しており、一戸平均の使用電力量は、240Kw/hとなっている。

東北電力以外の送電

昭和44年度頃は、東北電力の路線内で、新穂村の生樺（戸数5軒）以外は全地域に配電されていた。東北電力以外の発電の形式をもっているものには、旧高千村 外海府（農協で自家発電）戸地 戸中部落（組合立発電所）があつた。

佐渡建具組合（組合員65名）佐渡左官組合（組合員80名）

昭和44年4月 佐渡大工組合加入（組合員800名）

昭和44年10月 佐渡共同職業訓練校と呼ばれるようになる

昭和45年4月 佐渡高等職業訓練校と改称された

昭和49年4月 建築製図科が新設された

設立趣旨

- ・実際に仕事はしていても、正規の技術者としての資格、能力を持たない者が多く、技術差が大きい。この問題を解決するために設立された。
- ・事業主及び成人技能者の資質向上を図る。
- ・後継者養成のための施策として設立される。

訓練科及び期間

科別	区分	訓練期間	応募資格
木造建築科	普通訓練課程	3か年	中学校卒業程度
建築製図科	専修訓練課程	6か月	高等学校卒業程度

各科訓練内容

科別	訓練内容
木造建築科	建築構造および設備、建築生産概論、工作法、規く術、施工法、測量、材料、仕様積算、設計製図法規実技等の専門を習得すると共に、木造建築の専門的技術を習得する。
建築製図科	建築構造、構造力学、建築施工、建築計画、法規等専門的学科を習得すると共に、設計製図の専門的技術を習得する。

・年間40日 1日8時間で月3~4回の割。
合計 教科300時間、実技1,500時間（雇い主のもとで訓練を受ける）
訓練種別

- ・養成訓練
 - 1類 中学校卒業者のため
 - 2類 高等学校卒業者のため
 - ・向上訓練 一般の人が技能士になるために受ける。
 - ・監督訓練 満5歳以上の技術者対象の訓練
 - ・能力再開発訓練 他の技術を持つ人たちが建築関係に入りたい時
 - ・再訓練 5年ごとに技能の再訓練を行う。
 - ・指導員訓練 訓練校の指導員となるための訓練
- 訓練校を修了すると
- ・修了と同時に技能士補の資格が得られる。
 - ・1・2級技能士試験の受験資格が得られる。
 - ・授業料、教科書代は事業主が提供する。

平成7年度入校状況

科別	区分	訓練生数			備考
		新入生	在校生	計	
木造建築科	1年	10		10	高卒8 大卒2
	2年		9	9	中卒1高卒6大卒2
	3年		4	4	中卒1高卒2大卒1
建築製図科	6カ月	5		5	高卒5
計		15	13	28	

IV 民生

1 八幡保育園

所在地 佐和田町大字八幡1533-2
沿革 昔、八幡に託児所を初めてつくったのは、辰巳の中島いそ氏で、昭

和4年3月夫角次氏と一緒に、小学校の校舎の一部(旧校舎の理科室)を借りて幼児を預かり始めた。そのころは給料ももらわないで、ひたすら「子供かわいや、村だじ」で奉仕したものだが、託児所の場所がなく、民家(本間氏)社務所、旧中学校校舎、旧小学校の薪小屋など、転々と移り変わり苦労した。また、最初は幼児30名位だったのが、第二次世界大戦中は疎開者が多くなり、幼児も80名余りに増え、おやつには大変困ったそうだ。中途から役場の援助をもらい、おやつ代、保育の増員などあったが、それでも経営はとても苦しいものであった。

昭和35年、町営の保育所が今の小学校の体育館の位置にできあがり、4月1日に開所された。そのとき、中島氏経営の託児所もそこへ一緒にされた。昭和54年4月には、八幡保育所から八幡保育園となった。現在の保育園は昭和55年7月に着工し、昭和56年1月に竣工した。総工費は、約1億3千6百万円であった。正式に開園したのは、3月である。

当時の定員は120名であったが、しだいに子供の数が減少し、昭和61年度には定員を90名に、平成6年度からはさらに減って60名の定員になった。

在籍園児数

	63	元	2	3	4	5	6	7
1歳児	5	5	3	2	3	2	1	1
2歳児	13	13	9	8	7	3	3	6
3歳児	19	17	18	12	12	14	6	7
4歳児	19	20	17	17	13	11	15	5
5歳児	15	20	30	17	23	14	13	13
合計	71	75	77	56	58	44	38	32

V 保健

1 佐和田町上水道

	創設	第一次拡張	第二次拡張
年度	昭和36年	昭和50年	平成元年
給水人口	7,000人	8,000人	8,000人
1日最大給水量	1,260m ³	3,200m ³	5,400m ³

*平成7年12月末日 佐和田町給水人口 8,215人

上水道の給水区域 佐和田町のはほぼ99%の家庭に給水されている。
簡易水道地域は、二宮・沢根地区、また簡易水道は田畑に供給されている。

上水道の水源 八幡地区に5基の井戸(第1号井・第2号井・第3号井・第4号井・第5号井)があり、浄水場1カ所、配水ポンプ上1カ所がある。また平成8年度には、新設配水池(2100m³)がオープンする。
送水体制は、24時間ポンプで圧送。

水道給水人口の推移(人)

	上水道	簡易水道	計
昭和60年度	7,976	1,514	9,490
63年度	7,833	1,483	9,316
平成3年度	7,856	1,634	9,490
5年度	8,041	1,630	9,671
7年度	8,215		

主な施設

凝集沈殿地

- 1 凝集沈殿池
- 2 急速混和池
- 3 排水
- 4 薬品室

自家発電装置設備

浄水施設

- 1 濾過池(除鉄)
- 2 マンガン砂濾過池(除マンガン)
- 3 浄水池
- 4 浄水場建物
- 5 浄水施設排水

配水施設

- 1 配水ポンプ
- 2 加圧装置
- 3 配水管
- 4 消化設備

2 佐和田町下水道

国府川流域下水道

国府川流域下水道は、国府川流域内の町村(佐和田町・金井町・真野町・畑野町・新徳村)から発生する下水を集めて処理した後、国府川へ放流する下水道で、幹線幹渠(下水道管)と、これに関連するポンプ場及び終末処理場からなり、県が事業主体として施工を行っている。

流域の5カ町村の下水は、それぞれの町村が施工する公共下水道によって集められ、流域下水道の幹線管渠の流入点へ接続され、末端の終末処理場に導かれ、ここでまとめて浄化し国府川河口へ放流される。

工事は平成元年度から始められ、すべてが完成するのは平成20年度であるが、佐和田町と真野町では平成7年度から処理区域の一部が完成し、使用を開始している。(佐和田町では平成2年度から下水道工事を開始)

佐和田町が実施する公共下水道の範囲

各家庭や各事業所などの排水を「国府川流域下水道の下水道管」へ流すために必要な「公共汚水マス」の設置や「下水道管」の布設工事を行っている。

処理区域内の道路敷内に枝管を布設し、各家庭や一事業所ごとに「公共汚水マス」を1個ずつ設置し枝管に接続する。枝管は幹線管渠にまとめられ、「国府川流域下水道の下水道管」の流入点に接続される。

佐和田町公共下水道計画（計画図参照）

処理区分	地区番号	計画人口	面積 (ha)	施工予定年
第1処理分区	①	450	23.4	H10~14
第2処理分区	②	974	44.3	H2~6 H10~12
第3処理分区	③-1	1,500	22.2	H17~20
	③-2	4,662	126.9	H6~15
	③-3	1,094	27.4	H10~14
	計	7,256	176.5	
第4処理分区	④	920	30.6	H16~20
第5処理分区	⑤	300	10.2	H18~20
計		9,900	285.0	

- * 八幡地区は③-3 平成10年度~14年度
- ④ 平成16年度~20年度
- ⑤ 平成18年度~20年度

- ④エアレーションタンク 活性汚泥といわれる多量の微生物の入った泥と下水に空気を送り込んでかき混ぜる施設。下水の汚れは微生物の餌となり、フロックと呼ばれる沈みやすい固まりになる。
- ⑤最終沈殿池 固まりを沈殿させ、うわづみをほとんど透明な水にする施設。
- ⑥塩素混和池 海や川に放流するにあたって、処理水を滅菌する施設。
- ⑦汚泥濃縮タンク 汚泥を濃縮して量を少なくし、後の処理がしやすいようにする施設。
- ⑧遠心濃縮機 沈みにくい汚泥を遠心力を利用し、濃縮して量を少なくし、後の処理がしやすいようにする施設。
- ⑨汚泥消化タンク 濃縮された汚泥を嫌気性の微生物の力を借りて、消火する施設。
- ⑩汚泥脱水機 消化された汚泥に薬品を加え、機械で脱水する。

3 ゴミ焼却場

佐和田町のゴミは、これまで「大佐渡じんかい処理センター」（佐和田町・相川町・金井町の3町で構成 所在地：佐和田町大字中原103）で処理されていた。他の市町村では、新穂村・畑野町が、新穂村・畑野町衛生施設組合を組織、真野町も独自の焼却施設があり、それぞれ稼働していた。

しかし毎年増え続けるゴミの量、ゴミの多様化に対応するために、平成4年3月、「佐渡じんかい処理組合」を設立、その後より効率的な広域行政を推進するために、一部事務組合の複合化が行われ、平成6年8月、島内の8組合が統合し、佐渡広域市町村圏組合を発足している。

旧佐渡じんかい処理組合で構成する6カ町村は、今後のゴミ対策を効率的かつ行政サービスの向上をはかるため、可燃ゴミ及び不燃ゴミ、粗大ゴミを適正かつ安全に処理していくために、目下新施設の建設を予定している。

計画処理区域面積 1,207ha
 計画処理人口 31,900人
 計画汚水量 22,200m³/日
 下水排除方式 分流式
 幹線管渠延長 21.78Km
 ポンプ場 11カ所（マンホールポンプを含む）

国府川処理場（計画図参照）

処理法 標準活性汚泥法
 終末処理場面積 3.0ha
 放流先 二級河川 国府川

総事業費 144億円

施設の仕組み

（排水までの処理）*図参照

- ①下水管渠
- ②沈殿池・ポンプ棟
- ③最初沈殿池
- ④エアレーションタンク
- ⑤最終沈殿池
- ⑥塩素混和池
- ⑦汚泥濃縮タンク
- ⑧遠心濃縮機
- ⑨汚泥消化タンク
- ⑩汚泥脱水機

（施設の役割）

- ①下水管渠 家庭や工場から排出された下水を集めて処理施設へ導く。
- ②沈砂池・ポンプ棟 大きなゴミや砂を取り除き、ポンプで最初沈殿池に汚水を汲み上げる施設
- ③最初沈殿池 ポンプで送られてきた下水がゆっくり流れて、沈みややすくなった浮遊物を沈殿させる施設。

ゴミの量及び処理経費の推移（相川町・佐和田町・金井町・新穂村・畑野町・真野町管内）

昭和63年度	18,177 t	1億7,000万円
平成2年度	18,993 t	2億円
平成4年度	20,522 t	2億円
平成6年度	21,651 t	2億8,000万円

一人当たりの出しているゴミの量と処理経費

昭和63年度 1,053g（燃えるゴミ822g 燃えないゴミ231g）
 平成6年度 1,322g（燃えるゴミ938g 燃えないゴミ384g）
 一人当たりの費用 6,267円
 1tあたりの費用 12,986円

平成6年度のゴミ処理量

	可燃物ゴミ	不燃物ゴミ	粗大ゴミ
佐和田町	4,456 t	653 t	125 t
相川町	4,322 t	713 t	166 t
金井町	2,376 t	529 t	70 t

（参考）

新穂村 1,436 t（可燃物）
 畑野町 1,298 t（可燃物）

佐和田町と八幡地区のゴミステーション数

佐和田町 410カ所
 内八幡地区 70カ所

新施設の概要

名称 佐渡クリーンセンター
 (佐和田町・相川町・金井町・新穂村・畑野町・真野町 佐渡広域市町村圏組合)

所在地 佐和田町大字中原地内
 敷地面積 約16,600m²
 建設面積 約 3,000m²
 工期 平成7年～平成10年

ゴミ焼却処理施設

焼却能力 80t/日(40t/16h2基)
 炉形式 准連続燃焼式焼却炉
 構造 鉄筋コンクリート及び鉄骨軽量発泡コンクリート造
 煙突 地上59M

粗大ゴミ処理施設

処理能力 25t/5h
 処理方式 破砕機による破砕 機械及び人手による選別
 構造 鉄筋コンクリート及び鉄骨軽量発泡コンクリート造

*事業費(平成7年度当初予算)

総額 6,758,526,000円(4カ年の継続事業で、6カ町村で按分)

4 し尿

施設の概要

名称 国仲地区清掃センター(平成6年8月改称)
 所在地 佐和田町大字八幡字辰巳1915
 設置者 佐渡清掃組合
 構成町村 佐和田町・相川町・金井町・真野町・畑野町・新穂村

*75% 清掃センターの燃料として使用(リサイクル)
 25% 畑作の肥料として無料で配布。特に八幡地区の農家の人々が利用している。

佐和田町の年度別清掃センターへの投入量(リットル)

昭和61年度	3,432,060
62年度	3,372,264
63年度	3,497,762
平成 元年度	3,521,530
2年度	3,627,260
3年度	3,699,140
4年度	3,748,990
5年度	3,801,874
6年度	3,602,390

*浄化槽の汚泥は、約38.8%である。

VI 観光

1 八幡館

位置及び面積 佐和田町大字八幡字辰巳
 敷地 13,000坪(含博物館)
 建物 16,347m²

設立年月日

株式設立 昭和25年12月25日
 営業開始 昭和26年 8月19日
 竣工式 昭和26年 8月31日
 新築開館 昭和63年 4月 1日

敷地面積 3,863m²
 処理能力 30キロリットル/日 高度処理以後50キロリットル/日
 処理方式 二段活性汚泥法処理方式(低希釈法)+高度処理
 工期 昭和58年7月～昭和60年3月
 総事業費 679,473,000円

し尿処理の流れ

- ①尿・便が処理場に運ばれる。(受け入れ室)
- ②破砕機にかける。(破砕機室)
ドラムスクリーン・スクリュープレス(便・ぼろ・尿とに分ける)
- ③第一次処理をする。
攪拌槽と曝気槽で窒素と有機物が取り除かれる。(水と炭酸ガスを投入)
- ④第二次処理をする。
処理槽・沈殿槽で第一次処理の混合液を、さらに微生物で仕上げた後、汚泥と処理水に分離する。
- ⑤高度処理をする。
第二次処理水を凝集沈殿・オゾン・濾過の順で処理し、COD、リン、色素、微細浮遊物などを取り除き、無色透明な処理水にする。(薬注室で薬品を投入)
- ⑥濾過器にかけ放出する。
第二次処理水を、再び濾過器にかける。国府川から海へ放出する。
- ⑦汚泥処理をする。
余剰汚泥、高度処理汚泥を濃縮後脱水し、さらに乾燥機で水分30%以下に乾燥造粒した後、取り出したり焼却したりする。(乾燥汚泥と灰ができる)
- ⑧脱臭処理をする。
水槽・処理機械などから発生した臭気は、酸・次亜塩素酸ソーダの洗浄と活性炭による吸着で完璧に処理する。

国仲地区清掃センターのし尿処理量

年間投入量(リットル)
35.8t

創設者 新潟交通株式会社社長 故中野四郎太

中野氏は、佐渡の観光開発をすすめた人で、営利を考えないホテル業を目指し、佐渡の観光を開発したいという考えから設立されたものである。従って株も発行株数9千万株の内、8千万株は新潟交通の所有で、残りの1千万株は島民となっている。

従業員

常時 87名
 臨時パート 77名
 宿泊施設並びに収容人員
 客室 和室 52室(バス・トイレ付)
 37室(トイレ付)
 洋室 5室(バス・トイレ付)
 浴室 温泉 男女各1
 温度49℃ 地下1,000mより噴出
 泉質 弱食塩泉
 家族浴室 1
 収容人員 430名

その他、各種娯楽施設、駐車場などがある。

また、毎夜、松風会(八幡)、松波会(河原田)、小波会(真野)の人たちの民謡出演がある。

年間宿泊利用者 約74,000人(通年観光)

参考

昭和39年新潟国体の際御来島された天皇、皇后両陛下は、当八幡館に御宿泊になり、昭和33年には、皇太子殿下(現天皇陛下)が、また、26年には、義宮(現常陸宮)様が御宿泊された。なお、高松宮、秩父宮両殿下も御宿泊されている。

平成になってからは、6月1日に真野御陵御参拜のために御来島された秋篠宮両殿下が御宿泊された。

2 佐渡博物館

位置 佐和田町大字八幡字辰巳

設立年月日

昭和28年4月10日 佐渡史学会に佐渡博物館
設立委員会生まれる。
昭和31年4月21日 佐渡博物館設立発起委員
会発足
昭和31年9月1日 開館
平成5年7月1日 増改築開館

管理者並びに従業員・役員

館長 本間 寅雄
常勤職員 6名
役員 理事、評議員、幹事 30名

専門部

生物(動植物)地産物 考古 歴史 芸能 産業
芸術 民俗

行事

8月 同定会(理科センターと共催)
11月 佐渡島学習大学
その他企画展

展示室及び資料

企画展示室 各種の特別展
佐渡の全体展示
佐渡島の生い立ちと岩石や化石
佐渡の大昔

- 34 -

比較して半数以下の従業員ながらも、より多くの工事を行っている。

2 有限会社 齋川組

所在地 佐和田町大字八幡町98番地
沿革 大正12年 齋川木材商として齋川勝蔵により創設。建築請負、
製材、木材販売を行う。
昭和55年9月 有限会社設立、商号を有限会社齋川組と改め、
同時に土木部門を増設する。現在に至る。
業務内容 製材、木材販売、一般注文木造住宅、店舗、鉄骨、鉄筋造建築、
一般土木

3 株式会社 遠藤建設

所在地 佐和田町大字八幡1966の1番地
沿革 昭和26年設立
事業内容 土木建築 鋼構造物 舗装 浚渫 水道等の各設計管理と工
事施工
従業員 160名
営業所・出張所 東京営業所、新潟、金井、新徳出張所
年商 平成元年48.2億円
関連企業 (有)佐渡工業(土木 建築の工事会社)
(有)佐渡リース(重機車両のリース会社)
(株)かもこ観光(鮮魚 ドライブイン)
(有)ホテルエアポート(ホテル)
(有)三協(不動産管理会社)

4 株式会社 北陸建材

所在地 佐和田町大字八幡字田屋田8番地
沿革 昭和40年2月設立

- 36 -

古墳時代
佐渡国分寺跡と城館跡
能楽
佐渡の金銀山
佐渡の芸能
信仰
佐渡の鳥類 トキ
海洋
土田麦遷素描展示
千種遺跡の復元住居跡
(縦穴式住居と高床式倉庫)

VII 土木

1 有限会社 北見建設

所在地 佐和田町大字八幡1594番地
沿革 昭和36年 北見建設の名称で創業
昭和39年 法人組織北見建設となる。
事業内容 土木、建築等の公共事業並びに水路、田、河川等の災害
復旧工事
構成員 事業主 北見 仁一
従業員 21名(事業主、役員含む)
設備 自動車 マイクロバス 2台
普通乗用車 2台
ダンプカー 5台
掘削機 油圧ショベル 7台
ブルドーザ 1台
転圧機 振動ローラ 1台
グレーダー 1台
備考 大型の建設機械導入によって作業の効率化を図り、20年前と

- 35 -

事業内容 土木 建築資材 木材 石材 石油製品 セメントの販売
旅館 食堂の経営 かしボート業
土木建築請負 不動産の売買
土木建設機械 工作機械 自動車 船舶並びに船用機械のリ
ースおよびレンタル
営業品目 生コンクリート 51% セメント21% 鋼材10%
コンクリート2次製品8% その他10%
従業員 62名
売上高 平成6年3月期 5,884,860千円

5 株式会社 北陸コンクリート

所在地 佐和田町大字八幡字田屋田39番地
沿革 昭和47年4月設立
事業内容 生コンクリートの製造販売
従業員 40名
売上高 平成6年3月期 2,728,275千円
製造設備 バッチャープラントを総合的にコントロールし、高品質の生コン
クリートを効率的に生産する中枢機能(ワンマンコントロール、
オペレーションシステム)を導入している。

VIII 安全

1 佐和田町消防団

佐和田町消防団第一分団2部(八幡地域全域)

沿革
明治43年12月22日 初代組頭村岡藤蔵氏始め、30余名の村内の若者を
集めて八幡村消防組を組織し、初組式を挙げる。手腕用ポンプ1
台購入
明治44年 非常時に備えて、岩野町本間金平氏の家の後に、火の見やぐらを

- 37 -

建設する。

昭和9年 村費で手腕用ポンプ1台購入、第一部・第二部を新設。第一部を八幡に、第二部を新町に置き万に備える。

昭和9年9月 八幡町に水槽タンク3か所設置（2間×4間）

昭和10年 八幡少年消防隊を結成し、小型手腕用ポンプ1台購入。学生たちで組織し、訓練・演習は消防団訓練と一緒に、防火思想の普及に努める。

昭和16年 太平洋戦争の国家総動員の詔勅と共に、消防団を警防団に改称。
団長 本間賢吉

昭和25年11月25日 村費並びに寄附行為により、ガソリンポンプ購入。

昭和26年10月 新町と小学校校庭に消防用タンクを設置。

昭和28年6月 鉄塔サイレンを設置。

昭和29年7月 町村合併により、佐和田町消防団と改称。旧八幡村消防団は佐和田町消防団第五分団となる。

昭和46年4月 国中五か町村広域消防となる。同時に佐渡消防本部、消防署発足。現在は佐和田町消防団第一分団2部となっている。

2 佐渡消防本部・佐渡消防団

佐渡消防本部・佐渡消防署

所在地 佐和田町大字八幡1881番地1

竣工 昭和47年3月10日

組織（平成6年4月1日現在）

佐和田町消防団第一分団2部

定数 8名

部長 1名 石井芳郎

班長 1名 本間健二

団員 6名 高橋廣務 計良正司 菊池 隆

榎 義弘 安達幸夫 中山明彦

器材器具の現況

可搬式消防ポンプ 1台

ホース 10台
 その他修理工具 一式
 消防小屋 1棟
 防火用水
 八幡町 3か所
 八幡新町 1か所
 八幡 5か所
 消火栓 28か所
 訓練・演習
 出初式 年1回 1月6日
 演習・訓練 年2回（夏期・秋期）
 常時態勢における業務
 火災に際し消火活動
 その他災害の防除活動（風水害その他）
 出動の現況
 大火以外は他町村へは出動しない。ただし、出動要請の場合はこの限りでない。

IX 史蹟

1 八幡砂垣

「寛永の頃八幡宮の近辺は悉く砂浜にて、風烈しき時は往来の人、目も口もあかず、所々に砂を吹き溜めて小山の如くなるかと思へば、また風の方向によりて別の所に砂山をなし、遠く泉（金井町）の方まで砂子を吹き送って耕作も自由にならざりけり。其の頃何ものか建議する者どもありて砂垣ということぞ初めける。たとえば幅7、8間、長さ1町或は二町の柴垣を結びて、その中に砂を移し小松を植え、この砂垣をくい違ひになして、浦吹く風の防に構え、三年毎に人夫をあつめて柴垣を結びかえ、松をも植え添えさせけるに、民みな嘆き恨みて謠ひける歌

“八幡砂垣3年廻り、今年やゆひ年ゆはれ年”

斯くおりおりに批判せしに、後5、6年を経て小松は太木となり、柴垣は結は

ねども、自然の土手の如くなりて、良田良圃多く開け、民のかまども次第に数増し、此時に至りて始めて砂垣を悦びけるとなん。」（佐和田町史「佐渡奇談」八幡砂垣の項より）

17世紀の中頃は砂丘の生成が一段と活発であったようである。風の強い時は、往来する人々は目や口を開けることができず、砂丘も風で移動するという状況であった。特に被害のひどかったのは、上八幡村、下八幡村と国府川をはさんだ四日町村、長石村、新町村、吉岡村、国分寺村、大川村、竹田村、真野村、名古屋村、三宮村の12か村であった。奉行所は、この12か村に命じて「組合」を作らせた。防砂、防風のための保安林を作るために、「砂垣」と称する垣根を砂丘上に作らせるためのものであった。

多くの耕地を、飛砂や潮風から守るためには「防風林」がどうしても必要である。防風林を作るといっても、いきなり砂丘に苗木を植えては、苗木は砂に埋まり風に飛ばされてしまう。苗木を守るためには人工の垣根を作り、苗木が成長するのを待たなければならない。この人工の垣根が「砂垣」である。

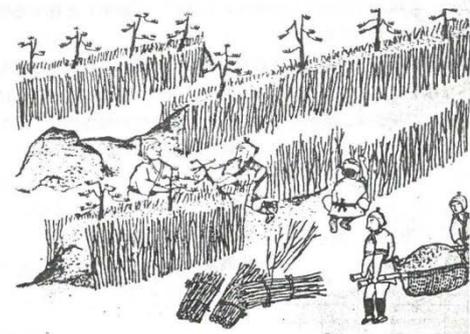
砂垣工事の開始 寛永二十年（1643）
 佐渡奉行の命令

長さ 12町（約1,308m）
 幅 7.8間（約142m）

上記を単位として柴垣を組んだという。

・砂垣は1間（約1.8m）について、杭木5本、柴3尺縄で5束、小成2本の材料を使った。この材料は前出の12か村を始め、近隣の各村の共有林で伐り出し、負担しなければならなかった。共有林のない村々は幕府の御用林（御林）から伐り出すことが許された。

・砂垣を作るための人足は近隣の村々からも徴発された。近隣の村々からの人足は1人1日につき、5合の御扶持米（手間）を与えられたが、しかし12か村の組合の村々からの人足には与えられなかった。



砂垣作り 資料1 砂が動くの防ぐために工夫された「砂垣」作り

砂垣作り 資料2

砂垣の制札

- 此砂垣之杭木一本成共盜取問敷事
- 砂垣廻二植置候松柳抜取問敷事
- 砂垣近所へ牛馬猥ニ放申問敷事

右之趣相背者於有之八急度曲事可申付者也

寛文20年5月

2 八幡堤 「佐和田町史」より

八幡堤は寛文2年(1662)、奥野によって石田村に築造された。八幡の開田のために溜池用地をとられた石田村は面白いはずはなかった。が、相手は奉行所の留守居役である。「泣く子と地頭には勝てぬ」と諦めた八幡堤の築造は、ただ単に用水池の水を石田川へ落とし、さらに石田川の堤防を埋積で痛まし大江川へ通すという大工事を行った。

築造当時の面積は、縦170間、横60間、水深2丈、灌漑面積は約79町歩とある。

ところが築造の費用はいくらで、だれが出したのであろうか。残念ながら不明であるが、官営で行われたものと考えられる。享和元年(1801)の大改修時の「御普請仕々帳」の末尾に次のような記載がある。

「右は地方掛仙田八三郎見分けの上、書面の通り御入用相渡し、村方引請にて御普審仕り候処相違これなく候、仕様帳面写し相渡し置くも也」

この文言によると、入用金を村方(八幡村)へ渡し、工事は村の人々によって行われ、仕様書のとおり工事が完成し、奉行所から仙田八三郎が出役見分したことがわかる。

なお同帳によると、このときの上八幡、下八幡両村の負担は、延3,940人の人足のうち1,230人だけであった。その後江筋に田畑が開かれるに従い、元禄7年(1694年)さらに規模を大きくした。

八幡堤の地代は、元禄年中より米約四石ばかり(幕末期では四石五斗年々納めてきたが、明治維新のあと奥平参謀の治世に、八幡両村より36両を地主本田寺に渡し従来の借地料が廃された(二宮村志)

八幡村に新田を開き、八幡堤を築いた奥野七朗右衛門も、隣村四日町村の中使兵右衛門一家への暴圧その他の悪事が露見し、寛文十年(1670年)改易(追放ともある)となり、故郷甲州へ帰り名も秋山九朗右衛門と改めて過ごしたが、延宝6年(1678年)6月10日死去した。

一般に寛延の一揆については、本間太郎右衛門らが百姓の窮乏と奉行所役人の不正を見かねて立ち上がった、というようにいわれているが、そんなことだけで人間が血を沸かし、命を捨てて立ち上がるものであろうか。

「八幡の白ガラス」

困ったことが起こったときは、きっと白ガラスが飛んで来て助けてくれるという。

今でこそ八幡は広々とした耕地を有し、八幡の野菜か野菜の八幡かといわれるほど、佐渡で一番畑作の盛んな所だが、昔は見渡す限り一面砂丘の続く荒地だった。ひと度暴風が吹き荒れると、その砂は空高く舞い上がって、遠く泉(金井町)の御殿まで飛び、それこそ順徳上皇をして、「あゝまた八幡の砂が吹き荒れているのか。ほととぎすたちはさぞ辛い目に会っていることだろう。」と嘆けかきめたとはいふほど、昔は荒地だった。

ところが江戸は享保の頃、国府川河口脇、今の辰巳部落一帯の荒地を開墾植林して、新しい村をつけた男がいた。その人こそ「おらが村の英雄、開祖辰巳太郎」と呼ばれた本間太郎右衛門であった。二宮村からおりて来た彼は、この広い荒地を見て何とかして耕地を開こうと決意した。いばらを焼き払い、松を植えて砂防林を作り、溜池を掘って雨水を溜め、どんな野菜が砂地に向かいいろいろ研究するなど、それこそ筆舌に尽くせないほどの辛酸をなめた。しかし、太郎右衛門の描いた新しい村づくりに進んで参加する者がだんだん増え、やがて新しい集落辰巳村が誕生した。

そこまではよかったのだが、その後がよくなかった。鈴木九十郎という者が佐渡奉行の時だったが、奉行はたいがい江戸勤めをしており、留守居役の役人たちが勝手に「百姓は油かすのようなものだ」とうそぶいて、さんざん重税を掛けてきた。あした(朝)に残月を仰ぎ、夕べに星をいただくほど働いて育てあげた野菜を役人たちは、

「八幡の野菜はうまい。租税野菜をもっと持って来い、持って来い」

といって、毎日大八車で相川まで運ばせるので、村人の暮らしはいっそうに楽にならなかった。名主太郎右衛門は百姓を代表して再三相川の奉行所へ足を運んだ。しかし、いくらお願いしても、租税を軽くしてくれなかった。

「米や野菜で年貢が納められぬのなら銭で納めよ。銭がないのなら娘を女郎奉行に出せ。海府の百姓はみんなそうして年貢を納めているんだぞ。それが嫌なら

幕府や奉行所が、儉約、儉約と叫べば、それに公然と反旗を翻すことは難しい。しかしまた、不思議なことに、大声で儉約を唱える人も、自分のこととなるとなかなかそうはいかない。そんな時代の中、「言っても駄目なことは言わないほうがよい。金がないのなら儉約せよと叫ぶ代わりに、売れるものを作ってそれを売出し、金を手に入れるほうがよいのではないか」と考える人たちが生まれてきた。

山田村(現在の佐和田町山田)の太郎右衛門と後山村(現在の畑野町宮川)の与三兵衛らも、そうした意見の持ち主だった。二人は佐渡全島261か村肝煎名主(名主総代)をしていた元文元年(1736年)、国府川の下流域右岸の荒地76町歩を開墾することを奉行所に申請した。

そうして辰巳村はできた。元文元年の辰年と元文2年の巳年に開かれた村ということで、辰巳村の名が生まれたという。畑の周りには飛び砂を防ぐため、松の木78,000本を植えた。その松がいま畑のあちこちに残っている黒松である。こうしてできた畑にタバコ・サト芋・カボチャ・ウリ類などお金になる作物が栽培され、1万人の消費者がいる相川に売りに出された。そうしてお金を手にすれば欲しいものを自由に手に入れることができ、辰巳村の百姓たちはぜひたくを文化として実感することができた。

ところで、ものを作ってよそに売りお金を儲ける、という考えをおすすめしていけば、やがてタバコやお茶など、島で作ったものを他国に売りに出すことを考えるのは当然である。

ところが、これまでは佐渡の産物の輸出は一部のもの、たとえば筒鱈(真冬にとれた鱈をそのまま寒風にさらし乾かしたもの)や牛馬などを除いて禁止されていた。禁止の理由は他国に物を売れば、佐渡の物資が少なくなり、値段が上がって鉱山の経営、人々の生活上も好ましくない、と考えられていたからである。その禁止令を守ろうとする奉行所と、太郎右衛門などの商品生産者たちの考えは次第に違いがはっきりしてきた。このようなことから奉行所によって太郎右衛門らは肝煎名主の職を解かれた。

やがて寛延3年(1750年)、太郎右衛門を頭取として百姓の江戸越訴事件が起きた。奉行所の政治・施策の改廃を求めて將軍に直訴が行われた。世に「寛延の百姓一揆」と呼ばれる事件である。

「鉦山」へ入って穴を掘れ」

けんもほろろに太郎右衛門は役人に追い返されてしまった。そこには同じく門前払いを食わされて泣いている百姓がおった。その人こそ後に太郎右衛門と運命を共にする椎泊村(両津市椎泊)の名主弥次右衛門であった。「いくら頼んでもらちがあかん。かくなる上は死を覚悟で江戸表に訴え出る以外にない。」二人は夜道を歩きながら話し合った。

寛延3年(1750年)二人は計画通り江戸表へ訴え出た。佐渡奉行鈴木九十郎は呼び出されて老中の取り調べを受けた。

取り調べは江戸表が直々に行った。九十郎は奉行を免職。留守居役3人は切腹、太郎右衛門ら訴人兩名には斬罪を申し渡された。

訴えは聞き入れられ年貢は半分軽減された。「娘を相川の女郎屋に売りよとばせとか百姓と菜種は絞るほどで」といって、勝手に租税を上げた役人3人は即刻切腹して果てた。

天曆(ほうれき)2年(1752年)7月18日の申(さる)の刻(五時頃)は晴れておった。やや曇い日ざしを受けながら、村々から来た大勢の百姓たちが、竹垣の外から見守っておった。畑の真中には、白いじゅばんを着た太郎右衛門が後手に縄をかけられ座っておった。

一人の役人が大声で怒鳴った。

「いいかよく覚えておけ。百姓の分際で強訴だの越訴だのを企てる輩は、みんな謀反人としてこのようにお仕置きされるのだということを、よく肝に銘じて見ておけ」

それから役人は太郎右衛門の方を向いて怒鳴った。

「覚悟はいいか太郎右衛門。死んで極楽へ行けるとするな。その首はさらし物にされて、道行く物につばをかけられ、死んでも地獄の責苦を負うのじゃ。そしてその体、おまえの耕したこの畑の上で、からすの餌食になるのじゃ。ほら見ろ、さっきからあんなに鳥が来て、おまえの死めのを待つとのじゃ」

太郎右衛門は心静かに目をつむっていた。さっきからむやみにたくさんの鳥が飛んで来て、刑場の上空をカアカア鳴きながら旋回していた。

首斬り役人が出る、人々は口々に念仏を唱えはじめた。その声は波のようにだんだん大きくなった。バサー、刀が振りおろされると、太郎右衛門の首がスポーンと飛び上がった。人々の目は一斉に太郎右衛門の首に向けられた。しかし、ここで奇跡というか神秘というのか、見る者の胆胆を抜くような奇怪な事が起こ

った。落ちて来るかと思った太郎右衛門の首が、地に落ちずそのままカラスの群れの中に飛び込んでしまった。と思うと、みるみるうちに白い一羽のカラスになった。

「アッ白いカラスだ。太郎右衛門どんが白いカラスになった。不思議なこともあればあるものだ」

みんながアレオアレオと見ているうちに白いカラスを取り巻くようにして、黒い鳥が群れをなして飛び去ってしまった。

さっき怒鳴った役人と首斬り役人は、腰が抜けてへなへなとその場に座り込んでしまった。床机に座っていた頭らしい役人が、矢来の所へ来て大声でいった。

「いいかお前ら、首が白いカラスになったなぞと、人心を惑わすようなこというんでねえぞ。むかしからカラスというものは黒いものに決まるとるんだ。それを、白いカラスを見たなどといふらす者がおったら、ただちに捕まえてお仕置きにしてやるから、そう思え。わかったかあ百姓どもえ」（二水会作紙芝居「八幡の白カラス」による）

X その他

八幡地区の年中行事一覧

月	日	こ と が ら
1	1	大師講（嫁・婿を招待する）
	20	すすはらい（松飾りを飾る）
	30	小とし（仏様の歳とり）
	31	大晦日（1年中の総決算をする）
2	1	中暦の正月（大三日として仕事休み）
	2	仕事始め、書き初め、売出し
	4	嫁・婿を年始に招待する
	6	年越し
	7	七草（七草がゆをつくる）
	11	蔵開き
	14	田廻り（ユズリ葉の枝に餅をさして、田の水口に立てる）
	14	八幡宮夜籠もり、裸参り、庚申祭

15	15	染めがゆ 八幡宮春祭 道祖神祭り（とんどや）…飾り松、竹、ワラを焼く
	16	大三日、藪入り、鳥追い
	17	八幡宮祈年祭
	20	二十日正月
	25	天神祭（書き初めを供える）
上旬		（三日ないし四日）節分
	中旬	春祈とう
3	9	山の神（山仕事に行かない）
	10	奥野神社祭
	15	涅槃会（新粉巻き）
	下旬	初午 社日 彼岸（墓参り）
4	3	桃の節句（八幡人形を飾る）
	28	道普請（八幡町）
5	8	灌仏会（あま茶を仏さまに供える）
6	5	端午の節句（鯉のぼり、しょうぶ湯）
	6	道普請（八幡新町）
7	1	衣抜き（衣服を替える）
	7	弁天様祭
	21	聖徳大師祭（八幡町）
	下旬	土用、丑の日（海水浴、薬湯）
8	1	新仏の灯籠立て
	6	墓掃除
	7	七日盆
	13	墓参り
	16	大三日 精霊送り
	18	義民太郎右衛門祭
	20	盂蘭盆
	23	地藏祭
27	諏訪神社祭	
2	庚申祭	
	8	八朔

9	9	宮籠り
	14	八幡宮夜祭（夜角力）
	15	八幡宮祭礼（八幡市）
	上旬	二百十日
下旬	彼岸（墓参り）	
10	9	節句
	13	芋明月（八幡式の明月の祝い）
	23	八幡宮乙祭
	31	神送り
11	10	大根の年取り
	20	恵比須講
	23	八幡宮新嘗祭
	30	神迎え
	中旬	刈り上げ祝
	亥の日（一般に亥の子と呼ばれこたつを開く）	
12	15	紐直し
	23	大師講
	31	八幡宮大払い
	下旬	冬至（かぼちゃを食べる）

今から20～30年前までは、上記の表のようにたくさんの行事が行なわれていた。しかし、現在は、正月、節句などは新暦で行うようになり、八幡独自の行事はほとんど行なわれていない。

9月15日の八幡宮祭礼は、以前に比べ規模は小さくなってきているが、町民こぞって祭りに加わり、楽しい一日を過ごしている。

あとがき

「やってみて・はっきりわかる・たいけん学習」を合い言葉に、体験的な活動を通して豊かな心と、生き生きと学ぶ児童を育成することに努めてきました。ここに、いきいきスクール指定3年間のまとめとして、資料集「わたしたちの八幡」の改訂版を作成することができました。先生方のご苦労に感謝し共に喜びたいと思います。

また、作成にあたり初版本を参考にさせていただきました。当時の編集委員の方々に心からお礼申し上げます。今後、地域を学ぶ資料として活用したいと考えています。

研究同人

初版本 昭和45年3月

編集委員

佐久間完治

本間康一

本書編集にご指導下さいました方々

遠藤真一郎 加藤嘉七 加藤喜代治 後藤俊策 本間勝太郎

佐久間完治 本間俊麿 本間雄次郎 本間嘉晴 村岡鷹次

（アイウエオ順）

参考文献

八幡村資料

二宮村史

P49～54は「八幡小学校118年のあゆみ」

戦後の卒業生 昭和52年11月発行「八幡小学校同窓生名簿 百年史年表」と卒業生名簿をもとに作成しました。昭和21年以降の卒業生の氏名を掲載させていただいております。

昭和21年3月卒58名 加藤栄一、計良鉄男、小村悌五、計良金雄、安達馨、遠藤文雄、山本金弘、若林英治、後藤和悦、安達源太郎、本間盛昭、若林泰雄、本間正四郎、歌選、萩原喜久太郎、矢田小三郎、矢田長久命、本田英樹、稲辺哲昭、関川義人、本間吉広、本間孝、池田岨之熊、加藤武二、本間真夫、本間嘉伸、齋藤実、本間正、計良美智子、安達ミチ子、本間サイ子、本間喜代子、本間久代、本間トシエ、本間絹子、本間静枝、後藤千代美、加藤イヨ子、若林ミサ、本間君江、萩原時子、本間明子、小鷹貞子、村岡美智子、梶田文枝、萩原千代子、本間美智枝、齋川節子、後藤マツ子、金子裕子、本間綾子、榎本隆子、山本節子、若林ミエ子、伊里巖、本間郁子、安藤恵美子、本間悦子、昭和22年3月卒41名 本間比左良、歌伸、松塚幸春、安達巖、安達孝一、遠藤暁郎、臼木幸男、本間忠男、本間勲、太田雅也、本間信弘、小田満之、鈴木牧男、若林啓一、池精一、安達丈夫、仲川八重、計良愛子、本間百合子、清水美恵子、本間美乙子、本間タカ、本間綾子、本間美江子、本間幸子、牛島佐代子、矢田良子、若林滝子、石塚陽子、梶田田鶴子、萩原千恵子、青柳玉枝、関川美代志、高橋智子、梶田ヒデ子、若林公子、小鷹恵子、若林かお子、五十嵐綾子、石塚弘子、若林サチ子、昭和23年3月卒68名 本間武夫、後藤英世、加藤昌之、菊地良治、後藤行雄、石井富士夫、遠藤光男、山本幸男、矢田武、本間照夫、加藤久、本間勲、後藤節夫、萩原弘、萩原喜富美、矢田文十、安達晴好、本間武雄、関川有司、芝林善次、若林幟郎、菊地清明、野上忠、中山恒夫、若林一夫、三木昇、榎藤士朗、若林忠夫、松塚隆也、計良キヌ子、計良シズエ、本間夏子、計良アイ子、計良サチ子、野上一二子、計良トセ子、石井エツ子、小鷹節子、本間キクエ、遠藤ヤエ、本間美保子、後藤美恵子、矢田真弓、本間佐江子、遠藤睦子、石井キミ子、萩原和子、矢田ヤヨノ、安達マリ子、山平咲子、若林澄子、尾上孝子、関川幸子、本間春野、関川ミイ子、計良トミエ、梶田千鶴子、市橋智子、金子章子、安達富美子、本間智恵子、藤井玲子、本間弘子、柳本初江、齋川忠子、本間幸代、刀根優文子、石井道子、昭和24年3月卒59名 石井哲弘、安達一己、本間勉、若林彦市、石井芳郎、本間隼人、本間信夫、本間正彦、矢田勇、臼木忠夫、田中賢治、若林四郎、村岡道弘、村岡敬弘、萩原広保、本間茂允、関川明雄、矢田勇吉、池田憲昭、神長延幸、瀬野時雄、市橋慶一、山田吉伯、若林健吉、計良三代志、本間ヒサ子、本間幸子、歌フミノ、計良ヨシ子、安藤美江、石井玲子、安達孝子、安達恭子、安達ヨシ、安達マスエ、本間サト子、若林ヤエ、村上サヨ子、安達エス子、安達ヒデ、本間静江、本間サエ子、村岡好美、本間キクヨ、関川良子、関川頼子、青柳順子、稲辺富喜子、若林リエ、安藤加奈子、村岡三枝子、吉岡貴美子、小田薫、若林ヒサノ、中山澄江、若林穂子、本間昌子、本間綴子、大豆生田菊代、昭和25年3月卒53名 梶田昭忠、計良ヨリ子、本間栄子、計良千枝子、隅田美代子、石井サヨ子、本間道枝、大塚英子、石井トミ子、遠藤景子、石黒アキ、後藤仁子、本間妙子、遠藤ナツ子、遠藤敬子、近田シホ子、本間考子、歌朝子、本間タヨ子、山平悦子、齋川貞子、高野映子、金子桂子、矢田みどり、本間ヒロエ、遠藤恭平、計良哲男、本間章平、清水雅雄、本間正延、本間芳夫、大久保寿一、本間幸一、石井正雄、安達一弘、萩原敬之、本間明夫、矢田小四郎、梶田計嘉、萩原忠男、関川文郎、本間雅晴、本間清、安達武生、本間靖茂、本間善一郎、本間仁、本田正士、若林孝子、本間佐智子、本間良子、中堀茂、青柳利昭、昭和26年3月卒40名 本間正盛、本間文男、本間康博、本間安夫、小鷹一夫、若林正夫、石井政道、本間建見、本間繁次、本間晴夫、加藤嘉彦、池田憲俊、本間長敏、稲辺亮一、本間満男、中山徹、古桑温、本間保、計良フミ子、本間綾子、安達一子、本間敬子、本間二三子、若林日出子、本間タカ子、本間トヨ子、矢田珠実、萩原キヨ子、萩原千恵子、安達里子、本間貞子、鈴木江美子、芝村峯子、遠藤ミサ子、渡辺玲子、若林愛子、本間百合子、本間国恵、本間幸子、加藤京子、昭和27年3月卒53名 後藤信策、加藤昌弘、計良辰夫、本間信雄、計良信幸、計良金吾、本間清次、本間光延、若林繁夫、本間利春、遠藤怜、本間達也、本間満、石井武雄、歌励、本間盛市、若林吾一、本間達也、村岡昭夫、鈴木義晴、本間俊蔵、大豆生田忠、山崎正行、安達博、加藤カズ子、計良マサ子、本間静枝、本間婦美枝、高橋マサ子、本間美代恵、安達絹子、石井キミ、安達智恵子、山本桂子、後藤サヨ子、本間カホル、加藤トシコ、若林美保子、後藤和子、矢田トミエ、本間智子、稲辺潮子、関川美登里、本間玲子、本間奈緒美、松塚輝子、蔦市哲子、梶田潮子、門間千枝子、本間マサ、清水利忠、太田哲也、本間紀子、昭和28年3月卒38名 加藤壮一、本間慶三、計良秀明、金子洋一、野上辰之進、計良昭司、大塚稔、若林浩、安達勇生、本間正明、若林賢一、佐々木武雄、後藤正和、萩原敬司、本田顕、梶田忠温、矢田学、関川和雄、本間清、本間敏明、金子紀久夫、芝村安夫、小鷹郁夫、本間一仁、小林勝一、石川千代美、計良ルリ子、本間美保子、関川彬子、村岡寿子、齋川輝子、本間由美子、高橋弘子、小村香枝子、市橋和子、若林佐紀子、橋本綾子、本間秀夫、昭和29年3月卒38名 白井武文、松塚愛秋、本間哲也、大久保嘉勇、計良子喜一、安達和彦、本間忠、本間道夫、安達匡、村岡紀男、梶田忠志、中山龍雄、関川宏、遠藤勇一、稲辺強、本間寛治、萩原孝男、本間直雄、本間ケイ子、西田孝子、若林幟子、石井弘子、梶田チヅ、小鷹誠子、萩原キミエ、旧木美恵子、石塚千代子、池悦子、関川昌子、本間まり子、三浦ミスエ、稲辺由美子、後藤一昭、矢田健典、村岡俊男、安藤修司、若林良俊、矢田米治、昭和30年3月卒47名 計良正夫、石井義也、安藤正英、関川英樹、本田進、安達政司、齋川洋一、清水信行、本間徳雄、本間二三仁、計良力男、本間義輝、本間芳樹、大豆生田晋、名畑義男、萩原昌一、関川富士夫、若林秀雄、本間正行、近田貫一、加藤隆志、石井嘉晴、松塚訓友、関川英雄、石井政善、本田巖、桜田洋一、高橋正成、若林秀生、本間孝子、本間幸子、計良陽子、本間恵智子、本間信子、関川八重子、若林敬子、萩原里枝、本間早智子、小村多嘉子、若林節子、遠藤正枝、本間照、若林光子、本間誠子、本間俊枝、後藤豊子、桜田隆子、昭和31年3月卒42名 計良栄二郎、野上富広、歌

盛夫、清水章弘、遠藤信二、本間勝幸、歌武臣、計良尊文、臼木光男、梶田堅亮、加藤昌則、本間弘、芝村行男、矢田誠、齋藤建夫、榎政雄、松塚祐治、若林富子、本間洋子、後藤チヨミ、本間正子、本間悦子、本間千恵子、加藤靖子、遠藤仲子、本間エイ子、本間京子、本間利津子、本間佐和子、池芳江、田中ミチ子、本間久代、本間成子、梶田裕子、村岡輝子、萩原ヒロ子、中山弘子、関川泰子、小野崎恵子、安藤嘉代子、小村みつ子、本間吉方、昭和32年3月卒47名 後藤恒雄、後藤政夫、高橋一夫、松塚由之、本間正憲、遠藤征吾、安達忠夫、石井貞夫、本間由昭、松林繁、本間正康、石井良一、本間修、本間一久、本間稔、萩原敬輔、金子泰夫、萩原両喜用、本間正博、稲辺秀彦、本田功、本間忠昭、本間邦芳、本間政一、辰間辰雄、若林勇、松塚章、若林一、計良総子、松塚美恵子、小広千鶴、安達幸子、本間ミチ子、大塚光子、計良佐紀子、小柳雅子、近藤礼子、本間靖恵、矢田幸子、本間洋子、中沢淳子、小鷹弘子、若林栄子、梶田俊美、南和子、桜田正子、本田勤、昭和33年3月卒33名 加藤孝克、本間剛人、松塚重樹、本間孝綱、後藤雅之、本間正克、本間輝延、石井伊佐夫、本間弘嗣、安達義博、本間駿介、本間佐十弘、本間佳昭、計良幸男、関川哲郎、安達淳二、金子勉、関川裕策、若林孝哉、計良唱子、安達智子、本間富美子、石井スミ子、安達瞳、安達淳子、石井貞子、遠藤正子、名畑信子、村岡弘子、本間八重子、本間迪子、尾上明子、亀井良夫、昭和34年3月卒38名 計良忠一、金子亮二、計良信好、若林通光、若林英一、石塚康昭、本間康雄、本間佐久磨、杉本正俊、村岡了、村岡稔、若林鋼二、関川清明、若林宏亮、本間正敏、金子富士夫、本間ヨウ子、本間志保子、加藤美佐子、石井明子、石井和子、若林厚子、本間京子、後藤弘子、菊地文子、高橋清美、桜田涼子、臼木八重子、萩原ヒロミ、梶田和美、本田秋美、本間瑠美子、安藤静子、石井美恵子、安藤公子、小村都代子、計良公子、石黒良子、昭和35年3月卒59名 松塚治嘉、後藤則之、菊地昭秀、本間永敏、本間隆延、小鷹善英、石井俊介、本間均、若林邦夫、小柳峯夫、若林愛郎、本田宏、梶田俊一、本田洋一、尾上昌之、遠藤民雄、池秀章、本間貞光、歌四郎、遠藤泰保、本間英世、安達満英、本間俊和、松本喜八郎、安達茂、名畑哲夫、若林俊一、本間正則、本間仁、本間昭雄、本間修平、本間幹男、柳本博久、後藤洋子、後藤章子、計良美晴、本間マサエ、本間明美、本間トシ子、計良智恵子、本間昌子、村岡睦子、関川伸子、萩原光子、関川光子、稲辺一枝、亀井トモ子、石井敬子、本間スミ子、加藤美千代、清水房子、後藤清子、若林宏美、矢田典子、後藤明子、萩原タエ子、溝口舒子、石井登代子、安達久美子、昭和36年3月卒37名 金子研三、加藤慎一、若林愛光、若林光夫、後藤敏和、遠藤信広、小鷹和紀、近田東一、児玉良和、桜田隆、本間豊治、村岡暁、本田豊、萩原正男、村岡秀夫、計良文雄、福島直子、林妙子、中島ムツ子、安達和子、本間典子、石井琴美、一色英美子、松林真千子、本間律子、榎本祥子、石井ひとみ、石塚千恵子、本間幸子、計良美芳、安達佐知子、臼木由美子、関川康子、計良よしみ、本間敏子、小村幸江、矢田千寿子、昭和37年3月卒56名 計良正司、加藤儀博、清水義明、後藤光哲、近藤栄博、石井敏明、後藤俊晴、計良光則、本間芳明、後藤真一、名畑彰、萩原治、亀井孝史、本間政男、松塚正信、池和章、大塚弘、本間秀樹、小柳房夫、小鷹賢正、若林孝典、本間信行、本間衛、青柳光芳、本間康夫、安藤富夫、本間まち子、加藤すみ子、本間勝子、本間さよみ、安達敏子、高橋清子、関川典子、本間秀子、遠藤正枝、加藤秀子、石井敬子、萩原とし子、本間朝子、尾上洋子、後藤隆子、後藤和子、哥ふき子、本間節代、計良紀子、若林千代栄、笠井涼子、計良政枝、本間美恵子、加藤さと子、溝口涼子、若林康子、萩原みよし、関谷美知子、若林久美子、計良好秀、昭和38年3月卒29名 本間信博、高橋求、小村明、本間茂富、本間芳春、本間秀夫、本間寿久、近田峰夫、計良武、菊地啓一、石塚政明、関川喜三、関川一雄、北見清貴、小鷹八州光、若林留美子、石井克美、松林とも子、松本佐千枝、安達鈴子、田中曜子、村岡節子、本間秀美、矢田佐千子、高木幸枝、関川京子、本間清子、安藤文子、青柳芳江、昭和39年3月卒25名 石井孝良、計良幸雄、石井誠一、本間栄二、後藤和義、後藤明弘、遠藤武彦、溝口俊夫、村岡信博、本間敏也、本間泰則、本間勝弥、計良勝博、小田誠吾、本間聡美、石塚和子、本間睦子、若林千秋、本間せつみ、若林恵利子、野上妙子、本間周子、加藤洋子、笠井智子、若林真千子、昭和40年3月卒43名 本間勝、本間徹、本間郁夫、松本茂喜、本間正秋、後藤学、高橋健一、本間寿延、加藤芳夫、若林博之、本間祥治、本間文男、村田康夫、本間時彦、本間広樹、安達敏勝、村上光弘、若林邦久、小鷹正弘、豊木豊、須貝寛、名畑直美、計良幸子、計良良子、本間琴枝、加藤もと子、計良加代子、計良和子、安達里子、石井京子、若林禅子、石井弥生、亀井桂子、本間弘美、安達厚子、後藤輝子、本間真知子、加藤恭子、若林信子、安藤さと子、萩原なおみ、菊地純子、矢田恒雄、昭和41年3月卒32名 加藤悌治、加藤恒雄、小鷹隆哉、計良信夫、本間義和、本間俊齐、本間俊一、本間康弘、本間政市、本間康雄、若林季治、本間幸雄、石塚秀雄、高橋利男、矢田長幸、石塚誠子、加藤さえ子、小鷹香奈江、計良世津子、関川美智子、高橋明美、計良信子、萩原友子、本間光枝、本間恵美子、本間直子、本間きよ枝、本間けい子、矢田敬子、小林久美子、小山千代江、本間美恵子、昭和42年3月卒29名 本間いづみ、高橋治之、本間嘉広、栄山東一、計良嘉宏、中山明彦、浜田一栄、石井嘉久、加藤明夫、菊地武光、安達幸夫、安達光政、田原勇、金森賢治、池朋子、本間和美、笠井敦子、石井靖子、菊地多桂子、本間寿子、計良テルミ、北見陽子、加藤恵子、計良信子、本間スミエ、山平理恵子、若林みゆき、関川まゆみ、後藤佐和子、昭和43年3月卒38名 本間重典、加藤善員、本間雅文、後藤真木夫、安達英治、本間芳川、安達和明、遠藤久昭、山本英夫、若林伸之、村上行孝、本間哲也、本間芳幸、本間秀一、中村毅、石塚裕司、関川篤、関川康弘、稲辺小太郎、小山登、計良ひとみ、若林康子、松本節子、計良洋子、本間典子、本間律子、計良和子、本間みや子、近藤恵子、野上愛子、佐藤好美、本間節子、溝口まり子、村岡三枝子、伊里しのぶ、本間庸子、本間和美、本間晴美、昭和44年3月卒36名 本間邦夫、菊地隆、菊地和好、遠藤俊二、榎義弘、安達博孝、本間将重、石井三雄、本間保、加藤透、菊地哲明、須貝努、田原賢二、本間栄二郎、桃井秀和、石塚嘉之、本間和博、本間正純、斉藤俊明、計良京子、本間良子、本間美幸、本間祐子、石井礼子、本間光子、遠藤美代子、石黒雅代、若林奈保子、本間綾江、若林和子、萩原孝子、高橋敬津子、関川直子、斎川康子、本間恒也、浜田康男、昭和45年3月卒24名 本

間繁樹、石井忠善、本間章弘、本間亨、関川秀一、山本茂夫、若林三紀夫、安達敏文、本間寿永、加藤秀之、大谷剛一、計良節子、本間典子、本間千草、安達なお子、斎藤久美、本間輝子、本間裕子、本間直子、若林江里子、若林桂子、村上文子、田辺真由里、矢田祐子、昭和46年3月卒19名 本間博文、本間満夫、本間敏明、石黒久和、鈴木新一、本間昭博、若林亨、斎川裕、中村徹、安達栄次、本間博之、小鷹隆一、佐野昌道、油石正、矢田文博、安達登美子、遠藤秀子、石井京子、村岡達子、昭和47年3月卒28名 計良寛、本間成夫、哥則夫、菊地伸和、安達英夫、本間吉昭、中山和成、若林稔康、安達正博、岩崎憲士、石井誠、加藤純子、本間晶子、本間規子、本間由美、後藤留美子、清水徳子、伊里昌子、関川絹子、本間みゆき、後藤尚子、計良恵美子、加藤雅子、本間純子、若林辰江、若林栄末子、後藤久美子、本間智子、昭和48年3月卒19名 大谷貴郎、加藤徹、計良文男、鈴木忠、萩原喜久男、本間明男、本間一紀、若林則男、若林英則、斎川博、本間広巳、斎藤利花、高橋ひとみ、長原美恵子、福山裕子、本間さなえ、本間ひろみ、田邊由佳利、矢田かおる、昭和49年3月卒17名 遠藤正典、本間敬、田中高之、加藤幹夫、本間克彦、関川義明、桃井克佳、松村雄二、村上智徳、若林祐子、石井美也子、本間照代、本間若江、安達郁子、矢田千秋、村岡恭子、若林敬子、昭和50年3月卒15名 後藤広久、哥安祐、安達博行、本間俊典、矢田明彦、山平定之、矢田浩、箕輪猛、若林芳枝、伊里郁乃、計良ヤス子、若林よしえ、青柳義子、油石信子、後藤豊子、昭和51年3月卒23名 田中久義、加藤克己、菊池秀明、本間東三夫、安達英彦、梶田武志、萩原誠一、本間豊隆、青柳庄一、稲辺茂樹、福山貴博、岩崎由紀子、臼木直子、三浦美好、若林純子、榎多津江、清水泉、後藤直子、本間明美、安達孝子、石井園子、本間和子、田中まゆみ、昭和52年3月卒22名 若林信一、松塚俊彦、本間弘樹、後藤康志、本間竜哉、石井佳幸、安達浩一、矢田長智、村岡弘保、関川繁夫、織田朝章、長原政由、石井哲子、本間睦子、小鷹真由美、本間千代子、市橋佳子、矢田陽子、本間憲子、本間孝子、本間みち代、村岡奈保子、昭和53年3月卒19名 伊里憲敏、三浦義英、若林泰行、後藤桂一、若林伸弘、石井京介、安達徹、本間浩、高橋誠、梶田洋二、油石広宣、松原也寸志、臼木弘子、入江真紀、哥里子、清水敦子、関川理恵子、関川美江子、若林加代子、昭和54年3月卒20名 加藤智昭、市橋範一、南健一、萩原保雄、矢田利樹、岩崎英雄、酒匂伸也、本間仁義、金子雄二、斎藤圭生、後藤洋子、石井ひとみ、萩原陽子、萩原美恵子、青柳てるよ、中山映子、本間幸代、杉本攝子、磯部雅久子、生野契子、昭和55年3月卒27名 若林利雄、稲辺洋樹、本田和彦、本間雅弘、安達洋一、本田聡、村岡浩二、村岡通功、尾崎航、後藤修、小村尚哉、関川雅子、岩崎真由美、石井美由紀、計良秀美、小鷹裕子、本間ますみ、本間久恵、本間千代美、本間佳織、伊里尚子、本間貴子、若林美香子、近田真由美、中川まゆみ、生野容子、渡辺久美子、昭和56年3月卒17名 石井弘樹、梶田和明、後藤裕一、関川理英、南伸太郎、本間全、本間一夫、本間文祐、本田博、水沼倫幸、石井美紀、梶田なおみ、佐川真紀、中川明子、萩原ヒロ子、野上淳子、本間ゆかり、昭和57年3月卒26名 安達光浩、安達哲雄、安達克己、金子定治、計良雅章、杉山勝宣、田辺章、谷川和則、平澤努、本間裕康、佐藤雅宏、加藤一美、金子直美、小村純子、酒匂るみ、齋川結花、杉本聡子、中川里香子、萩原潤子、本間純子、本間真弓、矢田純恵、矢田京子、山崎裕美子、若林和美、若林智恵、昭和58年3月卒21名 石井和生、遠藤裕之、加藤勝司、計良勇一、萩原隆行、本田健、本間健司、生野志雄、安達弘子、石井涼子、後藤知佳子、後藤美穂子、齋川恵、齋藤千登勢、野上智子、本間華奈子、本間弘美、本間路子、本間めぐみ、松塚智恵子、矢田昭子、昭和59年3月卒27名 石井雅生、金子浩義、北見吉永、鈴木教生、武井成夫、本間直樹、本間正隆、本田健二、本田敏彦、水沼敏寛、矢田力也、菊池貴司、大平健治、齋藤哲也、安藤貴代、安藤智子、加藤真由美、計良有美、後藤貴子、若林香里、近田美紀子、本間桂子、松塚里香代、三浦千鶴子、村岡暁代、若林真由美、若林良子、昭和60年3月卒34名 菊地寛士、計良好昭、杉山敦彦、高橋英貴、野元道浩、舟崎泰之、本間明、本間孝之、本間貴広、本間正彦、光岡裕司、矢田好則、山口弘樹、若林孝一、渡辺真二、渡辺貴宏、高橋展明、岩崎照代、梶田美代子、金山摂子、計良つかさ、計良真由美、杉本慈子、中川マサ子、那須野裕美、萩原佳代子、本間博子、本間富美代、本間直子、本間美恵、村岡稔子、村上洋子、本間恵利子、佐藤夕香、昭和61年3月卒27名 安達好宏、石井拓也、石井敏智、遠藤直樹、加藤敬広、計良裕章、後藤和宏、鈴木章弘、関川正樹、高野雄一、本間佐貴人、本間匡明、本間英晃、矢田正人、若林正樹、馬道忍、大矢美香、菊池江里、坂本千枝、中川飛香、本間久美、本間幸子、本間千恵子、本間弥寿子、村岡陽子、矢田裕美、若林みゆき、昭和62年3月卒31名 石川裕一、大林正明、梶田栄一、金井圭一、計良司道、後藤正義、佐藤明、高崎剛、中川智也、野元達修、萩原寿宣、本間裕久、本間正基、南祐司、山本竜也、若林和弘、若林剛、渡辺俊晴、中川光志朗、安達友紀、石井文恵、岩崎絹代、大久保歩希江、金井亜季、後藤和美、本間明美、本間織恵、本間サオリ、松本由美子、山口晴美、若林えみ、昭和63年3月卒39名 安藤武宏、石井俊之、馬道洋介、金子泰之、北見克昭、小杉昌克、斎川治、斎川太、坂牧良春、高野光章、高橋政臣、萩原美喜男、藤井正則、本間正仁、本間俊也、本間哲、本間篤志、柳本芳成、安達加苗、安藤佐弥佳、今井麻実、大平陽子、河口真由美、坂本なつき、鈴木ナオミ、関川裕子、中川サユリ、西崎光代、古林宏美、本間由加里、本田有美、本間睦子、本間明子、本間真由美、本間智美、八尋瀧志穂、山口康子、若林美保、吉田久美子、平成元年3月卒23名 石井健允、臼杵一博、馬道智生、後藤孝、高野勝弘、中川要、萩原健広、山本直樹、山本将義、若林博幸、若林利作、安達真純、安達由紀美、石井美香、遠藤由紀子、大林由加子、兒玉真由美、後藤恵、野上裕子、本田結香、本間雅美、芳田繭子、若林陽子、平成2年3月卒25名 加藤一巳、金子哲也、小杉裕二、後藤英明、鈴木ゆたか、中坪裕樹、中野智之、古林悟、本間剛、本間英行、本間俊、矢田妃俊、八尋瀧忠、若林拓郎、安達直子、安達未奈、風間真貴子、金井美奈、小鷹麻紀子、後藤智子、丹保玲、藤澤佳代、本間やよい、矢田恭子、柳本美奈子、平成3年3月卒16名 計良勝之、高野博行、本間功、本間佐登瑠、本間卓朗、矢田理樹、吉田邦民、安達さおり、石井美恵子、今井幸代、岩崎香理、大矢真由美、小林由紀、後藤寛子、芳田江梨子、若林美香、平成4年3月卒20名 榎恭利、計良宏昭、齊

吉利夫、坂本一文、本間純一、本間俊樹、本間正義、三浦克典、安達由香、臼杵幸子、小関祐子、後藤理恵、内藤清美、中川由起子、本間美春、松塚央光、松塚真砂美、若林亜希子、若林ユカリ、本田由香、平成5年3月卒19名 小鷹正葵、後藤京孝、坂下守、鈴木実、中川拓也、本間大樹、本間正紀、渡辺哲哉、赤塚哲也、栄山未和、上村あゆみ、後藤まどか、丹保玲奈、本間アユミ、本間香澄、本間桂子、本間冴子、溝口綾子、芳田かおり、平成6年3月卒21名 大久保昌至、加藤洋平、河口聖英、計良勝彦、齋藤剛、関口隆之、内藤敬、藤井敬行、本間孝之、本間正人、若林健二、石塚江梨、栄山亜衣、加藤真耶、川原樹子、計良由香里、小杉絵美、関川晴子、中川優子、本間美香、本間優樹、平成7年3月卒18名 安達雅秀、石井洋輔、尾中司、兒玉大輔、佐々木大輔、西崎昌弘、舟崎克由、本間俊彦、本間成世、榎奈未、川口麗子、鈴木みつえ、高木優梨、中川明子、本間美佳、溝口智美、若林麻衣子、渡辺麻里子、平成8年3月卒23名 今井和紀、菊地心、後藤円、本田貴也、本間研、本間也寸志、村上健治、矢田要、矢田祐介、赤塚碧、安達めぐみ、石井真奈美、加藤綾、加藤のぞみ、菊池明日香、計良亜紀奈、高根日登美、中村茉莉、本間遙、丸山幸恵、山口孝子、吉田貴恵、渡辺峰子、平成9年3月卒25名 寛真彦、風間英昭、島倉宏昭、高野悟、寺島基稀、本間圭介、本間義章、本間義久、三浦聡史、三輪幸太、渡辺稔、石井裕子、榎知世、加藤聡恵、川原美咲、齋藤恵、関川晶子、瀬戸佐帆海、中下愛実、廣瀬優子、本間香菜、本間奈津美、本間優子、若林知恵子、若林紘子、平成10年3月卒17名 安達祐太、遠藤武志、金子真輝、中野洋志、永野正樹、本間真彦、丸山容平、村上隆浩、栄山千夏、島倉久美、鈴木和世、高木明朱香、高野真友、土屋あすか、本田ちとせ、本間春香、渡辺知恵子、平成11年3月卒21名 間拓海、石井貴章、風間信吾、風間有、加藤文哉、加藤優、菊池伸明、齋川庄太、清水和彦、細川朋章、本間晃一、岩崎有理、遠藤香奈、川端富恵、小山直美、後藤梨沙、寺島愛姫、本間綾子、本間香名芽、本間朗子、三輪志織、平成12年3月卒22名 明田川俊、石井直樹、岡村廉、加藤匡人、川端允員、齋川昂太、佐々木雅俊、島倉正行、中下一樹、松塚健太郎、小川美奈未、加藤桃子、川原みゆき、菊地美穂、鈴木めぐみ、田辺友里、中村英莉、永野梨紗、本間早也加、丸山紗織、三輪綾、村上弘恵、平成13年3月卒17名 間紗有美、安達真弓、石井高志、石見沙紀、遠藤一樹、遠藤真知子、風間匠、齋藤まなみ、田辺夏希、中川敏子、本間恵、本間友貴、本間由加里、本間義昭、三輪慶太、山岸雄太郎、若林樹生、平成14年3月卒13名 臼木悟、岡村結、加藤直、後藤佑希、齋川慧太、佐々木晶規、清水麻由美、田中健斗、本間藍夏、本間友弥、本間奈央、三浦良輔、桃井かおり、平成15年3月卒8名 磯西愛、臼木祐也、多田舞、風間聡志、金子亜里沙、鈴木あゆみ、永野達恭、永野寿樹、平成16年3月卒11名 今信ヘレン千秋、岩崎光紀、岡村操、小竹遼、加藤涉、田中直也、長谷真宏、本間彩花、村尾祐樹、若林理奈、DOZONOLUIZHENRIQUEJUNIOR、平成17年3月卒9名 安達彩香、多田凌、加藤諒、齋藤麻優香、田辺安奈、長島彩香、本間巧美、本間雄大、本間吉徳、平成18年3月卒11名 石井由美、磯西瞳、大坪翔子、小竹洸、梶田真里、計良勇望、関川優也、長島崇弘、本間彩花、本間愛美、本間莉奈、平成19年3月卒12名 岩崎伸哉、大塚菜摘、粕谷唯斗、計良天太、計良睦希、小池憲矢、後藤綾香、本田愛莉、本間大貴、本間めい、本間亮太、村田正実、平成20年3月卒11名 生田理紗子、今信大介、臼木龍次、大林真優、織田ゆりか、亀井英李佳、計良郁実、鈴木直哉、本間拓実、松本龍弥、余湖央進、平成21年3月卒19名 安達香代、大坪康平、大林友香、岡村雛、梶田樹生、粕谷大毅、加藤匠、加藤瑞妃、川上祥、計良杏奈、齋藤恵美理、高橋義之、中川晴奈、仲間巧、長島七瀬、長谷和季、祝翼冴、本田夏菜、本田秀美、平成22年3月卒16名 青柳桃香、石井亜美、石井花林、稲辺実典、大地香澄、後藤菜々花、齋藤悠太、柴田冴茶、柴田風七、高橋咲彩、尾藤恋菜、祝颯人、本間ゆり奈、松本昂諒、村尾航大、若林真伯、平成23年3月卒16名 石井沙弥、磯西真子、粕谷誉史、川上彩、中川桃子、本田健一、本田七海、本田百花、本間舞乙、本間隆太、村尾雪乃、山本彩加、余湖永合加、若林海斗、渡邊彩音、渡辺綾乃、平成24年3月卒20名 阿部夏輝、石井真美、石川純亜、稲辺ゆり香、岩崎妃香、哥彩乃、加藤瑛、計良未来、小池拓哉、中川泰誠、仲間紫音、本田香代子、本間くるみ、本間貴也、本間豊、増金拓也、村田直樹、柳本登偉、山本寛太、若林玲伯、平成25年3月卒15名 青柳隼人、石井王子、大林泰晴、川端麻衣、計良知希、柴田美影、高橋玲南、田中翔、鶴間拓海、中川孝介、本田一翔、本間美有、山本裕太、余湖正崇、渡邊葉、平成25年3月卒10名 石井優妃、稲辺聖良、大地駿平、後藤緋和、駒形蓮、本間達也、本間祐伊、山本遊太、渡邊あづみ、安達知世、平成27年3月卒14名 阿部博斗、稲辺潤平、金子奈緒、近藤万桜、佐々木美紀、高木志帆、高橋樹、鶴間菜帆、尾藤龍之介、本間郁海、本間翔、本間拓美、山本菜月、渡邊梨音、平成28年3月卒6名 安達茂樹、石井聖華、近藤慎一郎、齋藤圭佑、本間詩織、渡邊駿太郎、平成29年3月卒8名 石井奈々世、伊藤海翔、梶田夏紬子、近藤可莉枝、近藤結希、高木向日葵、内藤光、平山琉、6年生8名 安達謙太、池田妃那、石井彩女、稲辺光梨、馬道沙矢乃、本間さくら、本間結、本田利希斗、5年生8名 梶田馨生、菊池優希、近藤みわ、齋藤心愛、中山愛莉、本間瑞希、山本涼介、若林那菜、4年生14名 安藤陽菜、池田汐那、石川久礼亜、石塚玖礼遥、稲辺美穂、菊池凌生、齋藤楓、佐藤季璃、佐藤悠斗、内藤聖、萩原央翔、平山那央、本間弘道、若林歩夢、3年生10名 伊藤柚璃、倉内茉優、齋藤大翔、高橋ひまり、鶴間心陽、中川太陽、中山泰星、平山葵里、古川雫、本間愛海、2年生10名 加藤宙斗、菊池晴葵、高木萌衣、本間瑛一朗、本間源一郎、本間匠瑛、本間結希、矢田茉祐、山本莉瑚、吉田鉄生、1年生11名 石塚麗李、馬道涉瑠、大川奏多、齋藤友都、鶴間才羽、中川月翔、中山幸輝、萩原彬良、本間貴義、本田蘭奈、若林結希

特別寄付者名簿 * 通帳への入金順

山崎勝之(現校長)・田辺茂(元校長)・磯西勉(元育成会会長)・本間章平(元分館長)・本間薫(元議会議員)・本間重典(元分館長)・若林才一(百周年副実行委員長・元PTA会長)・村岡敬弘(美術賞寄付者)・本間悦太郎(元教育長・元佐和田町助役)・後藤雅之(いじめ対策実行委員)・若林としみ(主任児童委員)・若林俊男(元分館長)・後藤五男(民生委員児童委員)・小野栄(元校長)・本間秀雄(元校長)・遠藤久昭(元PTA会長)・田辺茂(元校長)・大林和昭(元育成会会長)・山口学(旧職員)・本間攻(元公民館長)・金子正義(元高校校長)・本間まゆみ(民生委員児童委員)・稲辺茂樹(元議会議員)・後藤久平(元佐和田町収入役)・本間正博(功労者表彰・元分館長)・安達栄一(元PTA本部役員)・本間救(元八幡町総代)・中道静枝(旧職員)・萩原弘(功労者表彰・元分館長)・清水義明(スクールガードリーダー)・銅郁夫(元校長)・渡辺喜信(元教員)・中川昭一(民生委員児童委員)・飯塚邦明(元校長)・本間俊和(民生委員児童委員)・本間俊一(学校関係者評価委員)・本間浩(八幡銀杏の会会長)・本間康弘(学校関係者評価委員)・北川康子(旧職員)・小泉豊信(元校長)・大和哲夫(元校長)・中村毅(民生委員児童委員)・鶴間基宏(元PTA会長)・風間喜一郎(元分館長)・長谷川春生(旧職員)・池田高明(現育成会会長)・高橋政臣(元育成会会長)・金子邦朗(功労者表彰・見守りボランティア)・本間俊(現PTA会長)・本間雅人(元育成会会長)・渡部栄二(元校長)・佐々木大輔(現八幡青年会会長)・内藤友和(元PTA会長)・関川秀明(元佐和田町収入役)・関川秀一(卒業生)・中川直子(卒業生)・中川拓也(元八幡青年会会長)・飯田徹(旧職員)・本間正義(元育成会会長)・本間正彦(元PTA会長)・渡辺一哉(元PTA会長)・後藤孝治(現自治会長)・本多アヤ子(旧職員)・祝孝之(元PTA会長)・本間一秀(旧職員)・計良雅章(創立130周年実行委員長)・高橋健一(元PTA会長)・若林俊孝(元PTA会長)・計良勇一(現分館連絡協議会会長)・若林信一(現PTA副会長)・石井京介(元PTA会長)・八幡銀杏の会・本間東三夫(銀杏の会名誉会長)・平山栄祐(保護者)・本間博子(旧職員)・清水美佳子(旧職員)・粕谷唯斗(卒業生)・石井浩平(元保護者)・川上純子(旧職員)・近藤洋子(旧職員)・土屋隆子(旧職員)・新発田靖(元校長)・庄山佳代子(旧職員)・伊藤喜一(元校長)・村田恵子(旧職員)・池田雄彦(元校長)・原昌(元校長)・柳本博久(元PTA副会長)・梶田和明(卒業生)

創立140周年記念事業実行委員会



実行委員会顧問



平成29年度 八幡小学校教職員



◆参考文献◆

- ・「八幡村史」
- ・「佐和田町史」
- ・平成7年改訂版(「初版昭和45年」)「わたしたちの八幡」
- ・佐和田町開町50周年「50年の記憶」
- ・昭和52年12月「八幡小学校同窓会名簿・百年史年表」
- ・「八幡町の歩み」十日会編
- ・「八幡小学校沿革誌」